

第  
40  
集

日高市埋蔵文化財調査報告書 第40集

王

神

# 王 神

日  
高  
市  
教  
育  
委  
員  
会

2019

埼玉県日高市教育委員会

## あ い さ つ

J R川越線武蔵高萩駅の北側は市街化調整区域で、畑と水田が広がる農村風景が見られる地域でした。その一方で武蔵高萩駅周辺では、大規模な宅地開発や無秩序なミニ開発による宅地開発が見られるようになりました。そのため日高市では、武蔵高萩駅北に広がる地域の健全な市街地の形成と商業機能の向上と潤いのある住環境の整備を目指して、平成5年度から武蔵高萩駅北土地区画整理事業を行っております。

武蔵高萩駅北土地区画整理事業地内には拾石遺跡、王神遺跡、堀ノ内遺跡の3遺跡が所在します。いずれの遺跡も奈良・平安時代の集落として登録されている遺跡です。区画整理事業に伴い平成5年度から発掘調査を行っております。拾石遺跡からは奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡、道路遺構、水路などが検出され、「厨」など多量の墨書土器、巡方、丸軋などの遺物が注目されています。堀ノ内遺跡では旧石器時代、縄文時代中期の住居址、奈良・平安時代の住居址、掘立柱建物跡、中世以降の建物跡など様々な時代の遺構が検出されています。王神遺跡からは奈良・平安時代の住居跡51軒、掘立柱建物跡29棟、井戸址8基などが検出されています。

今回報告するのは平成8、14年度に実施した奈良・平安時代の住居址14軒、掘立柱建物跡1棟、井戸址3基、道路遺構1条、水路1条、溝2条、土壇12基の調査報告書です。全国的に出土例が少ない鳥形硯の出土は古代高麗郡と中央との関係を考える上で重要な資料を得ることができました。そして碁石状土製品は、古代の遊戯を知る貴重な資料と言えるでしょう。

本書が広く活用され、郷土愛そして文化財保護の向上に役立てば幸いです。発掘調査そして報告書の刊行にあたりご協力いただきました文化庁、埼玉県教育局文化資源課、日高市、区画整理課、日高市遺跡調査会をはじめ多くの市民の皆さん、発掘調査に従事いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

令和元年9月

日高市教育委員会  
教育長 中 村 一 夫

# あ い さ つ

武蔵高萩駅北土地区画整理事業に伴い、平成8年度と平成14年度に実施した王神遺跡の調査報告書です。

本書には、奈良・平安時代の住居址14軒、掘立柱建物跡1棟、井戸址3基、道路遺構1条、水路1条、溝2条、土壙12基を掲載しました。

発掘調査では貴重な資料が出土しましたが、6号住居址から形象硯のひとつの鳥形硯の蓋が出土しました。鳥形硯の出土は全国的にも少なく、関東では府中市の武蔵国府関連遺跡の出土だけです。甲信越地域では塩尻市の菖蒲沢窯跡だけで、東日本での出土は極めて貴重な資料です。鳥形硯の主な出土地は平城宮、斎宮などの官衙、その他に愛知県の窯跡からです。特殊な硯の鳥形硯が出土したことは、古代高麗郡と中央との関係を考える上で重要な資料となるでしょう。

1号住居址出土の碁石状土製品は、囲碁をはじめとする古代の遊戯を知る上で貴重な資料です。常木久保遺跡8号住居址からも碁石状土製品が出土しており、貴族、僧侶、役人などの文化人以外の人々にも広く普及していた可能性が考えられます。

発掘調査は当時の人々の生活を復元し、地域のアイデンティティの源となる歴史、文化を知るための大切な調査です。

本報告書が日高市の歴史を明らかにする資料として広く活用され、郷土愛そして文化財保護の向上に役立てば幸いです。

発掘調査そして報告書の刊行にあたりご協力いただきました文化庁、埼玉県教育局文化資源課、日高市、区画整理課、日高市教育委員会をはじめ多くの市民の皆さん、発掘調査に従事いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

令和元年9月

日高市遺跡調査会

会長 新井孝重

## 例 言

1. 本書は埼玉県日高市大字高萩字王神、中王神に所在する王神遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は武蔵高萩駅北土地地区画整理事業に伴って、日高市遺跡調査会が日高市より委託を受けて発掘調査を実施した。発掘調査報告書の刊行及び資料整理は日高市教育委員会が行った。
3. 発掘調査は、平成 8 年度と平成 14 年度に実施した。
4. 埋蔵文化財の発掘調査についての埼玉県教育委員会からの通知は以下のとおりである。  
平成 8 年 8 月 7 日付教文第 2 - 79 号  
平成 14 年 11 月 22 日付委保第 2 - 92 号
5. 発掘調査担当者は下記のとおりである。  
発掘担当者 平成 8 年度 松本尚也  
平成 14 年度 中平 薫
6. 出土遺物の資料整理の一部は調査を行った平成 8、14 年度と平成 23 年度に実施し、報告書の作成は平成 31 年度に行った。資料整理及び報告書作成は中平薫が担当した。
7. 挿図中の遺物番号と写真図版番号は一致する。
8. 遺構トレース、遺物トレース、拓本は新井敏子、勝山敏江、関恭子、野本真理子、渡辺敬子、長部孝子があたった。遺物実測、図版作成は中平薫が行った。
9. 遺物の実測及びトレースの一部は、平成 23 年度緊急雇用創出基金事業で株式会社東京航業所が行った。
10. 本書の編集及び執筆は中平薫が行った。
11. 発掘調査及び資料整理に関して次の諸機関よりご指導、ご協力を得た。厚く感謝する次第である。(敬称略、順不同) 埼玉県教育局文化資源課、埼玉県埋蔵文化財調査事業団

発掘調査組織 日高市遺跡調査会

顧問	橋口 尚武（日本考古学協会員） 平成4～12年度	理事	石田 敏夫（日高市文化財審議委員長）平成4～18年度
会長	犬竹 郷美（日高市教育委員会教育長）平成4～11年度 大沢 幸夫（日高市教育委員会教育長）平成12～17年度 新井 孝重（日高市文化財審議委員長）平成18年度～		瀧澤 鐵男（日高市文化財審議委員）平成4～16年度 浅見 厚（日高市文化財審議委員）平成4～16年度 新井 孝重（日高市文化財審議委員）平成5～17年度
副会長	清水 香洋（日高市教育委員会教育次長）平成4～6年度 宮澤 整司（日高市教育委員会教育次長）平成7～9年度 栗原 功（日高市教育委員会教育次長）平成10～12年度 中村 忠夫（日高市教育委員会教育次長）平成13年度 小林 武（日高市教育委員会教育次長）平成14、15年度 吉澤 茂（日高市教育委員会教育次長）平成16～18年度 伊藤 輝雄（日高市教育委員会教育次長）平成19年度 伊藤 輝雄（日高市教育委員会生涯学習部長）平成20年度 大野 博（日高市教育委員会生涯学習部長）平成21、22年度 飯田 昇（日高市生涯学習部長兼生涯学習課長）平成23、24年度 新井 義雄（日高市教育委員会教育部長）平成25、26年度 野村 泰平（日高市教育委員会教育部長）平成27、28年度 関口 正明（日高市教育委員会教育部長）平成29年度 吉野 靖彦（日高市教育委員会教育部長）平成30年度～	監査	高麗 文康（日高市文化財審議委員）平成17年度～ 野川 康雄（日高市文化財審議委員）平成19～27年度 新井 敏子（日高市文化財審議委員）平成29年度～ 武藤 暢夫（日高市文化財審議委員）平成7～12年度 野口 隆行（日高市文化財審議委員）平成15～28年度 新井 聡（日高市文化財審議委員）平成17～30年度 野川 康雄（日高市文化財審議委員）平成28年度～
		事務局	事務局長 加藤 保夫（日高市教育委員会生涯学習課長）平成5～7年度 滝島 久夫（日高市教育委員会生涯学習課長）平成8、9年度 砂川 一芳（日高市教育委員会生涯学習課長）平成10年4～6月 大野 博（日高市教育委員会生涯学習課長）平成10年7月～12年度 谷ヶ崎 照雄（日高市教育委員会生涯学習課長）平成13～17年度 伊藤 輝雄（日高市教育委員会生涯学習課長）平成18年度

	竹林 和雄（日高市教育委員会生涯学習課長）平成 19 年度	遠藤 聡（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当）平成 10、11 年度
	伊藤 輝雄（日高市教育委員会生涯学習部長兼生涯学習課長）平成 20 年度	松本 尚也（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当）平成 5 ～ 13、15 ～ 18 年度
	大野 博（日高市教育委員会生涯学習部長兼生涯学習課長）平成 21、22 年度	早川 修司（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当）平成 8 年度～
	飯田 昇（日高市教育委員会生涯学習部長兼生涯学習課長）平成 23、24 年度	調査担当者 中平 薫（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当主査）平成 14 年度
	堀口 敬（日高市教育委員会生涯学習課長）平成 25 年度	松本 尚也（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当）平成 8 年度
	中平 薫（日高市教育委員会生涯学習課副参事）平成 26 ～ 28 年度	調査作業員 平成 8、14 年度
	関根 俊介（日高市教育委員会生涯学習課長）平成 29 年度	青山大輔、新美穂、荒木田由利、伊藤常代、稲田桂子、遠藤和子、大野たき子、岡村登志枝、勝山敏江、神谷真知子、川島秀義、川田照美、神戸英子、岸野元子、倉本信代、小西千鶴枝、佐瀬栄子、汐月博美、関恭子、竹田静枝、田中桂子、柘植妙子、手嶋律子、藤樫涼子、中山秀子、萩野弥栄子、萩原由利、平野紀子、目黒祥子、森稔子、森山アイ子、安原典子、山浦晴枝、横山美智子、吉田祐三、若尾さよみ、渡辺敬子
事務局長補佐	野田 紀之（日高市教育委員会生涯学習課長補佐）平成 4 年度	資料整理、調査報告書刊行
	田中 猛（日高市教育委員会生涯学習課長補佐）平成 5 ～ 8 年度	日高市教育委員会組織
	佐久間 登（日高市教育委員会生涯学習課長補佐）平成 9 年度	教育長 中村 一夫
	中平 薫（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当主幹）平成 20 ～ 25 年度	生涯学習課長 駒井 実
	松本 尚也（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当主幹）平成 29 年度～	文化財担当主幹 松本 尚也
事務局員	中平 薫（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当主査）平成 4 ～ 19 年度	文化財担当主査 早川 修司
	松本 尚也（日高市教育委員会生涯学習課文化財担当主査）平成 20 ～ 28 年度	文化財担当 中平 薫（再任用）
		調査作業員 新井敏子、長部孝子

# 目 次

## 例 言

第1章 調査の経過	1	(6) 土壙	78
1：発掘調査に至る経過	1	3号土壙	78
2：発掘調査と資料整理の経過	1	4号土壙	78
第2章 遺跡の立地と環境	3	6号土壙	78
1：遺跡の立地と環境	3	7号土壙	81
2：遺跡の概要	5	8号土壙	81
第3章 遺構と遺物	7	9号土壙	82
(1) 住居址	7	10号土壙	82
1号住居址	7	11号土壙	82
2号住居址、1号土壙	13	12号土壙	82
3号住居址	18	(7) 水路	83
4号住居址、2号土壙	22	2号水路	83
5号住居址	25	第4章 まとめ	84
6号住居址	31	1：須恵器坏を中心とした編年	84
7号住居址、5号土壙	34	2：集落の変遷	88
8号住居址	37	3：碁石状土製品について	90
9号住居址	41	4：鳥形硯について	94
10号住居址	43		
11号住居址	50		
12号住居址	55		
13号住居址	61		
14号住居址	63		
(2) 掘立柱建物跡	69		
1号掘立柱建物跡	69		
(3) 井戸址	70		
1号井戸址	70		
2号井戸址	72		
3号井戸址	72		
(4) 道路遺構	72		
道路遺構	72		
(5) 溝	77		
1号溝	77		
2号溝	78		

## 挿 図 目 次

1. 王神遺跡調査区……………	2	35. 10号住居址カマド……………	45
2. 遺跡周辺図……………	4	36. 10号住居址出土遺物 (1)……………	46
3. 王神遺跡全測図……………	6	37. 10号住居址出土遺物 (2)……………	48
4. 1号住居址……………	8	38. 10号住居址出土遺物 (3)……………	49
5. 1号住居址北カマド 東カマド……………	9	39. 11号住居址……………	51
6. 1号住居址出土遺物 (1)……………	10	40. 11号住居址カマド……………	52
7. 1号住居址出土遺物 (2)……………	12	41. 11号住居址出土遺物 (1)……………	53
8. 2号住居址 1号土壙……………	14	42. 11号住居址出土遺物 (2)……………	55
9. 2号住居址カマド……………	15	43. 12号住居址……………	56
10. 2号住居址出土遺物 (1)……………	16	44. 12号住居址カマド……………	57
11. 2号住居址出土遺物 (2)……………	17	45. 12号住居址出土遺物 (1)……………	58
12. 3号住居址……………	19	46. 12号住居址出土遺物 (2)……………	60
13. 3号住居址カマド……………	20	47. 13号住居址 カマド……………	62
14. 3号住居址出土遺物……………	21	48. 13号住居址出土遺物……………	63
15. 4号住居址 2号土壙……………	23	49. 14号住居址 カマド……………	64
16. 4号住居址カマド……………	24	50. 14号住居址出土遺物 (1)……………	65
17. 4号住居址出土遺物……………	25	51. 14号住居址出土遺物 (2)……………	66
18. 5号住居址……………	26	52. 1号掘立柱建物跡 (1)……………	67
19. 5号住居址カマド1 カマド2……………	27	53. 1号掘立柱建物跡 (2)……………	68
20. 5号住居址出土遺物 (1)……………	28	54. 1号掘立柱建物跡出土遺物……………	69
21. 5号住居址出土遺物 (2)……………	30	55. 1号井戸址 出土遺物……………	70
22. 6号住居址……………	31	56. 2号井戸址 8号土壙 2号井戸址出土遺物 ……	71
23. 6号住居址カマド……………	32	57. 3号井戸址……………	72
24. 6号住居址出土遺物……………	33	58. 道路遺構 (1)……………	73
25. 7号住居址 5号土壙……………	35	59. 道路遺構 (2)……………	74
26. 7号住居址カマド……………	36	60. 道路遺構 (3)……………	75
27. 7号住居址出土遺物……………	37	61. 道路遺構出土遺物……………	76
28. 8号住居址……………	38	62. 1号溝 出土遺物 3号土壙 4号土壙 ……	77
29. 8号住居址カマド……………	39	63. 2号溝 出土遺物……………	78
30. 8号住居址出土遺物……………	40	64. 6号土壙 7号土壙……………	79
31. 9号住居址……………	41	65. 6号土壙出土遺物 7号土壙出土遺物……………	80
32. 9号住居址カマド……………	42	66. 9～12号土壙……………	82
33. 9号住居址出土遺物……………	43	67. 2号水路……………	83
34. 10号住居址……………	44	68. I期遺物……………	85

69. II、III期遺物	86	74. 鳥形硯出土遺跡	95
70. IV、VI、VIII期遺物	87	75. 鳥形硯1	96
71. 集落の変遷	89	76. 鳥形硯2	97
72. 碁石、碁石状土製品出土遺跡	91	77. 鳥形硯3	98
73. 碁石、碁石状土製品	92		

## 遺物観察表目次

1表 1号住居址出土遺物観察表	7	24表 10号住居址出土遺物観察表	50
2表 1号住居址出土遺物観察表	11	25表 11号住居址出土遺物観察表	50
3表 1号住居址出土遺物観察表	13	26表 11号住居址出土遺物観察表	54
4表 2号住居址出土遺物観察表	15	27表 11号住居址出土遺物観察表	55
5表 2号住居址出土遺物観察表	17	28表 12号住居址出土遺物観察表	57
6表 2号住居址出土遺物観察表	18	29表 12号住居址出土遺物観察表	59
7表 3号住居址出土遺物観察表	20	30表 12号住居址出土遺物観察表	60
8表 3号住居址出土遺物観察表	21	31表 12号住居址出土遺物観察表	61
9表 3号住居址出土遺物観察表	22	32表 13号住居址出土遺物観察表	63
10表 4号住居址出土遺物観察表	24	33表 14号住居址出土遺物観察表	66
11表 4号住居址出土遺物観察表	25	34表 14号住居址出土遺物観察表	69
12表 5号住居址出土遺物観察表	29	35表 1号掘立柱建物跡出土遺物観察表	69
13表 5号住居址出土遺物観察表	30	36表 1号掘立柱建物跡出土遺物観察表	70
14表 6号住居址出土遺物観察表	32	37表 1号井戸址出土遺物観察表	70
15表 6号住居址出土遺物観察表	33	38表 1号井戸址出土遺物観察表	72
16表 7号住居址出土遺物観察表	34	39表 2号井戸址出土遺物観察表	72
17表 7号住居址出土遺物観察表	37	40表 道路遺構出土遺物観察表	76
18表 8号住居址出土遺物観察表	39	41表 道路遺構出土遺物観察表	77
19表 8号住居址出土遺物観察表	40	42表 1号溝出土遺物観察表	77
20表 9号住居址出土遺物観察表	42	43表 2号溝出土遺物観察表	78
21表 9号住居址出土遺物観察表	43	44表 6号土壙出土遺物観察表	81
22表 10号住居址出土遺物観察表	44	45表 7号土壙出土遺物観察表	81
23表 10号住居址出土遺物観察表	47		

# 図 版 目 次

- 図版 1 1区空中写真 2区全景
- 図版 2 1号住居址遺物出土状況 1号住居址  
1号住居址北カマド遺物出土状況  
1号住居址北カマド  
1号住居址東カマド 2号住居址遺物出土状況  
2号住居址、1号土壙 2号住居址カマド
- 図版 3 3号住居址 3号住居址カマド  
4号住居址 4号住居址カマド  
5号住居址遺物出土状況  
5号住居址鳥形硯蓋出土状況  
5号住居址 5号住居址東カマド
- 図版 4 5号住居址北カマド 6号住居址遺物出土状況  
6号住居址（東側） 6号住居址（西側）  
6号住居址カマド 7号住居址  
7号住居址カマド遺物出土状況  
7号住居址カマド
- 図版 5 8号住居址 8号住居址カマド  
9号住居址遺物出土状況 9号住居址  
9号住居址カマド 10号住居址遺物出土状況  
10号住居址 10号住居址カマド遺物出土状況 1
- 図版 6 10号住居址カマド遺物出土状況 2  
10号住居址カマド  
11号住居址 11号住居址カマド遺物出土状況 1  
11号住居址カマド遺物出土状況 2  
11号住居址カマド  
12号住居址 12号住居址カマド
- 図版 7 13号住居址遺物出土状況 13号住居址  
13号住居址カマド 14号住居址遺物出土状況 1  
14号住居址遺物出土状況 2  
14号住居址鉄鏃出土状況  
14号住居址 14号住居址カマド
- 図版 8 1号掘立柱建物跡柱痕確認状況  
1号掘立柱建物跡
- 図版 9 1号井戸址 2号井戸址  
3号井戸址  
道路遺構硬化面（西より）  
道路遺構硬化面（中央～西側）
- 図版10 道路遺構硬化面下（西より）  
道路遺構硬化面下（東より）  
道路遺構  
1号溝 2号溝
- 図版11 3号土壙 4号土壙  
6号土壙 7号土壙  
9号土壙 10号土壙  
11号土壙 12号土壙
- 図版12 1号住居址出土遺物  
2号住居址出土遺物（1）
- 図版13 2号住居址出土遺物（2）  
3号住居址出土遺物（1）
- 図版14 3号住居址出土遺物（2）  
4号住居址出土遺物  
5号住居址出土遺物（1）
- 図版15 5号住居址出土遺物（2）  
6号住居址出土遺物  
7号住居址出土遺物  
8号住居址出土遺物
- 図版16 9号住居址出土遺物  
10号住居址出土遺物（1）
- 図版17 10号住居址出土遺物（2）  
11号住居址出土遺物（1）
- 図版18 11号住居址出土遺物（2）  
12号住居址出土遺物（1）
- 図版19 12号住居址出土遺物（2）  
13号住居址出土遺物  
14号住居址出土遺物（1）
- 図版20 14号住居址出土遺物（2）  
道路遺構出土遺物  
7号土壙出土遺物



# 第1章 調査の経過

## 1：発掘調査に至る経過

武蔵高萩駅の北側は市街化調整区域で、畑と水田が広がる農村風景が見られる地域だった。しかし、武蔵高萩駅周辺の環境も大きく変化し、大規模な宅地開発や無秩序なミニ開発による宅地開発が進みつつあった。そこで武蔵高萩駅の南北一体的なまちづくりを行い駅周辺の活性化を図りつつ、秩序ある街づくりを行うために駅前広場及び都市計画道路等公共施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図り、商業機能の向上と潤いのある住環境を形成して、健全な市街地の発展を目指すことを目的に土地区画整理事業を実施することとなった。

JR 川越線武蔵高萩駅に隣接し、JR 川越線の北側に位置する南北約 700 m、東西約 600 m にわたる 41.4ha の区域が平成 4 年 11 月 27 日に都市計画決定し、翌年の平成 5 年 4 月 1 日に事業決定された。事業名は川越都市計画事業武蔵高萩駅北土地区画整理事業である。

都市計画決定される前年度の平成 3 年度に事業地内に土地区画整理推進事務所が開設され、社会教育課と埋蔵文化財の取扱いについての協議を行った。

武蔵高萩駅北土地区画整理事業予定地内には、拾石遺跡、王神遺跡、堀ノ内遺跡が存在することを確認した。道路などの公共用地及び造成箇所については、記録保存のための発掘調査を実施し、埋蔵文化財の隣接については試掘調査を行い埋蔵文化財の所在を認めた場合は発掘調査を実施することとした。

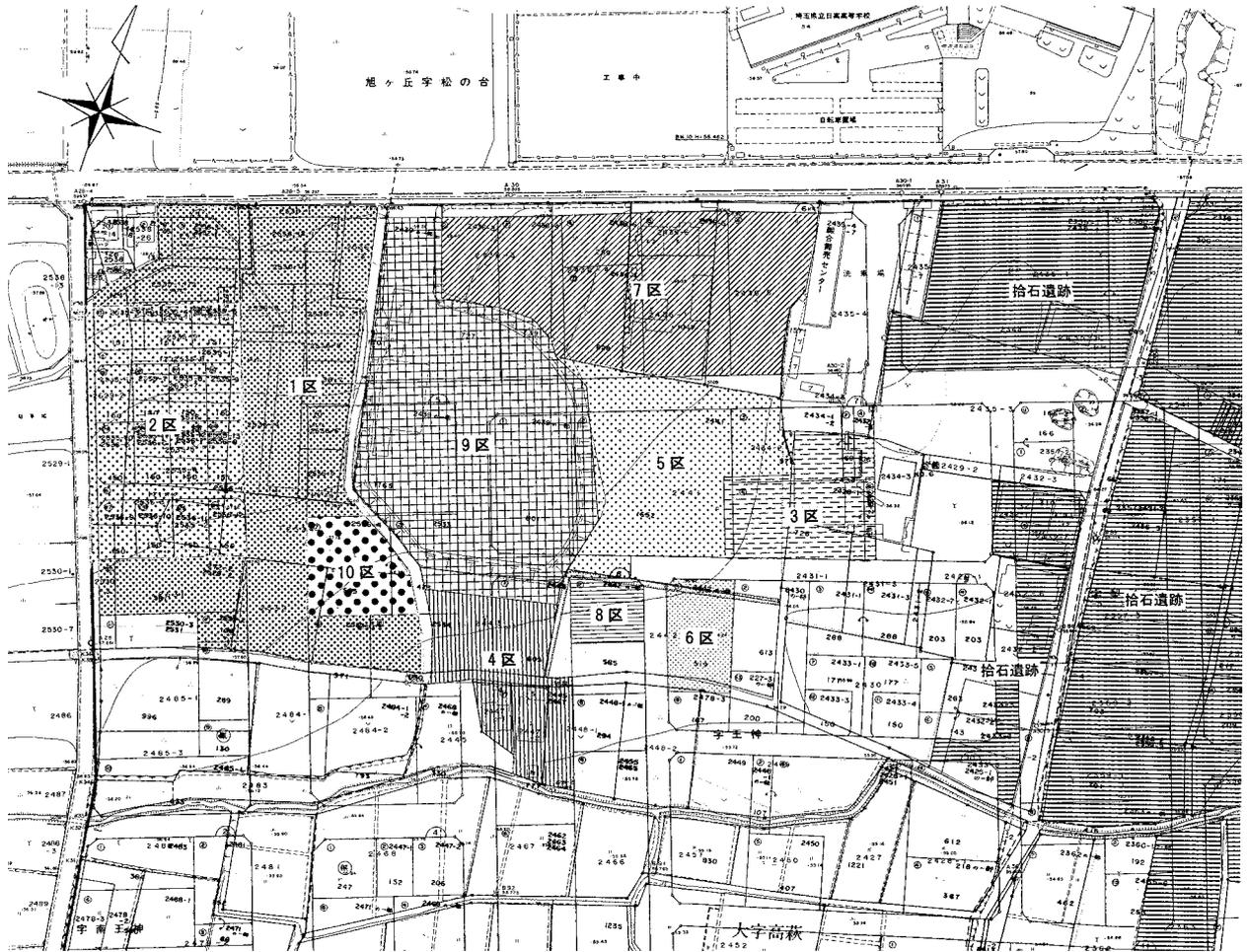
記録保存のための発掘調査を土地区画整理事業に先行して、平成 5 年度から日高市遺跡調査会が日高市より委託を受けて実施することとなった。

## 2：発掘調査と資料整理の経過

王神遺跡の発掘調査は、平成 8 年度から平成 29 年度まで 7 回にわたり 18,350㎡の発掘調査を行っている。発掘調査では、奈良・平安時代の住居址 51 軒、掘立柱建物跡 33 棟、井戸址 8 基などが検出されている。遺構が密集するのは 3、5 区で、奈良・平安時代の住居址 15 軒、掘立柱建物跡 16 棟、井戸址 4 基などが検出されている。29 年度に調査を行った 7 区は、3、5 区に隣接し、奈良・平安時代の住居址 13 軒、掘立柱建物跡 10 棟、竪穴状遺構 1 基、溝 3 条など多くの遺構が検出された。4 区では拾石遺跡で検出された、道路遺構と水路遺構の続きを確認している。

今回は平成 8、14 年度に実施した奈良・平安時代の住居址 14 軒、掘立柱建物跡 1 棟、井戸址 3 基、道路遺構 1 条、水路 1 条、溝 2 条、土壙 12 基の調査報告書である。

室内での整理作業は各調査年度内で、遺物の洗浄、注記、接合と遺構図面の修正を行った。報告書作成は、平成 30 年度から遺物の実測、拓本、トレース、遺構図面のトレースなどを実施し、平成 31 年度で図版作成、遺物写真撮影、原稿の執筆などを行った。



第1図 王神遺跡調査区

年度	調査区	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	概要
8	1区	日高市高萩字王神 2536-4外	4,872	奈良・平安時代住居址8軒、掘立柱建物跡1棟、井戸址3基、道路遺構1条、水路1条、溝2条、土壇12基
14	2区	日高市高萩字中王神 2353-1外	2,600	奈良・平安時代住居址6軒
21	3区	日高市高萩字王神 2434-1外	2,389	奈良・平安時代住居址5軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物跡4棟、井戸址2基、土壇8基
22	4区	日高市高萩字王神 2447-1外	628	水路1条、道路状遺構1条
22	5区	日高市高萩字王神 2441	2,004.75	奈良・平安時代住居址10軒、掘立柱建物跡14棟、井戸址2基、竪穴状遺構1基、土壇24基
23	6区	日高市高萩字王神 2442-2	519	井戸址1基
29	7区	日高市高萩字王神 2436-1外	3,790	奈良・平安時代住居址13軒、掘立柱建物跡10棟、竪穴状遺構1基
28	8区	日高市高萩字王神 2442-1	330	遺構なし
30	9区	日高市高萩字王神 2439	4,375	奈良・平安時代住居址1軒
30	10区	日高市高萩字中王神 2334外	600	道路遺構1条、井戸址1基

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 1：遺跡の立地と環境

日高市は埼玉県西南部の山地と丘陵地の境界に位置し、首都圏50kmにあたる。市の西部には外秩父山地の東縁が広がり、この山地の縁辺部には八王子構造線が南北に走っている。外秩父山地から二つの丘陵が東へ舌状に張り出し、北が毛呂山丘陵で南が高麗丘陵である。市の南北はこの二つの丘陵で画されている。

奥武蔵正丸峠付近の山々を源とする高麗川は、市の西部から北辺を小さな蛇行を繰り返しながら流れ、扇状に沖積地を形成している。高麗川から東方の高麗川右岸を坂戸台地と呼び、市の平坦部はこの坂戸台地に位置している。この台地は高麗本郷付近を扇頂とする古い扇状地性の台地で、高麗丘陵を源とする小畔川をはじめ多くの小河川により小支谷が形成されている。

当市西部の高麗地区には、高麗川が大きく蛇行して形成された巾着田をはじめ、山地は奥武蔵自然公園に指定されており、自然が多く残っている地域である。台地に位置する高麗川地区は高麗川駅西口土地区画整理事業の終了と共に都市化が進んでいる。同じ台地上に位置する高萩地区も武蔵高萩駅北などの土地区画整理事業や首都圏中央連絡自動車道の開通により景観が大きく様変わりした。

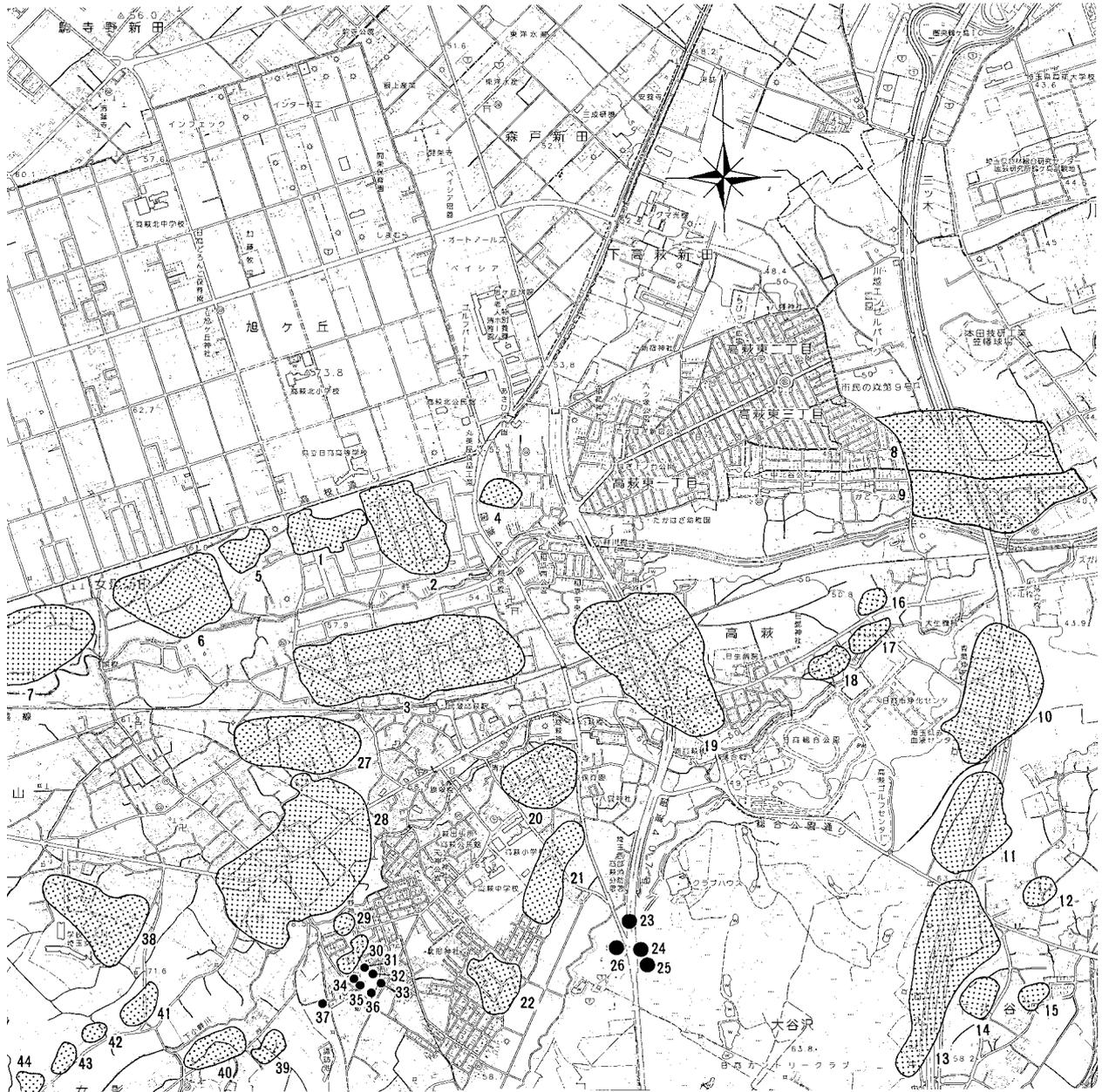
当市の遺跡の立地を考えると、高麗丘陵を源とする幾筋もの小畔川、南小畔川の流れに沿って遺跡が連なる。各小畔川流域の遺跡の密度は濃く、縄文時代の遺跡も数多く所在する。概ね遺跡は河川近くの台地に立地している。市内に弥生時代の遺跡は確認されていない。古墳時代の遺跡は和田遺跡、明婦遺跡の僅か2遺跡だけで、まったくの空白期といえよう。このことは、当市の歴史の大きな特徴である。

霊亀二年（716）に日高、飯能両市にまたがる地域に高麗郡が設置されると集落が爆発的に増え、平安時代にかけて興隆期を迎える。遺跡が築かれたのは、市内を東西に流れる幾筋もの小河川で形成された沖積地沿いである。建郡以降の集落はこの沖積地を利用し、生活を営んでいた事が遺跡分布からも理解できる。高萩地区には多くの遺跡が所在するが小畔川、下小畔川、南小畔川、第二小畔川などの流域には遺跡が連綿と築かれている。

小畔川流域の王神遺跡（1）周辺の遺跡を概観すると、東に隣接して拾石遺跡（2）、西に隣接する中王神遺跡（5）があり、新宿遺跡（4）、道光林遺跡（6）、堀ノ内遺跡（3）、大黒ヶ谷戸遺跡（7）、光山遺跡（8）、上猿ヶ谷戸遺跡（9）が所在する。拾石遺跡と堀ノ内遺跡は高萩駅北土地区画整理事業地内に含まれ、調査を行っている遺跡である。

（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団が首都圏中央連絡自動車道の建設に伴って、昭和64年度と平成5年度にかけて調査を行った光山遺跡（川越市）と上猿ヶ谷戸遺跡（日高市）からは、7世紀中葉から8世紀後半にかけての住居址55軒、掘立柱建物跡40棟、井戸址3基などが確認されている。注目すべきは、高麗建郡以前の住居址が多数検出されていることである。また、一般集落からの出土が稀な「轡」や「鍵」が報告されている。高麗郡の成立や郡域を考える上で重要な遺跡である。

新宿遺跡では、8世紀中葉から10世紀前半の住居址11軒と井戸址2基の調査を行っている。1次調査で「山本」と書かれた墨書土器が井戸から出土し、貞観14年（872）の『貞観寺田地目録帳』（仁和寺文書）の中に右大臣藤原良相が貞観9年に貞観寺に施入した武蔵国高麗郡山本荘という荘園名が見られる。荘園との関連資料として注目される。平成25年度の調査では、奈良・平安時代の住居址14軒、掘立柱建物跡5棟、井戸址1基を検出したが、盛り土保存対応となり詳細が不明である。しかし、掘立柱建物跡を複数



遺跡名	時代	遺跡名	時代	遺跡名	時代
1 拾石遺跡	旧石器時代、縄文時代早期、奈良・平安時代	2 王神遺跡	奈良・平安時代	3 堀ノ内遺跡	旧石器時代、縄文時代中期、奈良・平安時代、中世、近世
4 新宿遺跡	奈良・平安時代	5 中王神遺跡	奈良・平安時代	6 道光林遺跡	奈良・平安時代
7 大黒ヶ谷戸遺跡	縄文時代、平安時代	8 光山遺跡	奈良・平安時代、近世	9 上猿ヶ谷戸遺跡	奈良・平安時代
10 長山甲遺跡	縄文時代中期	11 西ノ久保遺跡	縄文時代後期	12 松葉遺跡	縄文時代早期、中世
13 谷津遺跡	奈良・平安時代	14 谷津南遺跡	縄文時代中期、奈良・平安時代	15 南遺跡	平安時代
16 西不動遺跡	縄文時代中期、平安時代	17 宮ノ後遺跡	縄文時代、平安時代、中世	18 宮ノ後遺跡	縄文時代中期
19 宿東遺跡	縄文時代中・後期、平安時代	20 寺臨遺跡	縄文時代中・後期	21 谷津前遺跡	縄文時代中期、平安時代
22 北中沢遺跡	縄文時代中期、平安時代	23 野口山遺跡	塚	24 野口山遺跡	塚
25 向六反田遺跡	塚	26 南中沢甲遺跡	塚	27 古道遺跡	平安時代
28 若宮遺跡	縄文時代中期、奈良・平安時代、寺院跡	29 女影ヶ原古戦場		30 諏訪山遺跡	縄文時代早期、奈良・平安時代
31 諏訪山遺跡	塚	32 諏訪山遺跡	塚	33 諏訪山遺跡	塚
34 諏訪山遺跡	塚	35 諏訪山遺跡	塚	36 諏訪山遺跡	塚
37 瀬戸原遺跡	塚	38 小河原遺跡	奈良・平安時代	39 金子ヶ谷戸遺跡	平安時代
40 菅田遺跡	縄文時代	41 上鋪遺跡	奈良・平安時代	42 上鋪遺跡	平安時代
43 姥ヶ原遺跡	平安時代	44 姥ヶ原遺跡	平安時代		

第2図 遺跡周辺図 (1/20,000)

確認した意義は大きい。

拾石遺跡の平成5～7年度の3年間の調査では、縄文時代早期の住居址2軒、集石土壙10基、奈良・平安時代の住居址44軒、掘立柱建物跡6棟、井戸址14基、道路遺構1条、水路2条、溝28条、竪穴状遺構1基、土壙51基、ピット37本を検出した。出土した遺物は、耳皿や石製丸軋、石製巡方、漆紙などの特殊な遺物や「家長」、「南家」、「貞」、「坏」、「田」、「乃」、「万」、「厨」などの多種、多量の墨書土器が水路遺構から出土している。丸軋、巡方などの腰帯具は、役人の存在を明らかにする資料である。「厨」の墨書文字は郡家に関連する施設名で、郡家の所在地を考察する上で貴重な資料である。平成27年度に王神遺跡に接する箇所を試掘調査では、奈良・平安時代の住居址と掘立柱建物跡が確認された。

拾石遺跡の対岸に位置する堀ノ内遺跡は平成26年度の時点で、8世紀中葉から10世紀前半の住居址148軒、掘立柱建物跡45棟、井戸址98基、溝61条などを検出している。掘立柱建物跡と井戸址、溝については、中世に帰属する遺構も含んだ数である。特殊な出土遺物は、青銅製巡方と皇朝十二銭の「隆平永宝」や鉄斧、鋤などである。皇朝十二銭は近隣では飯能市張摩久保遺跡から「隆平永宝」、坂戸市若葉台遺跡から「和同開珎」、川越市弁天西遺跡と狭山市揚榎木遺跡では「和同開珎」と「富寿神寶」が出土している。

王神遺跡の西側で接する中王神遺跡の調査事例は少ないが、住居址3軒、掘立柱建物跡1棟を遺跡の東側で確認している。道光林遺跡では、建群間もない8世紀第2四半期の住居址2軒が検出された。大黒ヶ谷戸遺跡からは8世紀後半と9世紀後半の住居址が各1軒ずつ確認されている。9世紀後半の住居址からは、「石」、「方」、「成」の墨書と土錘が出土している。

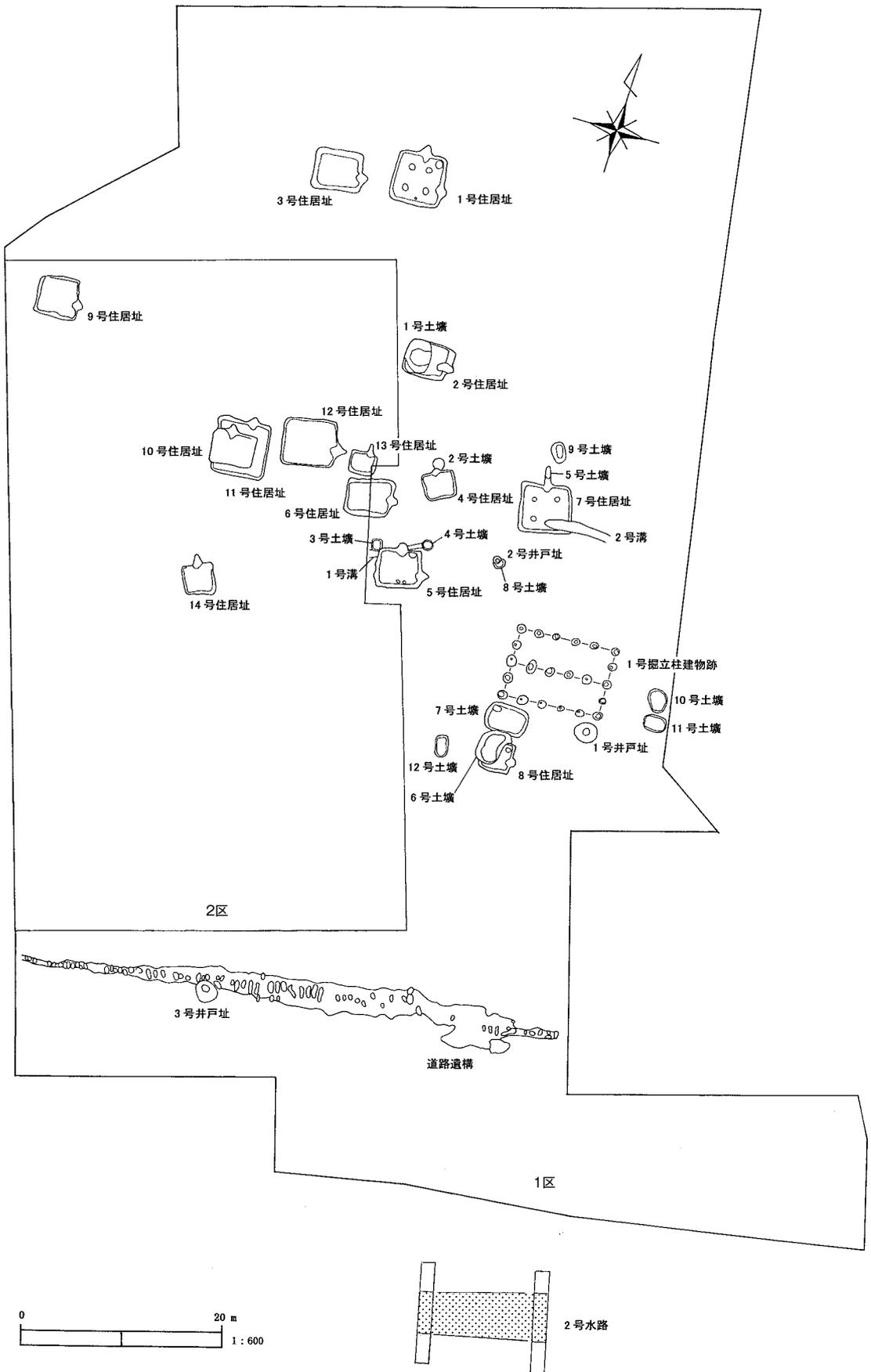
土地区画整理事業が始まるまで拾石遺跡、王神遺跡、中王神遺跡は、小畔川左岸に僅かな距離を持って立地する遺跡と捉えていたが、調査が進む中で遺跡の切れ間が無く遺構の広がりから認められることから、この3遺跡は同一遺跡と考えられる。

下小畔川と小畔川に挟まれた台地には宿東遺跡(19)、古道遺跡(27)、若宮遺跡(28)が所在する。若宮遺跡は8世紀中葉から10世紀前半の集落である。この遺跡には周縁部に面違鋸歯文を配した複弁八葉蓮華文の軒丸瓦を用いた女影廃寺が含まれている。「寺」の墨書、「高」の印刻瓦、「丁」の模骨文字瓦が出土している。寺院が所在した場所はまだ特定できていない。古道遺跡は9世紀中葉から後半の住居址が確認されている。出土例が少ない坏の両側に把手が付いた双耳坏が出土している。

## 2：遺跡の概要

坂戸台地は高麗本郷付近を扇頂とする古い扇状地で、高麗川から東方の高麗川右岸を指す。この台地は、高麗丘陵を源とする小畔川をはじめ多くの小河川により浸食され小支谷が形成されている。王神遺跡は日高市高萩字王神と字中王神に所在し、小畔川に南面する緩傾斜地に位置する。本遺跡の標高は55mで、南に流れる小畔川との比高差は5mをはかる。

王神遺跡では8世紀中葉から9世紀前半の住居址8軒、井戸址3基、道路遺構1条、水路1条、東西5間、南北4間で中柱を持つ掘立柱建物跡1棟の調査を行った。5号住居址からは、鳥形硯の蓋の一部が出土している。関東地方では府中市国府関連遺跡、甲信地方では長野県塩尻市菖蒲沢窯跡から出土している。鳥形硯の多くは平城京、斎宮からの出土であることから、本遺跡の性格を考える上で注目すべき遺物である。王神遺跡の調査が進むにつれ、遺跡の範囲が広がり、東では拾石遺跡、西では中王神遺跡と接するまでになった。



第3图 王神遗迹全测图

### 第3章 遺構と遺物

#### (1) 住居址

##### 1号住居址

規模は東西5.14m、南北5.17mをはかり、主軸方位はN-8°-Eである。平面プランは正方形に近く、カマドは北壁のほぼ中央と東壁の南寄りで検出し、北カマドが新しく、東カマドが古い。

北東コーナーで長軸74cm、短軸70cm、深さ19cmの円形の土壙を検出した。南東コーナーで径61cm、深さ35～38cmの円形の土壙を検出した。両土壙ともカマドの右側に位置する事から、貯蔵穴と考えられる。

壁高は33～39cmをはかる。床面は、四隅を除く範囲が硬化している。貼床下は中央部、北西コーナーと南西コーナーは大きく掘り込まれている。壁に沿って幅8～23cm、深さ6～15cmの周溝がカマドを除き巡っている。

柱穴は各コーナーに対応する4本と、南壁に沿った中央に小さな柱穴を1本確認した。P1は径70cm、深さ58cm、P2は径60～70cm、深さ64cm、P3は長軸83cm、短軸65cm、深さ68cm、P4は長軸82cm、短軸64cm、深さ79cmをはかる。P5は径27cm、深さ15cmをはかる。

##### 北カマド

カマドは北壁のほぼ中央に位置している。規模は幅180cm、奥行125cmで、平面プランはU字状を呈する。壁外へは80cm掘り込んでいる。火床部は床面より5～20cm掘り込み、幅30～50cm、奥行115cmをはかる。

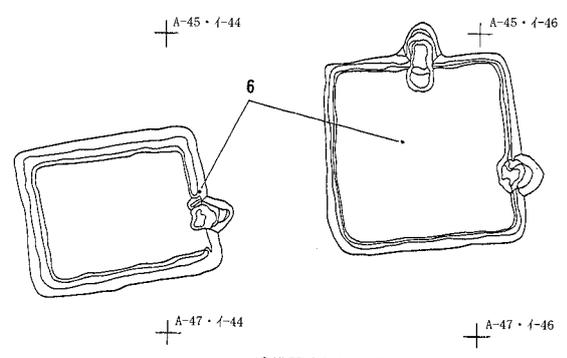
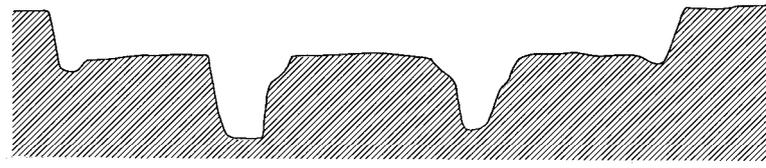
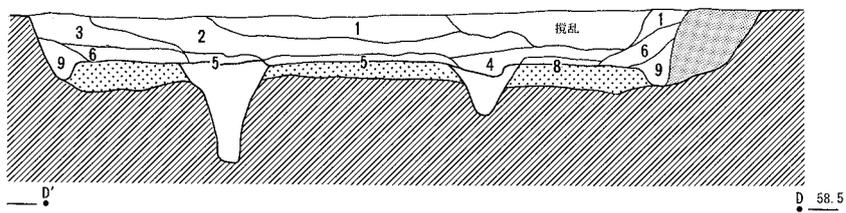
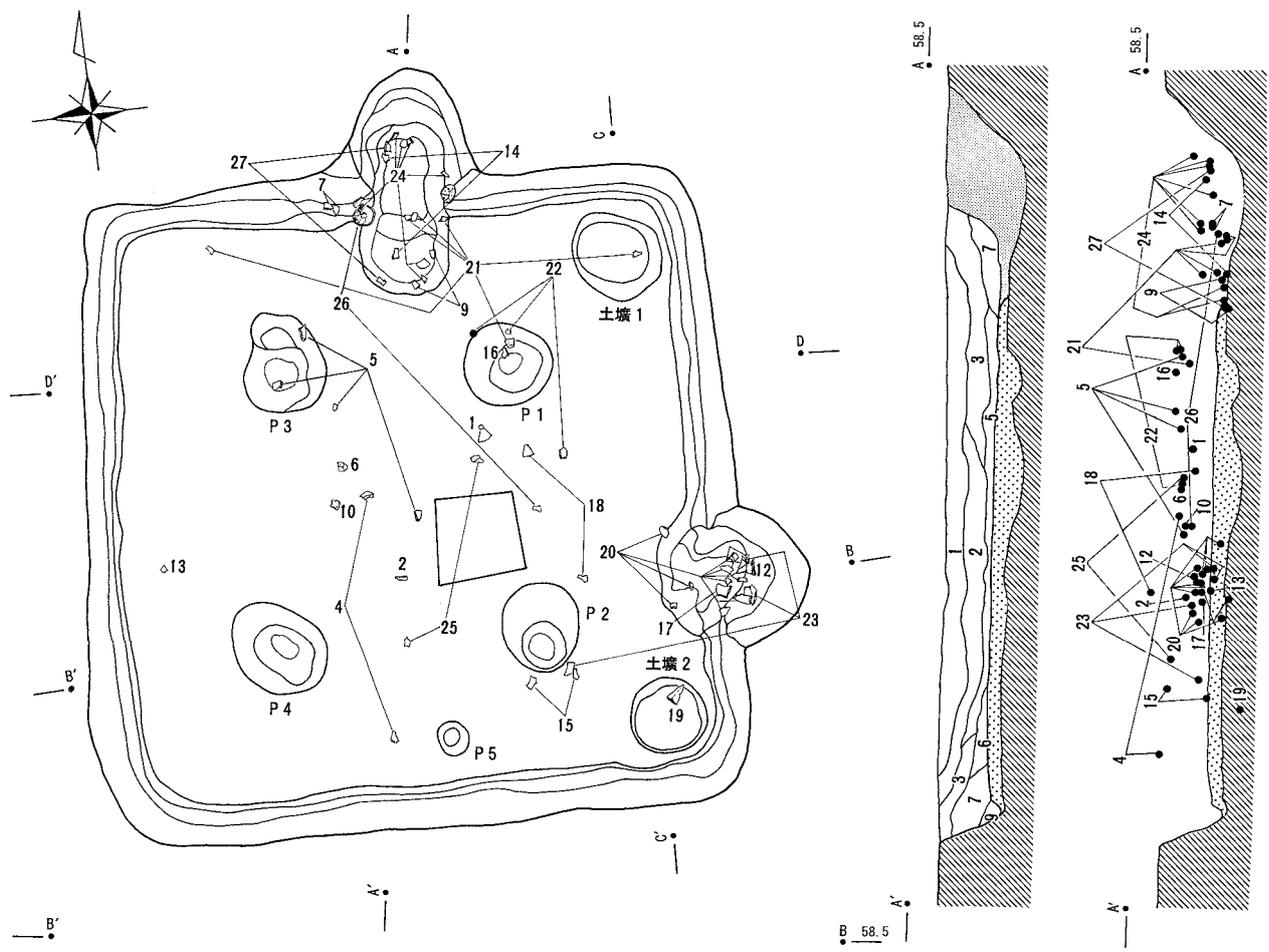
##### 東カマド

カマドは東壁の南寄りに位置している。規模は幅110cm、奥行120cmで、平面プランは幅広のU字状を呈する。壁外へは55cm掘り込んでいる。火床部は床面より17cm掘り込み、幅40cm、奥行50cmをはかる。

第1表 1号住居址出土遺物観察表

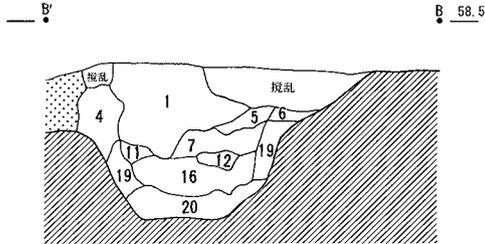
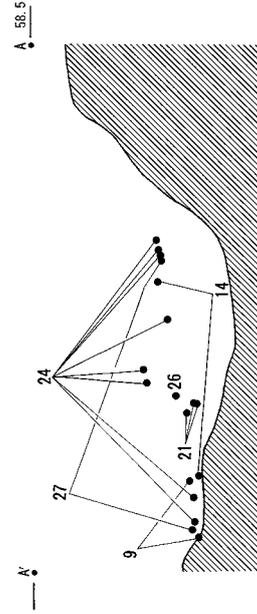
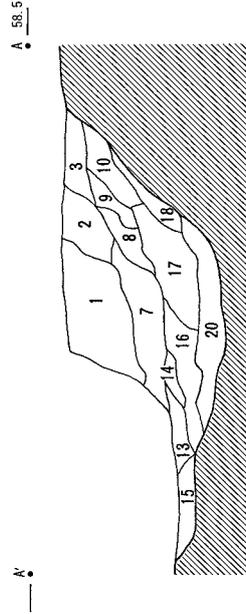
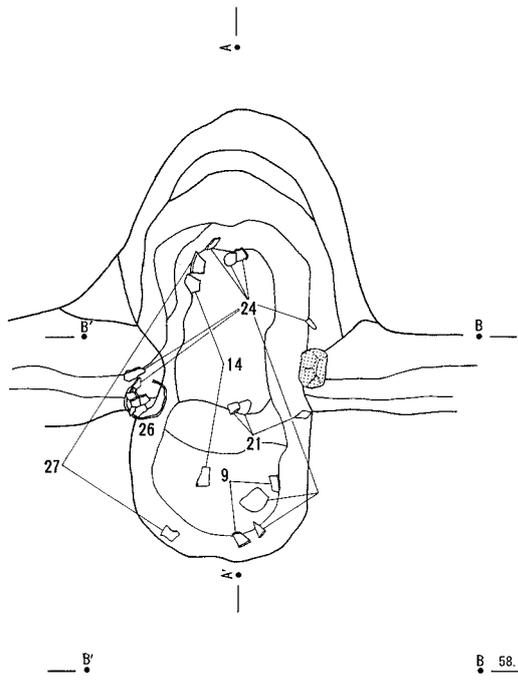
単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	12-1	蓋	(15.0)	-	-	2.6	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部に回転篋削り。口縁部にかえりを持つ。天井部は僅かな湾曲を有する。天井部外面に径3.1cmの円筒状のつまみを貼付け。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率30%。
2	-	蓋	(14.3)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部に回転篋削り。口縁部にかえりを持つ。天井部は湾曲を持つ。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率25%。
3	-	蓋	(14.3)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部に回転篋削り。口縁部にかえりを持つ。天井部は湾曲を持つ。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率25%。
4	12-4	坏	(15.1)	11.1	11.2	3.8	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。底部は全面回転篋削り。体部は直線的に立ち上がる。底部は丸底気味。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率50%。



- 1号住居址**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を極微量含む。
  - 2層 暗茶褐色土 ローム粒子を微量含む。
  - 3層 明褐色土 ローム粒子を多量に含む。
  - 4層 明黒褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を極微量含む。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子を含む。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子を極微量含む。
  - 8層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を極微量含む。
  - 9層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

第4図 1号住居址



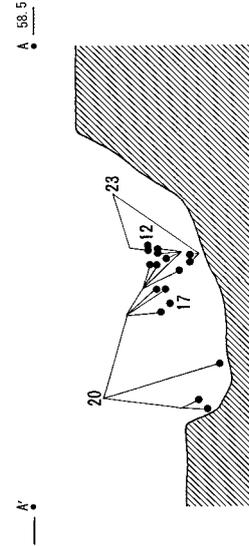
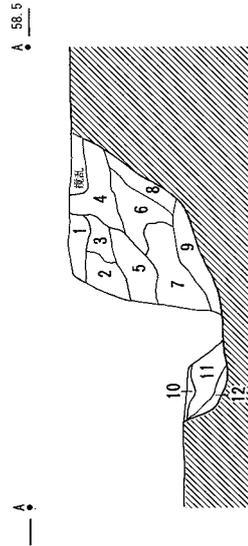
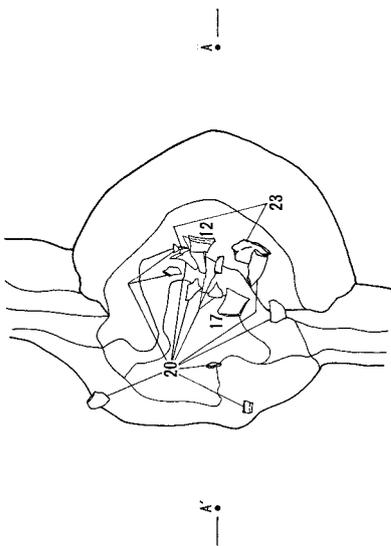
**1号住居北カマド**

- 1層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 粘土粒子を少量含む、ローム粒子を微量含む。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 4層 暗黄褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子を微量含む。
- 6層 暗黄茶褐色土 粘土粒子を少量含む。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 8層 暗黄褐色土 粘土粒子を多量に含む。

- 9層 暗黄褐色土 粘土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 10層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む、粘土粒子を微量含む。
- 11層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 12層 暗黄褐色土 粘土粒子を多量に含む。
- 13層 暗茶褐色土 ローム粒子、焼土粒子、粘土粒子を微量含む。

- 14層 暗褐色土 ローム粒子を微量に含む、焼土粒子を極微量含む。
- 15層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 16層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含む、粘土粒子を微量含む。
- 17層 暗赤褐色土 焼土粒子、粘土粒子を少量含む。
- 18層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

- 19層 暗黄茶褐色土 ローム粒子を少量含む、焼土粒子を極微量含む。
- 20層 暗黒褐色土 ローム粒子を少量含む、炭化物粒子を微量含む。



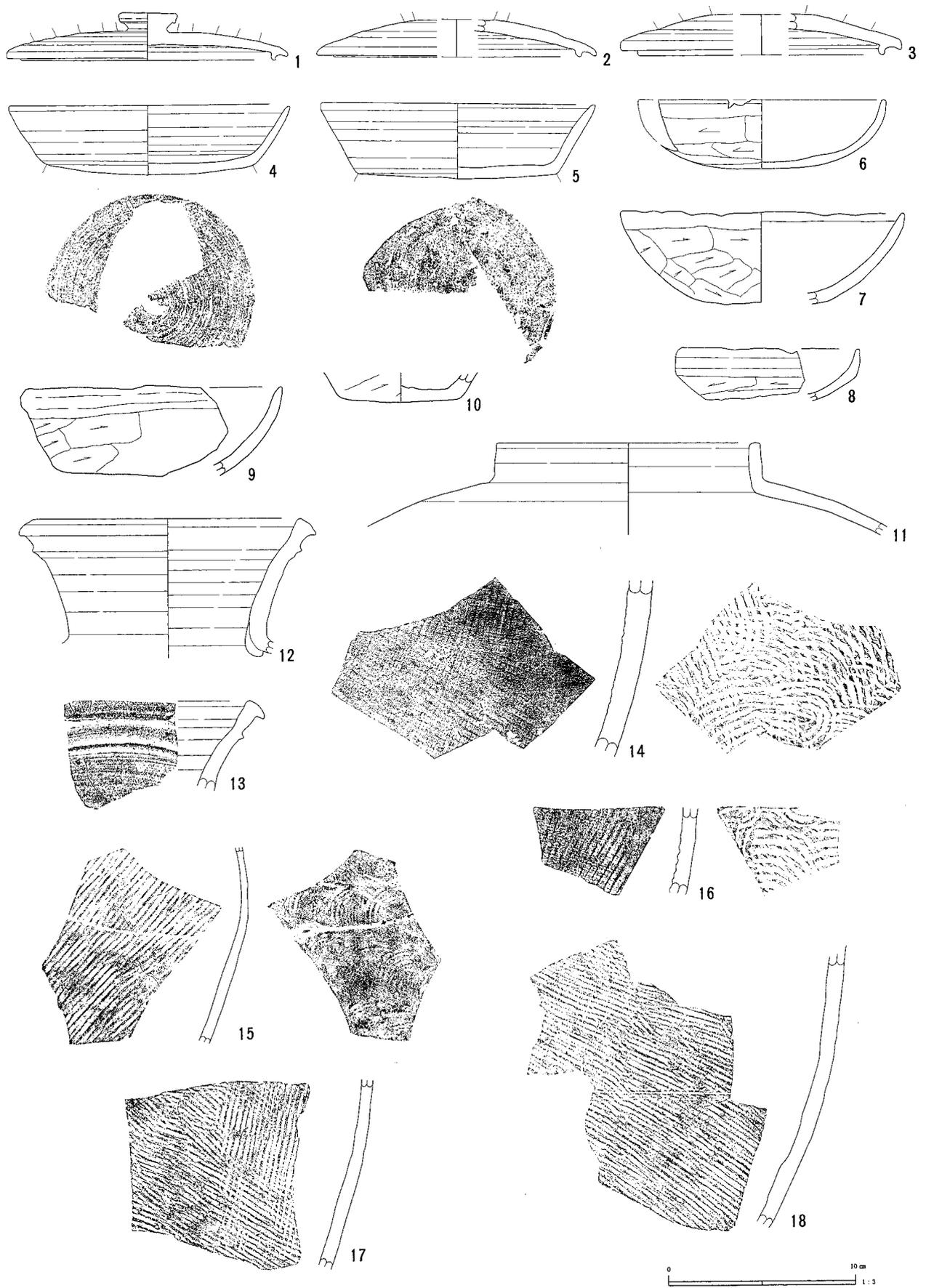
**1号住居東カマド**

- 1層 暗褐色土 ローム粒子を微量に含む、焼土粒子を極微量含む。
- 2層 暗茶褐色土 ローム粒子、粘土粒子を多量含む。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子、粘土粒子を少量含む。
- 4層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含む、焼土粒子を微量含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子、焼土粒子を微量含む。

- 6層 暗灰褐色土 焼土粒子を少量含む、炭化物粒子を微量含む。
- 7層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含む、ローム粒子を少量含む。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む、焼土粒子を微量含む。
- 9層 暗黒褐色土 ローム粒子、粘土粒子、焼土粒子を微量含む。
- 10層 暗褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 11層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含む、焼土粒子を微量含む。
- 12層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。



第5図 1号住居北カマド 東カマド

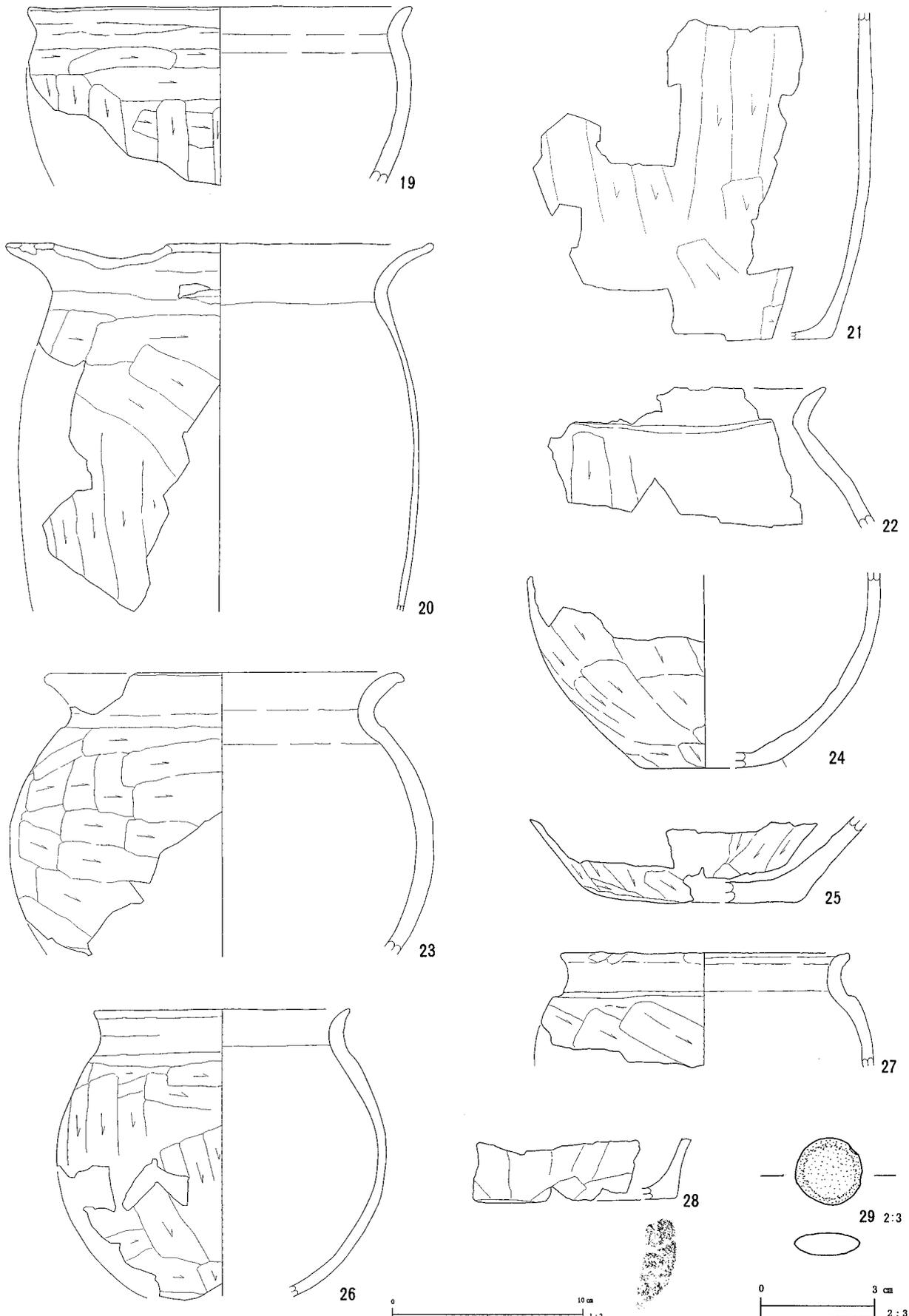


第6图 1号住居址出土遗物(1)

第2表 1号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
5	12-5	坏	(14.7)	(10.7)	9.8	4.1	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。底部は全面回転篋削り。体部は直線的に立ち上がる。底部は平底だが僅かに丸味を帯びる。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率50%。
6	12-6	坏	(13.0)	-	-	3.8	土師器	口縁部外面と器内面に横ナデ整形。体部、底部外面に篋削り。口縁部は垂直に立ち上がる。
7	-	坏	(15.2)	-	-	-	土師器	周溝出土。口縁部外面は横ナデ整形。体部内面は丁寧な篋磨き整形。体部外面は篋削り。口縁部の器厚は厚め。
8	-	坏	-	-	-	-	土師器	口縁部外面は横ナデ整形。体部外面は篋削り。体部内面は篋磨き整形。口縁部は垂直に立ち上がる。
9	-	坏	-	-	-	-	土師器	北カマド出土。口縁部外面は横ナデ整形。体部内面は丁寧な篋磨き整形。体部外面は篋削り。口縁部の器厚は厚め。
10	-	坏	-	(7.0)	-	-	土師器	体部、底部外面は篋削り。器内面は被熱を受けて剥がれている。
11	12-11	短頸壺	(14.0)	-	-	-	還元焰焼成	口縁部は器内外面にロクロ水挽き整形。胴部外面に斜め方向の平行叩き。胴部内面に当て具痕が残る。
12	12-12	壺	(16.1)	-	-	-	還元焰焼成	東カマド出土。器内外面にロクロ水挽き整形。口縁部近くに隆帯が2条横走する。
13	-	壺	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。口縁部近くに隆帯が1条横走する。
14	12-4	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面には同心円の当て具痕が残る。胎土が緻密で、焼成は良好。湖西窯跡産。
15	12-15	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	貼床下出土。器外面に斜め方向の平行叩き。器内面には同心円の当て具痕の後にナデ整形。
16	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	東カマド出土。器外面に斜め方向の平行叩き。器内面には同心円の当て具痕が残る。胎土が緻密で、焼成は良好。湖西窯跡産。
17	12-17	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面はナデ整形。
18	12-18	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面に当て具痕。その後にナデ整形。
19	12-19	浅鉢	(20.0)	-	-	-	土師器	土壙2出土。口縁部は僅かに外反する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部の外面は横方向、縦方向の篋削り。器内面は篋状工具を用いた横方向のナデ整形。
20	12-20	甕	22.6	-	-	-	土師器	東カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面は斜め、縦方向の篋削り。



第7图 1号住居址出土遗物(2)

第3表 1号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
21	-	甕	-	-	-	-	土師器	北カマド出土。胴部は垂直に立ち上がる。器外面は縦方向の匏削り。器内面はナデ整形。
22	-	甕	-	-	-	-	土師器	口縁部はくの字で、強く外反する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部の外面に縦方向の匏削り。内面は匏磨き。
23	12-23	甕	(18.8)	-	-	-	土師器	東カマド出土。口縁部はくの字で、強く外反する。口縁部の器内外面に横ナデ。口唇部に浅い沈線が巡る。口縁部と胴部の境に強い段を持つ。胴部の外面は横方向の匏削り。内面はナデ整形。
24	12-24	甕	-	7.0	-	-	土師器	北カマド出土。胴部は大きく内彎する。器外面は斜め方向の匏削り。器内面はナデ整形。底部は匏削り整形。
25	-	甕	-	-	-	-	土師器	器外面に縦方向の匏削り。器内面はナデ整形。底部は匏削り整形。
26	12-26	台付甕	13.4	-	-	-	土師器	北カマド出土。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部器外面の上端は横方向の匏削り。胴部中央から下端にかけて縦方向の匏削り。
27	-	台付甕	(15.0)	-	-	-	土師器	北カマド出土。口縁部の器内外面に横ナデ。口唇部に浅い沈線が巡る。胴部器外面に斜め方向の匏削り。口縁部と胴部の境に強い段を持つ。
28	-	甕	-	-	-	-	土師器	胴部外面に縦方向の匏削り。胴部は直線的に立ち上がる。底部に木葉痕。

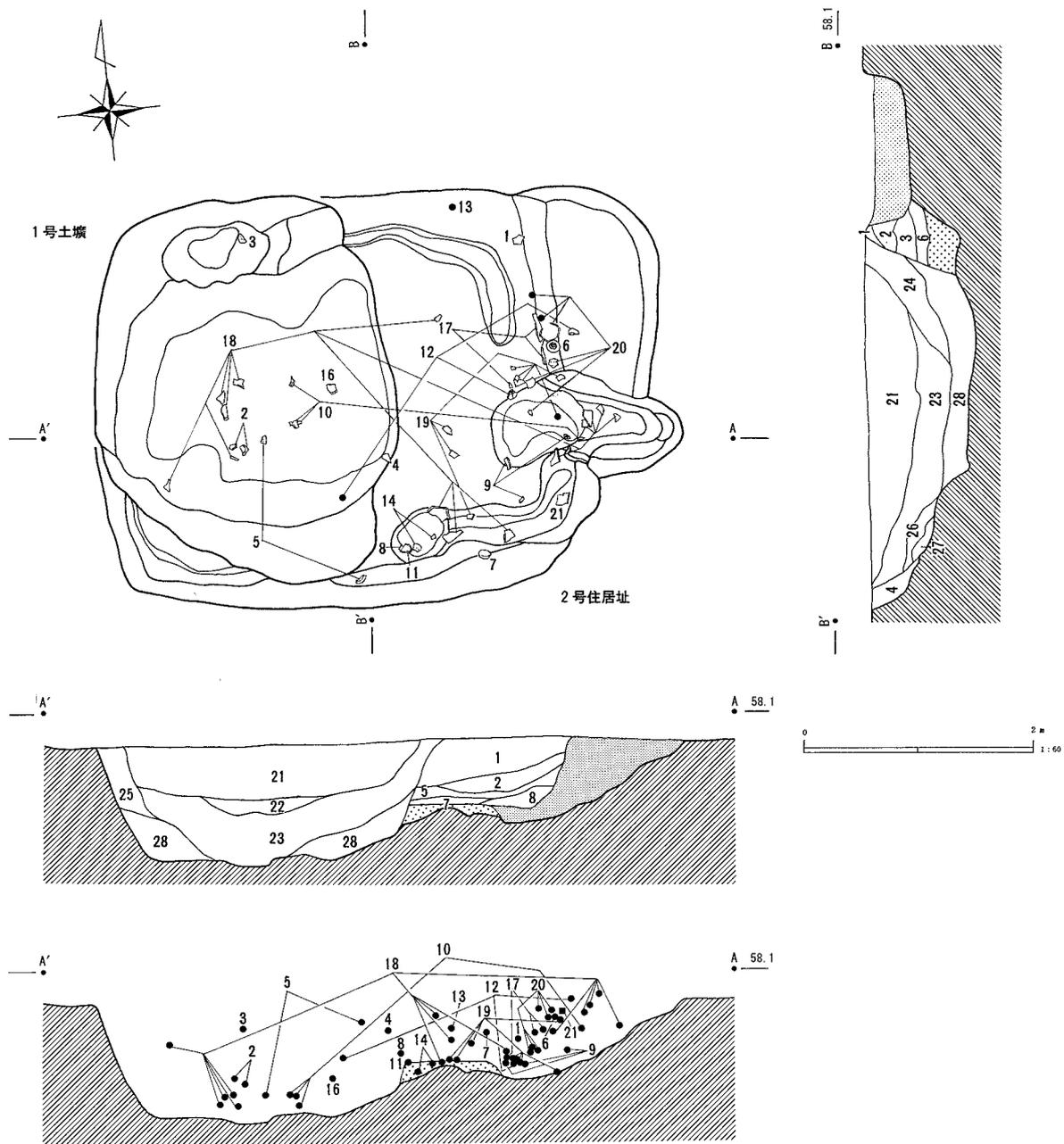
挿図番号	図版番号	種類	径	厚み	重さ(g)	観察・特徴
29	12-29	基石状土製品	1.8	0.6	1.5	円形。断面は中央部が厚い、レンズ状。焼成は土師質。

### 2号住居址、1号土壇

規模は東西 4.35 m、南北 3.65 mをはかり、主軸方位はE - 8° - Sである。本住居址の西側に1号土壇が大きく重複する。新旧関係は本住居址が古く、1号土壇が新しい。本住居址の平面プランは長方形を呈し、カマドは東壁のやや南寄りに構築されている。壁は僅かな傾斜を持ち立ち上がり、壁高は60cm前後をはかる。壁に沿って幅13～37cm、深さ17cmの周溝がカマドと南壁の一部を除き巡る。床面の状況は、カマド付近が硬化している。貼床下は南東コーナー近くで土壇状の掘り込みが存在する。カマドの左側に、幅164cm、奥行95cm、深さ15cmの棚状の掘り込みを設けている。

### カマド

カマドは東壁のやや南寄りに位置している。規模は幅97cm、奥行168cmで、平面プランはU字状を呈する。壁外へは75cm掘り込んでいる。火床部は床面から18cm掘り込み、幅48cm、奥行67cmをはかる。



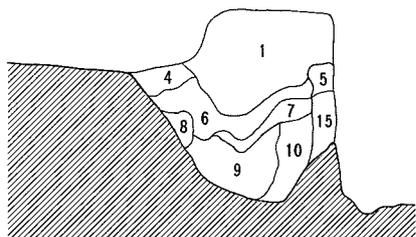
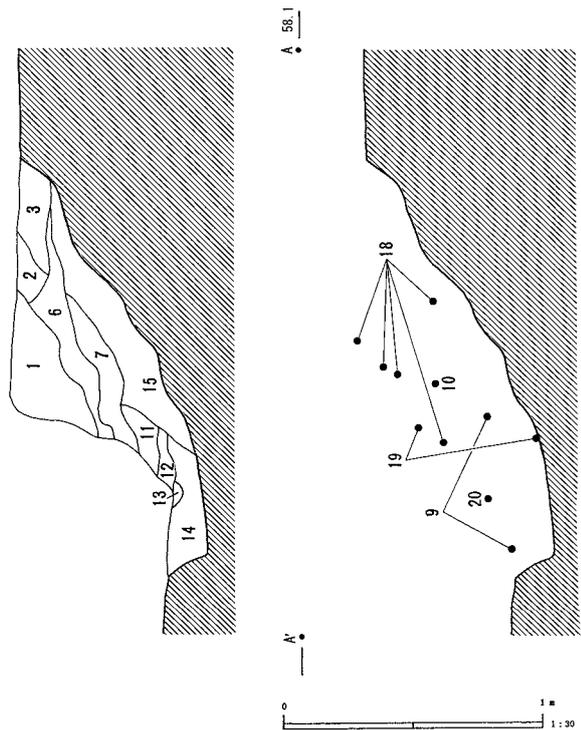
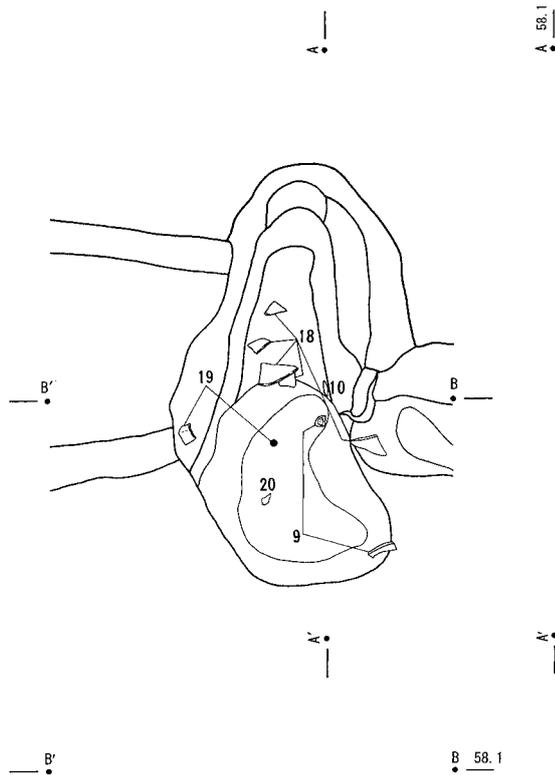
**2号住居址**

- 1層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、粘土粒子を微量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を極微量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 8層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。

**1号土壌**

- 21層 暗黒褐色土 ローム粒子を極微量含む。
- 22層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量に含む。
- 23層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 24層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 25層 暗褐色土 ローム粒子を微量に含む。
- 26層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 27層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 28層 暗黄茶褐色土 ローム粒子を多量に含む。

第8図 2号住居址 1号土壌



2号住居址カマド

- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 3層 暗赤褐色 焼土小ブロックを多量に含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 6層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 7層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含み、粘土粒子を少量含む。
- 8層 暗赤褐色土 焼土、焼土ブロックを多量に含む。
- 9層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。

- 10層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 11層 暗茶褐色土 ローム粒子、焼土粒子、粘土粒子を少量含む。
- 12層 暗茶褐色土 焼土粒子を少量含む。

- 13層 暗赤褐色土 焼土ブロック層。
- 14層 暗茶褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含み、粘土粒子を微量含む。
- 15層 暗黄褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を少量含む。

第9図 2号住居址カマド

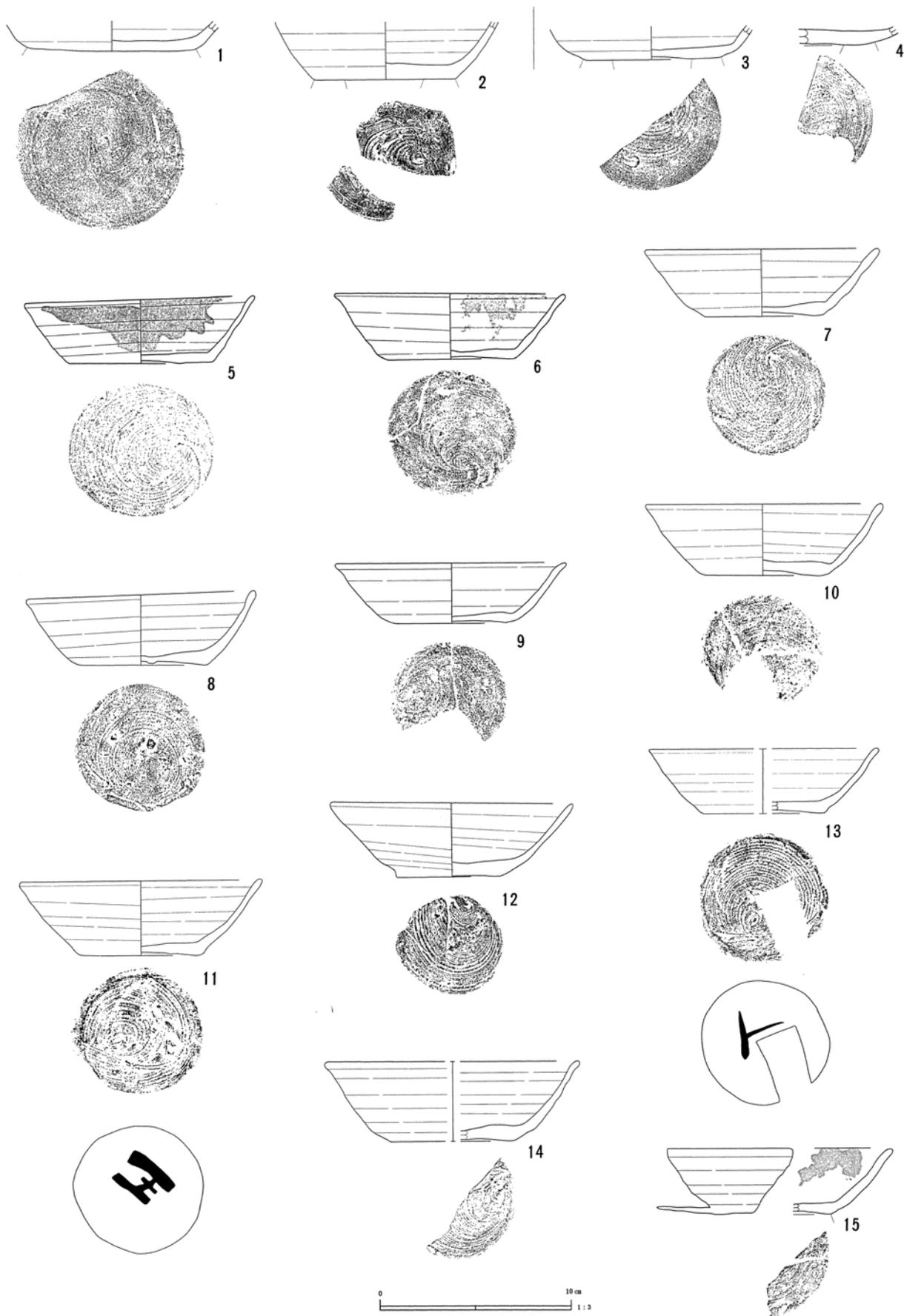
1号土壇

2号住居址と重複し、新旧関係は本遺構が新しい。規模は東西2.6m、南北3.43m、深さ95cmをはかる。平面プランは不整の長方形を呈する。

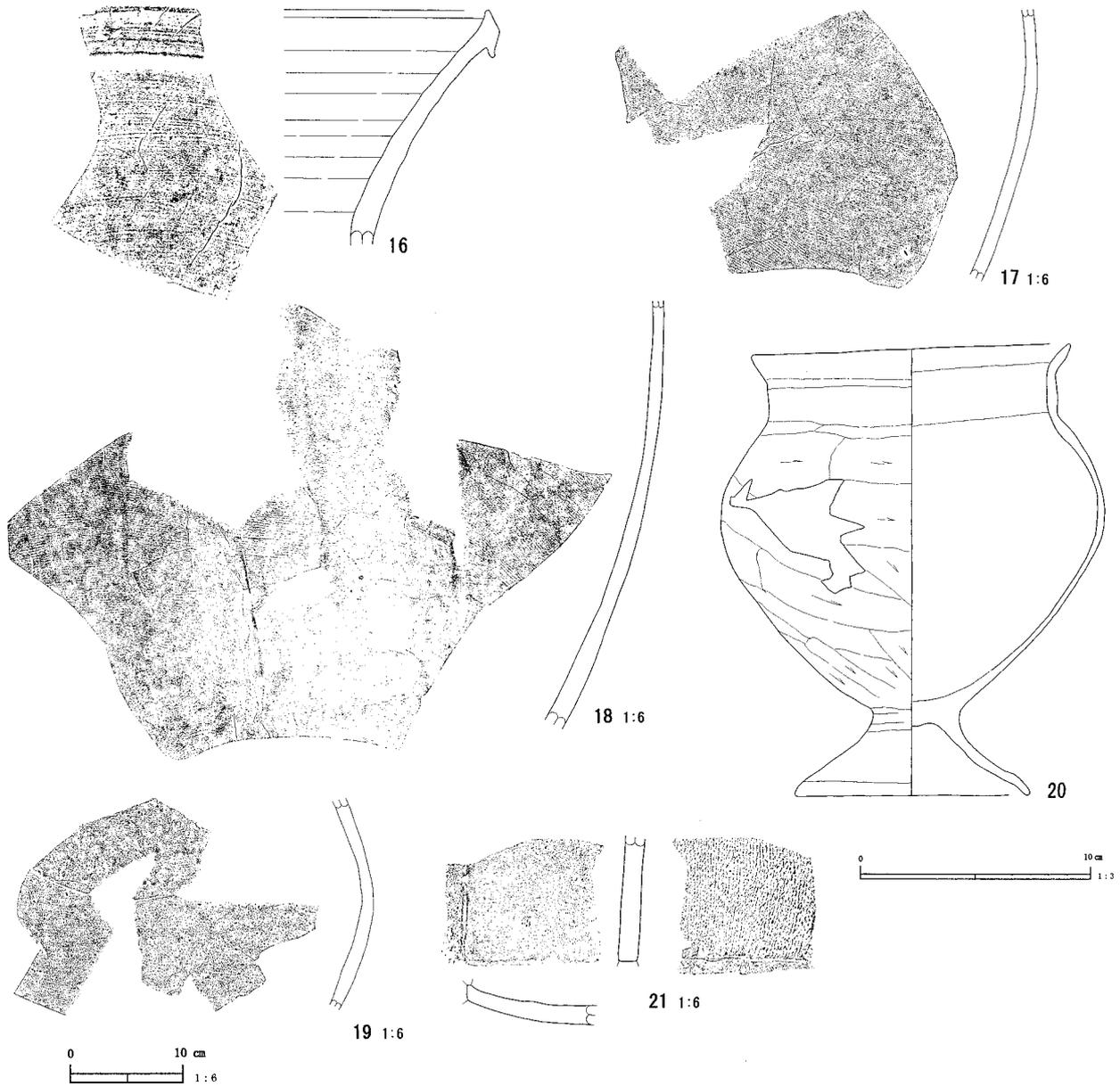
第4表 2号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	坏	-	8.8	8.6	-	還元焰焼成	底部は全面回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。
2	-	坏	-	(7.4)	7.3	-	還元焰焼成	1号土壇出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。
3	-	坏	-	(7.3)	(8.2)	-	還元焰焼成	1号土壇出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土は緻密。前内出窯跡系。



第10图 2号住居址出土遗物(1)



第11図 2号住居址出土遺物(2)

第5表 2号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
4	-	坏	-	-	-	-	還元焰焼成	1号土壙出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロク口水挽き整形。胎土は緻密。前内出窯跡系。
5	12-5	坏	12.1	7.5	6.8	3.4	還元焰焼成	1号土壙出土。底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。体部外面から器内面体部にかけての一部に煤が付着。残存率100%。
6	12-6	坏	12.1	6.6	6.7	3.5	半還元焰焼成	棚状遺構から出土。底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。口縁部内面に煤付着。残存率100%。
7	12-7	坏	12.2	6.1	6.8	3.6	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。器内面の体部と底部の変換点に爪先技法。完形。

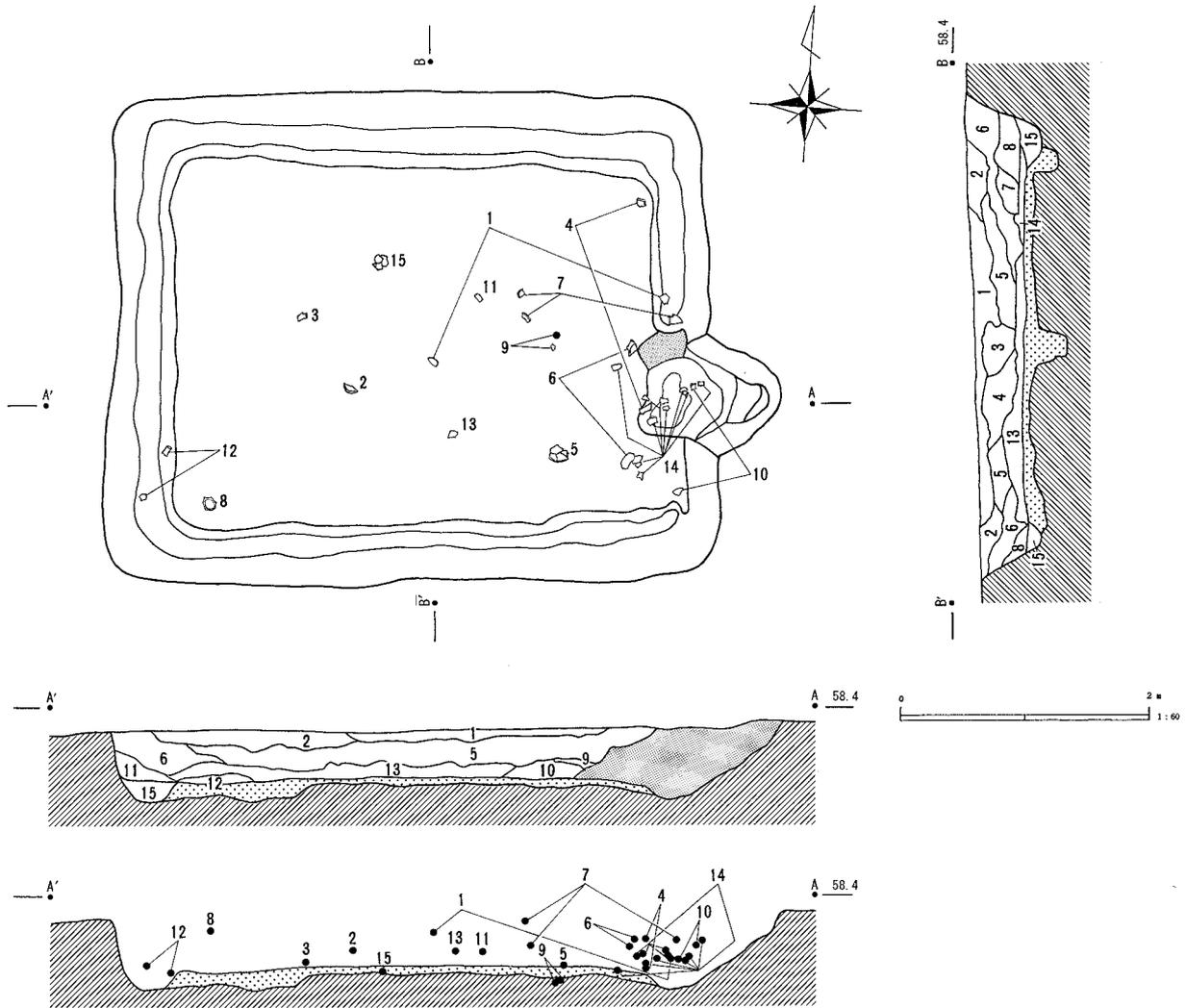
第6表 2号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
8	13-8	坏	12.0	6.8	6.6	3.7	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクろ水挽き整形。完形。
9	13-9	坏	(12.2)	5.7	6.3	3.2	半還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクろ水挽き整形。焼きがあまい。残存率55%。
10	13-10	坏	12.4	6.2	6.7	3.8	半還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクろ水挽き整形。焼きがあまい。残存率は90%。
11	13-11	坏	12.8	6.6	6.4	4.0	還元焰焼成	床面直上出土。底部は回転糸切り。ロクろ水挽き整形。底部外面に「王」の墨書。残存率は70%。
12	-	坏	12.7	5.5	7.4	3.9	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクろ水挽き整形。残存率80%。
13	-	坏	(12.1)	6.5	5.6	3.4	還元焰焼成	底部は回転糸切り。ロクろ水挽き整形。底部外面に墨書が見られるが読めない。残存率は55%。
14	-	坏	(13.4)	(6.4)	(7.2)	4.3	還元焰焼成	周溝出土。底部は回転糸切り。ロクろ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率40%。
15	-	坏	-	-	-	3.5	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。ロクろ水挽き整形。器内面の口縁部に煤が付着。
16	13-16	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	1号土壙出土。器内外面にロクろ水挽き整形。
17	13-17	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面には当て具痕の後にナデ整形。
18	13-18	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	1号土壙出土。器外面に斜め方向の平行叩き。器内面はナデ整形。
19	13-19	甕	-	-	-	-	半還元焰焼成	カマドから出土。器外面に横方向の平行叩き。器内面は当て具痕の後にナデ整形。
20	13-20	台付甕	14.0	脚部径(10.2)	-	20.1	土師器	棚状遺構から出土。口縁部はコの字。口縁部器内外面に横ナデ。胴部外面に横、斜め方向の篋削り。脚部にナデ整形。残存率80%。
21	13-21	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	凹面に布目痕。凸面に縄叩き。端面、側面及び凹面端部、側部に篋削り。

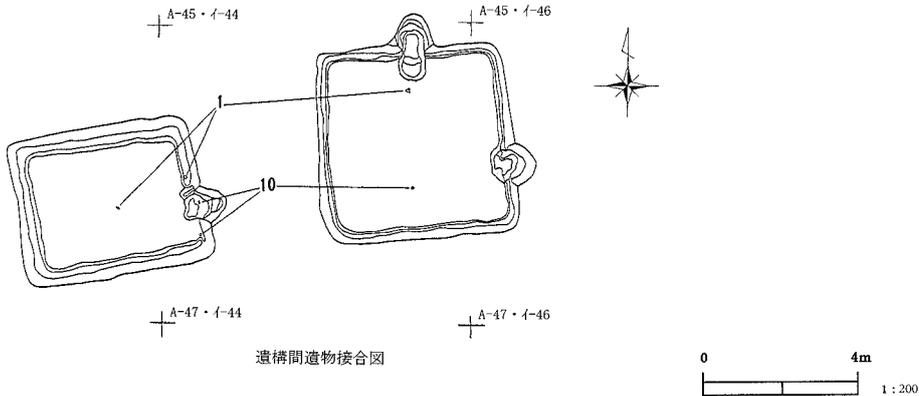
## 3号住居址

規模は東西 4.75 m、南北 4.06 mをはかり、主軸方位はN - 86° - Eである。平面プランは長方形を呈し、東壁の南東コーナー付近でカマドを検出した。壁は僅かな傾斜を持ち立ち上がり、壁高は 10 ~ 45cmをはかる。壁に沿って幅 23 ~ 34cm、深さ 10 ~ 15cmの周溝がカマド付近を除き巡っている。床面は良好な硬化面が残る。貼床下は凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。

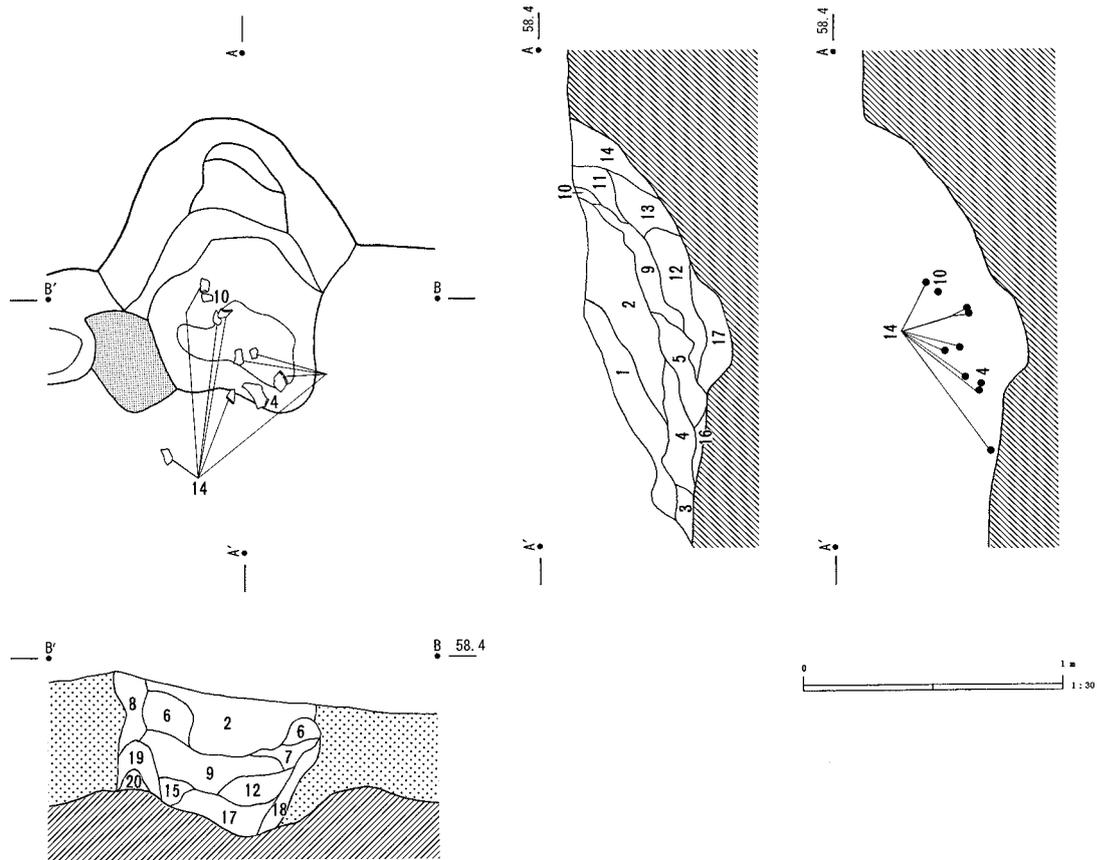


**3号住居址**

- |  |   |
|--|---|
| 1層 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子を微量含む。              | 9層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含む。                    |
| 2層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む、炭化物粒子を微量含む。         | 10層 明茶褐色土 焼土粒子、粘土粒子を多量に含む。              |
| 3層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。    | 11層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。                    |
| 4層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。                   | 12層 黄褐色土 ローム、粘土粒子を多量に含む。                |
| 5層 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む、炭化物粒子を微量含む。 | 13層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含む、ロームブロック、焼土粒子を微量含む。 |
| 6層 暗黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む。           | 14層 明黄褐色土 粘土を多量に含む。                     |
| 7層 暗黒褐色土 ロームブロックを多量に含む、ローム粒子を少量含む。     | 15層 暗褐色土 ローム粒子を含む。                      |
| 8層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む、ロームブロックを少量含む。     |   |



第12図 3号住居址



**3号住居址カマド**

- |                                    |                                       |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、粘土粒子を微量含む。      | 11層 暗茶褐色土 粘土粒子、炭化物粒子を少量含む、ローム粒子を微量含む。 |
| 2層 暗褐色土 粘土粒子を少量含む、ローム粒子、焼土粒子を微量含む。 | 12層 赤褐色土 焼土粒子を多量に含む、炭化物粒子を極微量含む。      |
| 3層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を微量含む。        | 13層 暗黄褐色土 ローム粒子を少量含む、焼土粒子を微量含む。       |
| 4層 暗黄褐色土 粘土粒子を多量に含む、焼土粒子を含む。       | 14層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む、焼土粒子を少量含む。      |
| 5層 明褐色土 粘土粒子を多量に含む、焼土粒子を少量含む。      | 15層 暗黄褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。            |
| 6層 黄褐色土 粘土粒子を多量に含む。                | 16層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む、焼土粒子を微量含む。      |
| 7層 明茶褐色土 粘土粒子を少量含む、焼土粒子を微量含む。      | 17層 暗褐色土 焼土粒子、粘土粒子を少量含む、炭化物粒子を微量含む。   |
| 8層 黄茶褐色土 粘土ブロックを少量含む。              | 18層 暗黄褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を微量含む。          |
| 9層 明茶褐色土 ローム粒子、粘土粒子を少量含む。          | 19層 明黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。                |
| 10層 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。           | 20層 明黄褐色土 ローム粒子が主体。                   |

第13図 3号住居址カマド

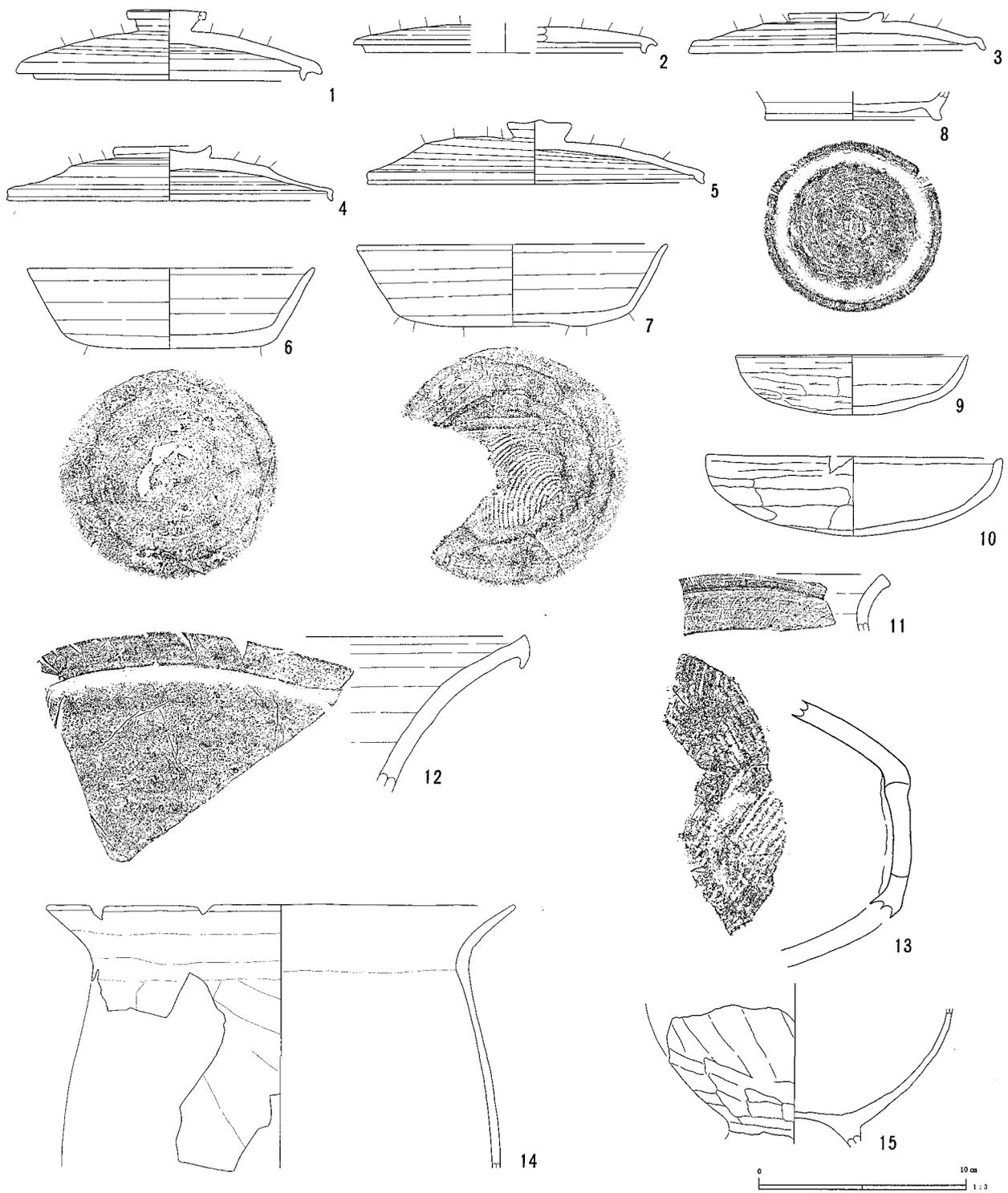
**カマド**

カマドは東壁の南東コーナー付近に位置し、左袖が残る。規模は幅100cm、奥行115cmで、平面プランはU字状を呈する。壁外へは50cm掘り込んでいる。火床部は床面から17cm掘り下げ、幅45cm、奥行28cmである。

第7表 3号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
13-1		蓋	14.9	-	-	3.5	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。口縁部にかえりを持ち、径は12.8cm。つまみはボタン状で径3.7cm。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率80%。



第14図 3号住居址出土遺物

第8表 3号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
2	-	蓋	(13.6)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。口縁部にかえりを持つ。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率35%。

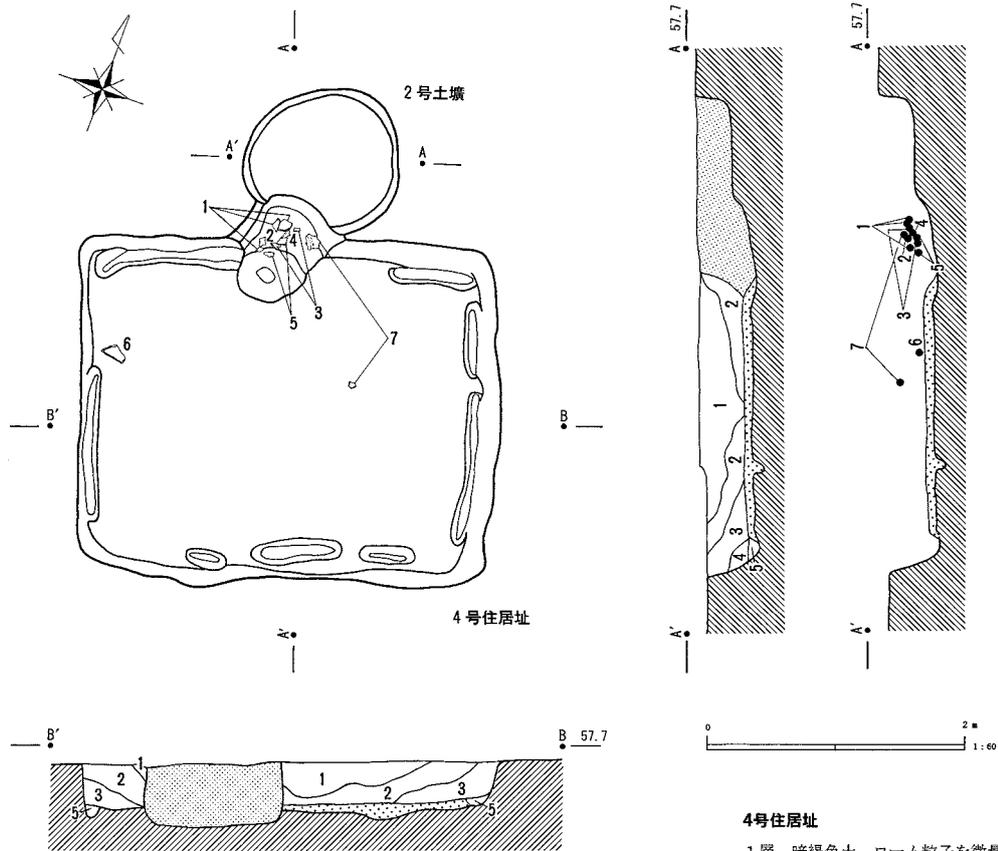
第9表 3号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
3	-	蓋	(14.4)	-	-	1.9	還元焰焼成	床付近出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは径4.5cmの環状。器内面に墨が薄く残り、磨かれている。転用硯。
4	-	蓋	(15.0)	-	-	2.6	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは円筒状で径4.7cm。残存率40%。
5	13-5	蓋	16.3	-	-	3.2	還元焰焼成	床面出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみはボタン状で径3.2cm。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率85%。
6	13-6	坏	(14.0)	8.4	9.7	3.9	還元焰焼成	底部は全面回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。口縁部は直線的に開く。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率70%。
7	14-7	坏	15.1	11.1	11.2	4.0	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部手持ち篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。口縁部は直線的に開く。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率80%。
8	-	高台付坏	-	高台径 8.6	7.6	-	還元焰焼成	底部は全面回転篋削り。その後高台を貼り付け。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
9	14-9	坏	(11.2)	-	-	3.0	土師器	貼床下出土。底部は丸底で、口縁部が垂直に立上る。口縁部器外面と器内面に横ナデ。体部外面は横方向に篋削り。
10	14-10	坏	(14.2)	-	-	4.0	土師器	カマド出土。底部は丸底で、口縁部が垂直に立上る。口縁部器外面に横ナデ。体部外面は横方向に篋削り。口唇部に沈線が巡る。器内面は赤色塗彩。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
11	14-11	短頸壺	-	-	-	-	還元焰焼成	口縁部の器内外面にロクロ水挽整形。
12	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	口縁部の器内外面にロクロ水挽き整形。
13	14-13	横瓶	-	-	-	-	還元焰焼成	俵形を呈する。先端部の破片。器内面にナデ整形。胴部と先端部の器外面に平行叩き。先端部は最後に蓋をするように閉めている。
14	14-14	甕	22.8	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部はくの字状で、内外面に横ナデ。胴部外面は斜め方向の篋削り。
15	-	台付甕	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。胴部外面に横方向、斜め方向の篋削り。

## 4号住居址、2号土塋

規模は東西 3.26 m、南北 2.7 m をはかり、主軸方位は N - 19° - W である。平面プランは長方形を呈し、カマドは北壁のほぼ中央に築いている。カマドの煙道部に 2号土塋が重複し、住居中央付近に攪乱を受けている。壁は僅かな傾斜を持ち立ち上がり、壁高は 30 ~ 35cm をはかる。壁に沿って途切れ途切れに、幅 10 ~ 25cm、深さ約 10cm の周溝がカマド付近を除き巡っている。床面は一部攪乱を受けているが、比較的



**2号土壙**

- 1層 暗褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含む。

**4号住居址**

- 1層 暗褐色土 ローム粒子を微量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 2層 暗黄褐色土 ローム粒子を少量に含む。
- 3層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子多量に含む。

第15図 4号住居址 2号土壙

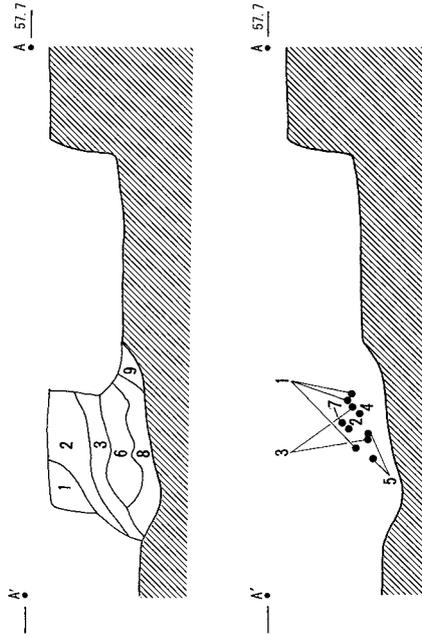
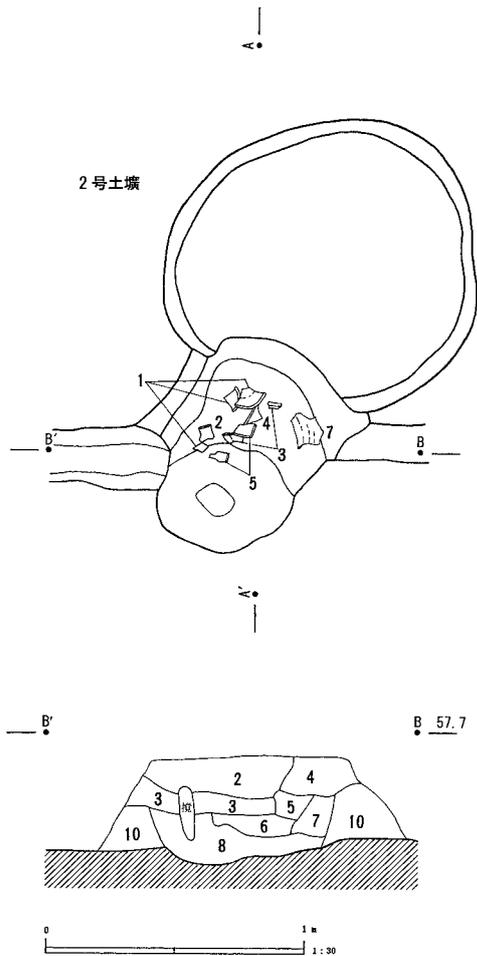
依存状態は良好である。貼床下はほぼ平坦である。

**カマド**

カマドは北壁のほぼ中央に位置するが、煙道部は大きく攪乱を受けている。規模は幅90cmで、壁外へ掘り込んでいる。火床部は床面から8cm掘り下げ、径15cmをはかる。

**2号土壙**

4号住居址と重複し、新旧関係は本遺構が新しい。規模は径1.2m、深さ28cmをはかる。平面プランは円形を呈する。



**4号住居址カマド**

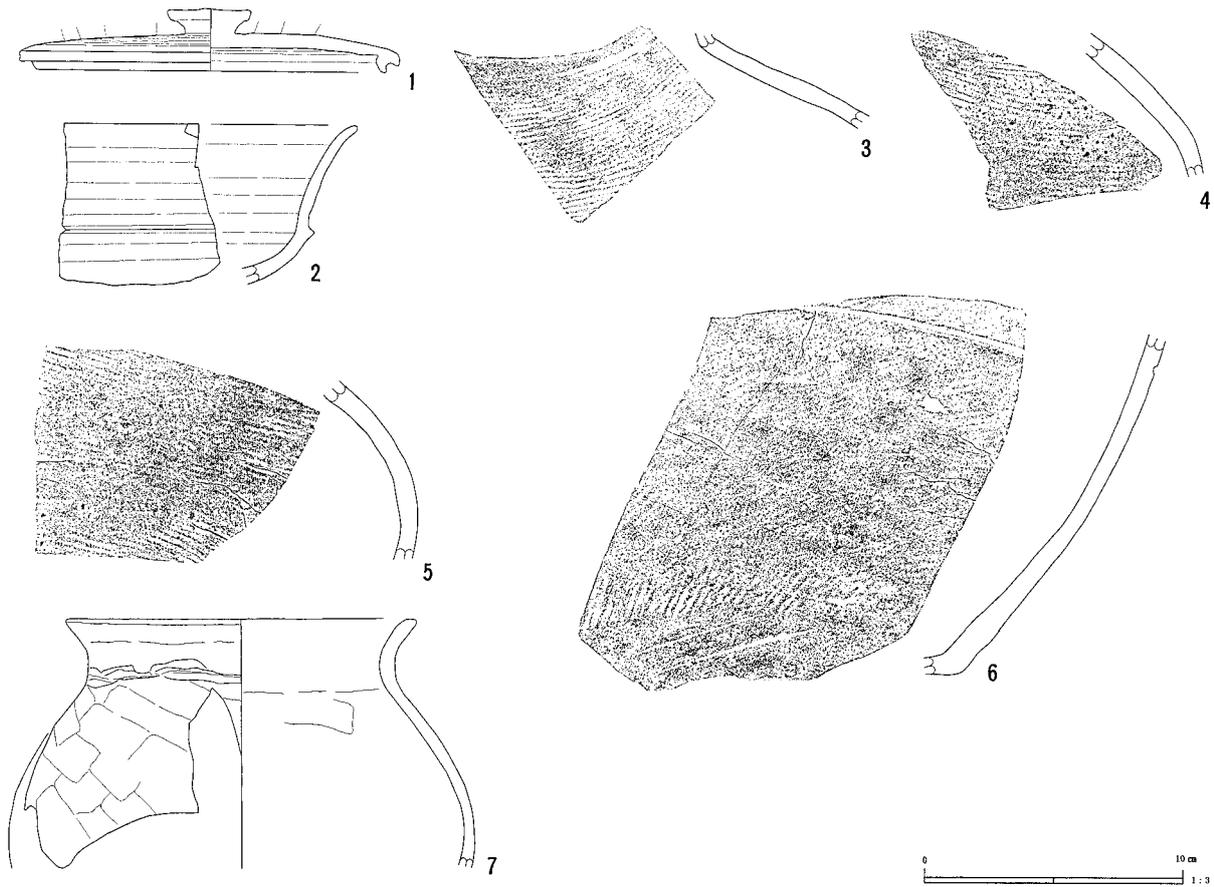
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を極微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 3層 暗褐色土 焼土粒子を微量含み、ローム粒子を極微量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子を微量含む。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量含む。
- 6層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含み、ローム粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 7層 暗茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子を少量含む。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 10層 暗黄褐色土 ローム粒子、粘土粒子を少量含む。

第16図 4号住居址カマド

第10表 4号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	14-1	蓋	13.5	-	-	2.4	還元焰焼成	カマド出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。口縁部にかえりを持ち、径は13.7cm。つまみはボタン状で径3.2cm。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率80%。
2	14-2	埴	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。器内外面にロクロ水挽き整形。体部外面に段を有する。佐波理模倣埴。
3	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。器外面に横方向の平行叩き。器内面はナデ整形。
4	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。器外面に横方向の平行叩き。器内面はナデ整形。
5	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。器外面に横方向の平行叩き。器内面に当て具痕、その後にナデ整形。



第 17 図 4 号住居址出土遺物

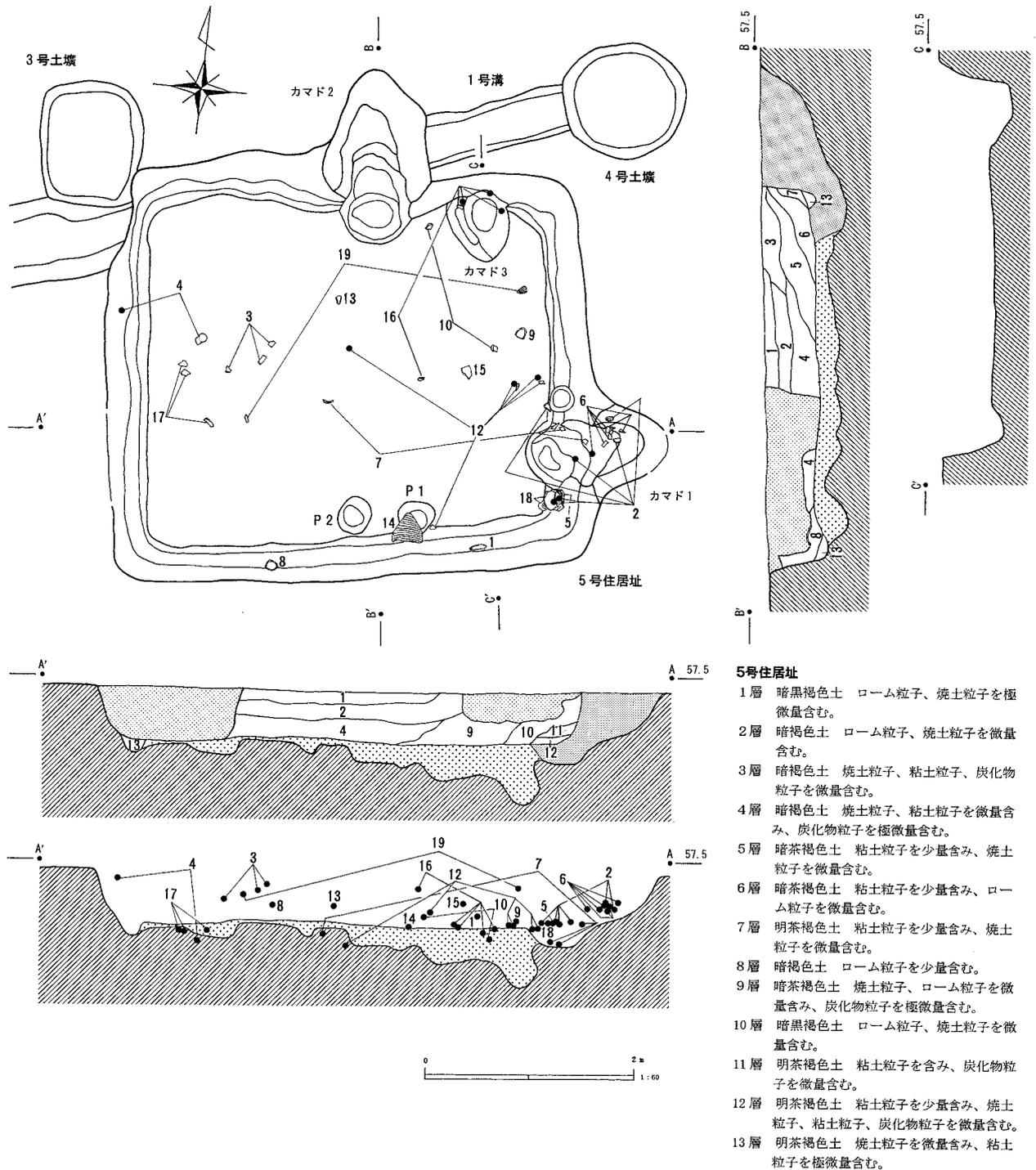
第 11 表 4 号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
6	14-6	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	床面付近出土。器外面に斜め方向の平行叩き。器内面に当て具痕、その後にナデ整形。
7	14-7	台付甕	-	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部はくの字状で、器内外面に横ナデ。胴部外面は斜め方向の篋削り。

### 5 号住居址

本住居址は、北カマドと北壁の一部で 1 号溝と重複する。新旧関係は、本住居址が古く、1 号溝が新しい。本住居址の規模は東西 4.58 m、南北 4.15 m をはかり、主軸方位は N - 8° - W である。平面プランは長方形を呈し、カマドは北壁で 2 箇所、東壁 1 箇所を検出した。カマドの新旧は北壁のカマド 3 が最も古く、続いて北壁中央のカマド 2、東壁南東コーナー付近のカマド 1 が新しい。壁は僅かな傾斜を持ち立ち上がり、壁高は 43 ~ 49cm をはかる。壁に沿って幅 10 ~ 30cm、深さ 8 ~ 12cm の周溝がカマドを除き巡っている。床面は北カマドの正面から中央部にかけて硬化面が広がっている。南壁沿いの中央でピット 2 本を確認した。貼床下は、北西コーナーで大きく掘り込まれ、北カマドと東カマド前が下がり、中央部には土壌状の落ち込みが連なる。



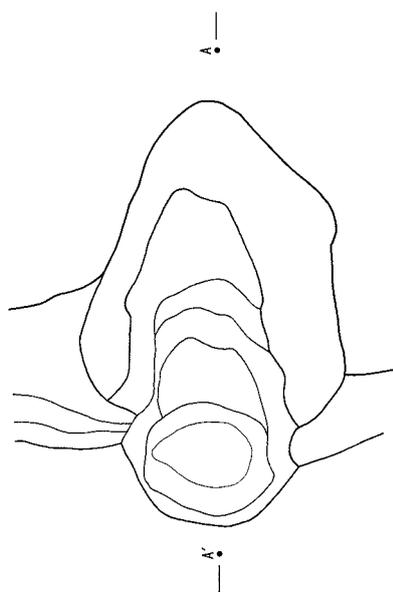
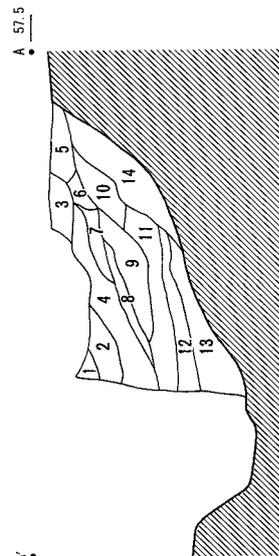
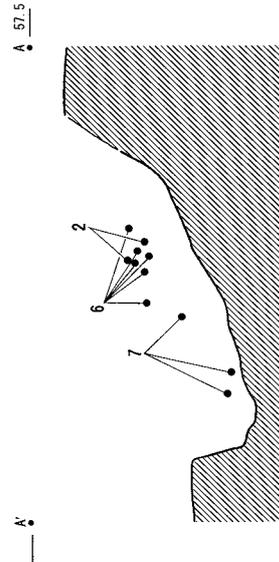
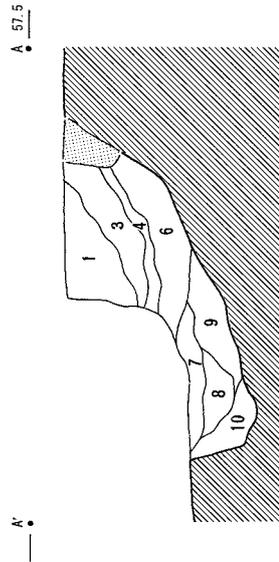
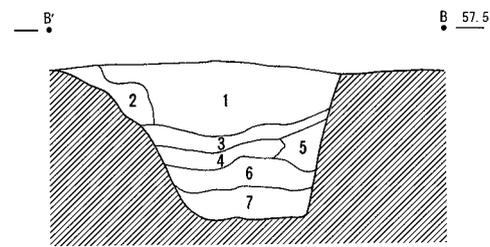
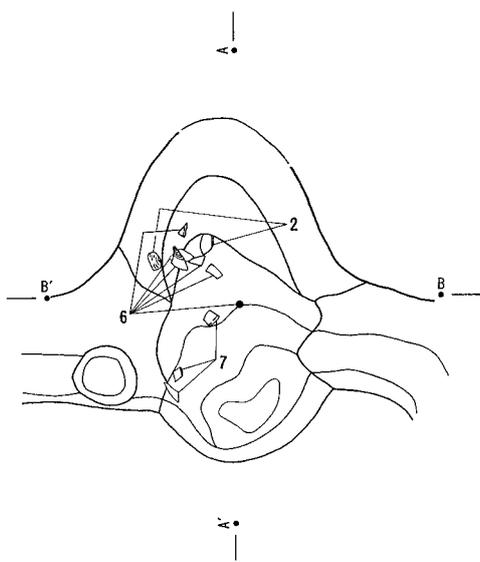
第18図 5号住居址

カマド1

カマドは東壁の南東コーナーに近い箇所に位置し、最も新しいカマドである。規模は幅110cm、奥行135cm、平面プランはU字状を呈する。壁外へは65cm掘り込んでいる。火床部は床面から26cm掘り下げ、幅22cm、奥行13cmをはかる。

カマド2

カマド1の前に築かれたカマドで、北壁の中央に位置する。規模は幅110cm、奥行168cm、平面プラン



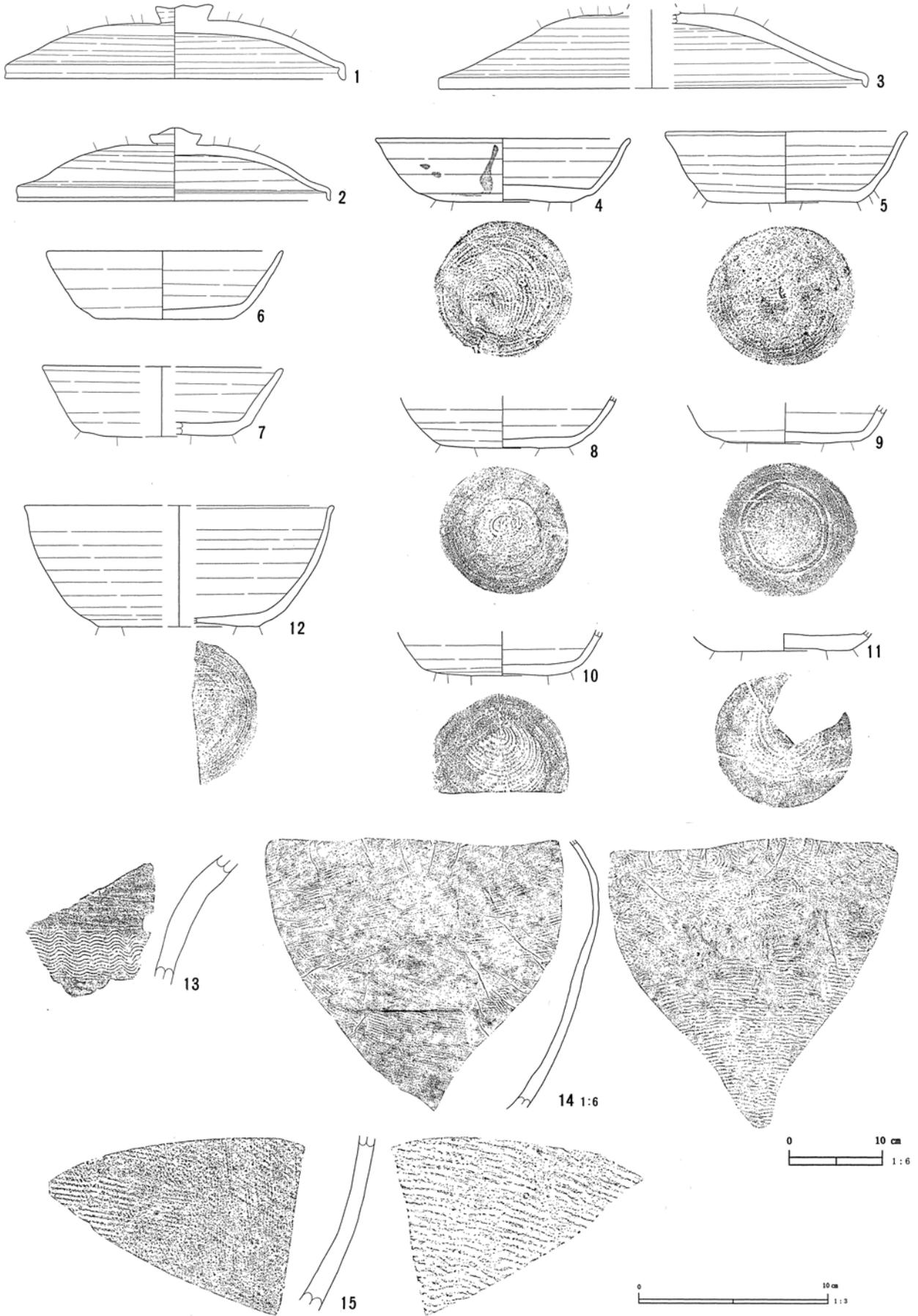
**5号住居址カマド1**

- 1層 明茶褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗黄茶褐色土 粘土粒子を多量に含む。
- 3層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 4層 赤褐色土 焼土粒子を多量に含み、粘土粒子を微量含む。
- 5層 暗黄褐色土 ロームブロックが主体。
- 6層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、ローム粒子を少量、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 7層 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 8層 暗黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 9層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 10層 暗黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

**5号住居址カマド2**

- 1層 暗褐色土 粘土粒子を少量含み、ローム粒子を微量、焼土粒子を極微量含む。
- 2層 暗黄茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 4層 暗黄褐色土 粘土粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子、粘土粒子を少量含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 7層 明褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 8層 暗黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 9層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含み、粘土粒子を微量含む。
- 10層 暗赤褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 11層 暗赤褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 12層 暗褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 13層 暗黒褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを少量含む。
- 14層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。

第19図 5号住居址カマド1 カマド2



第20图 5号住居址出土遗物(1)

は細長いU字状を呈する。壁外へは80cm掘り込んでいる。火床部は床面から24cm掘り下げ、幅40cm、奥行25cmをはかる。

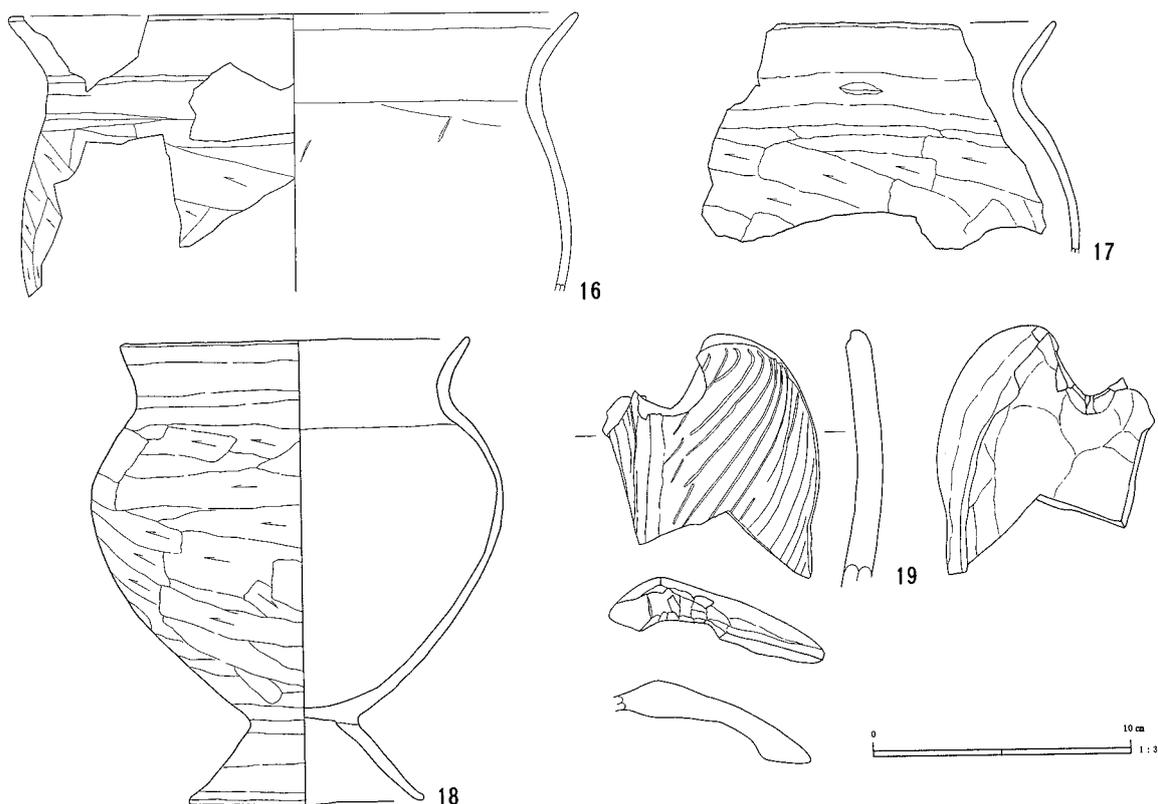
### カマド3

最初に築かれたカマドで、北壁の北東コーナー近くに位置する。煙道部は現存せず、火床部のみの確認である。火床部は床面から17cm掘り下げ、幅24cm、奥行33cmをはかる。

第12表 5号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	14-1	蓋	18.1	-	-	4.0	還元焰焼成	壁際から出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみはボタン状で径3.0cm。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。完形。
2	14-2	蓋	16.6	-	-	3.9	酸化焰焼成	カマド1出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは擬宝珠状で径2.7cm。残存率80%。
3	-	蓋	(22.6)	-	-	-	半還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。残存率40%。
4	14-4	坏	(13.5)	7.2	8.9	3.4	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。底部外面に篋記号。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率60%。
5	-	坏	12.9	8.0	8.2	3.7	還元焰焼成	周溝出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率80%。
6	-	坏	12.6	7.3	8.0	3.7	半還元焰焼成	カマド1出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率90%。
7	-	坏	12.8	8.3	8.5	3.8	半還元焰焼成	カマド1出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率60%。
8	-	坏	-	6.7	7.7	-	還元焰焼成	壁際から出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。口縁部は欠損。残存率60%。
9	-	坏	-	7.0	8.3	-	還元焰焼成	床面付近出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。口縁部は欠損。残存率50%。
10	-	坏	-	7.1	7.8	-	還元焰焼成	床面付近出土。底部は回転糸切り後外周部手持ち篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。
11	-	坏	-	7.2	8.3	-	半還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。
12	14-12	埴	(16.3)	(8.5)	-	6.5	還元焰焼成	床面付近出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率50%。

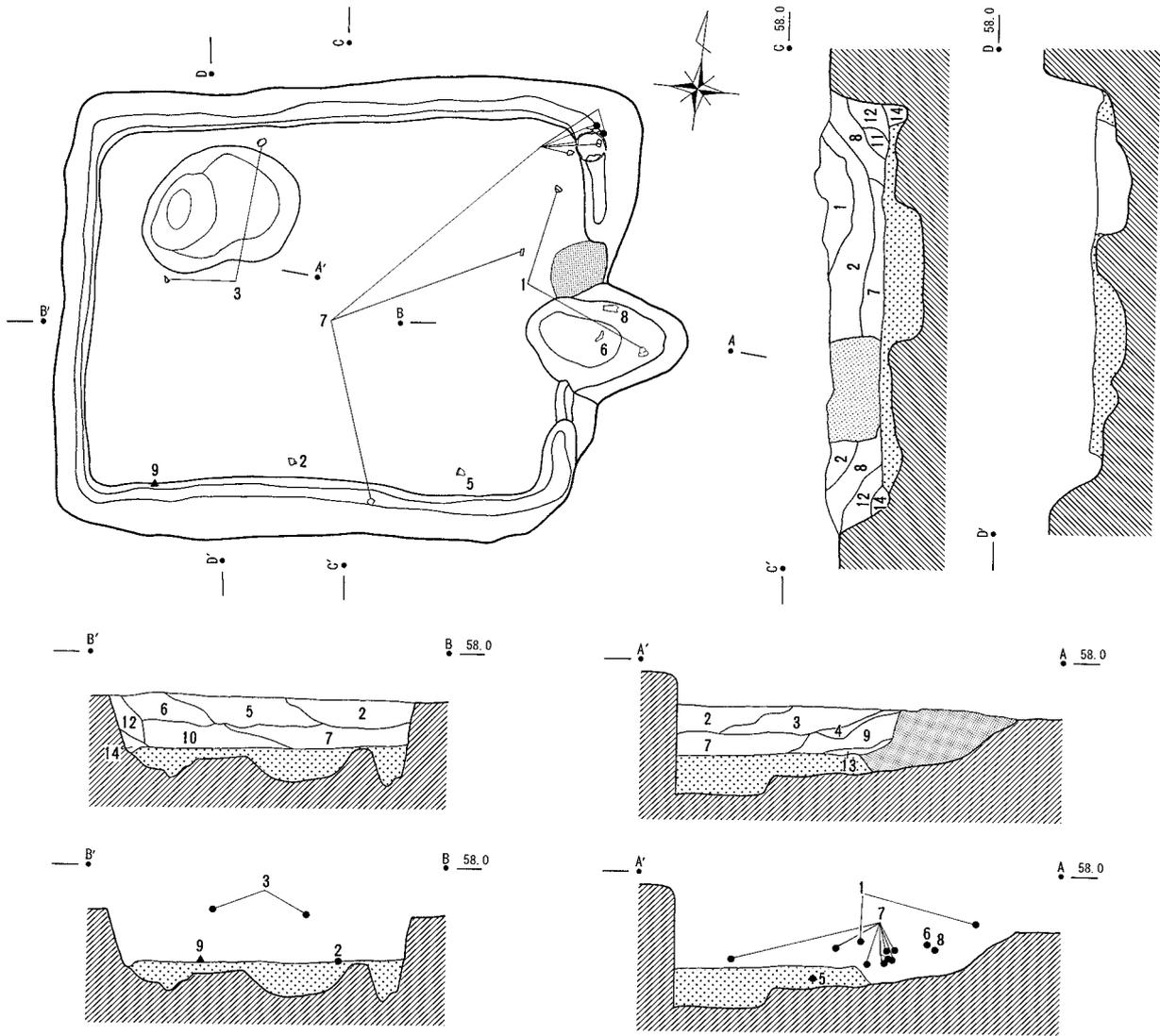


第21図 5号住居址出土遺物(2)

第13表 5号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
13	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。器外面に波状文が横走する。
14	14-14	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	床面出土。器外面に斜め方向の平行叩き。器内面には同心円の当て具痕。15は同一土器と思われる。
15	14-5	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面には同心円の当て具痕。14は同一土器と思われる。
16	-	甕	(22.0)	-	-	-	土師器	口縁部はくの字を呈する。口縁部の内外面に横ナデ。胴部外面に斜め方向の篋削り。
17	-	甕	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に斜め方向の篋削り。
18	15-18	台付甕	13.6	脚部径 9.5	-	18.3	土師器	周溝出土。口縁部は弱く外反し、くの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に横方向の篋削り。脚部はナデ整形。残存率80%。
19	15-19	鳥形硯	-	-	-	-	還元焰焼成	鳥形硯の羽蓋。器外面は羽蓋の中央に稜を持ち、外縁に向けて緩やかな傾斜を持つ。線刻により羽を表現している。硯本体の首を入れる箇所を、篋で切っけて設けている。内面の周縁部は肥厚させている。



**6号住居址**

- 1層 暗茶褐色土 粘土粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 3層 暗褐色土 粘土粒子、焼土粒子を微量含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子、粘土粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 5層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子含み、焼土粒子を少量含む。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 8層 暗褐色土 焼土粒子を微量含み、ローム粒子を極微量含む。

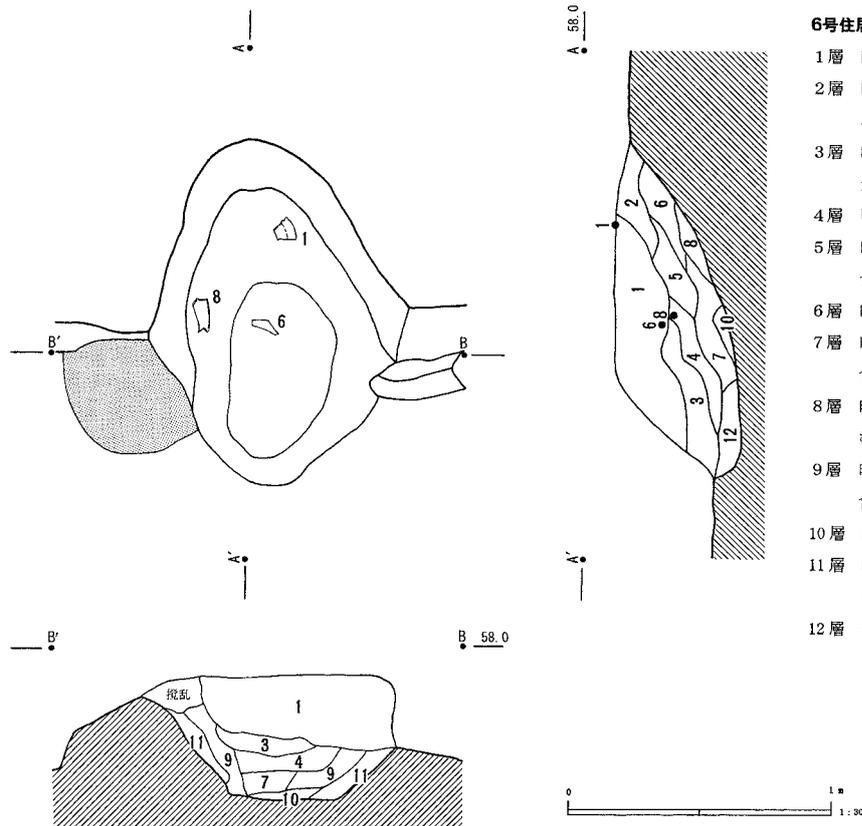
- 9層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 10層 明褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多量に含み、炭化物粒子を少量含む。
- 11層 暗黄褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを少量含む。
- 12層 暗褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 13層 暗赤褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 14層 暗黄褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを微量含む。

第 22 図 6号住居址

**6号住居址**

本遺構は平成 8 年に住居址の東半分の調査を行い、残り部分の調査は平成 14 年に行った。規模は東西 4.75 m、南北 3.9 m をはかり、主軸方位は N - 88° - E である。平面プランは長方形を呈する。東壁の中央から南寄りにカマドを構築している。

床面は周溝際まで硬化面が広がり、非常に良好である。貼床下はカマド正面から中央部にかけて大きく落ち込む。壁は南壁を除き、僅かな傾斜を持って立ち上がり、壁高は 10 ~ 15cm をはかる。壁に沿って幅 8 ~ 25cm、深さ 7 ~ 18cm の周溝がカマドを除き巡っている。



**6号住居址カマド**

- 1層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗赤褐色土 粘土粒子を少量含み、焼土粒子、焼土小ブロックを微量含む。
- 3層 暗赤褐色土 焼土粒子多量に含み、ローム粒子を微量含む。
- 4層 明赤褐色土 焼土粒子、粘土粒子を多量に含む。
- 5層 暗茶褐色土 粘土粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 6層 暗茶褐色土 粘土粒子を多量含む。
- 7層 暗褐色土 焼土粒子を少量含み、ローム粒子を微量含む。
- 8層 暗黄褐色土 ローム粒子、粘土小ブロックを微量含む。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 10層 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 11層 暗茶褐色土 ローム粒子、粘土小ブロックを少量含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 12層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。

第23図 6号住居址カマド

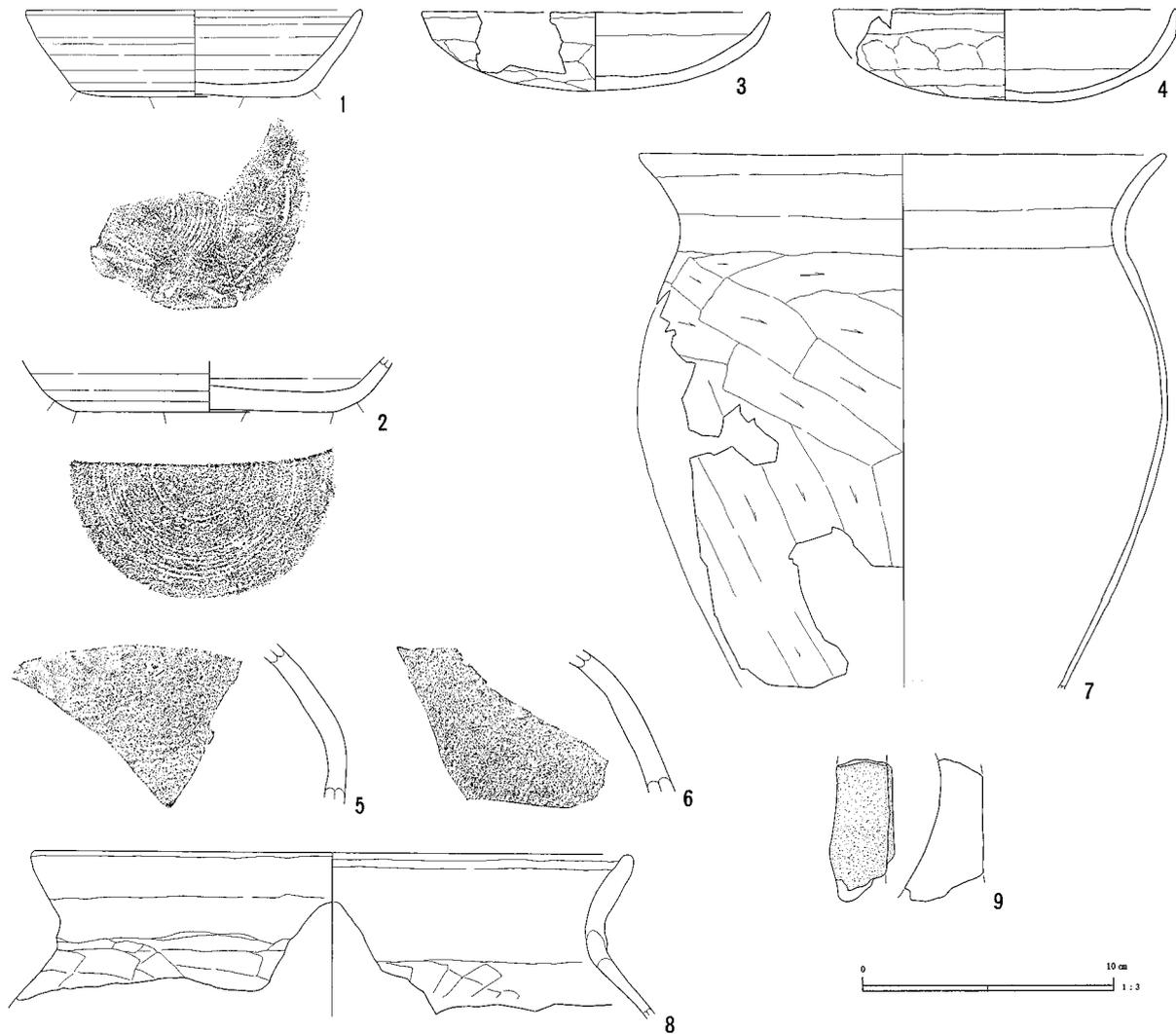
カマド

カマドは東壁の中央より南寄りに位置する。規模は幅96cm、奥行132cmで、平面プランはU字状を呈す。壁外へは65cm掘り込んでいる。火床部は床面から10cm掘り込んでいる。幅40cm、奥行68cmをはかる。

第14表 6号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	15-1	坏	(13.5)	(9.4)	-	3.5	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。器内面の体部と底部の変換点に爪先技法。胎土が緻密。前内出窯跡系。残存率50%。
2	-	坏	-	(12.0)	-	-	半還元焰焼成	床面出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。器外面体部下端に回転篋削り。
3	-	坏	(14.0)	-	-	3.2	土師器	口縁部外面、器内面は横ナデ整形。体部外面は篋削り。残存率50%。
4	15-4	坏	(13.8)	-	-	3.7	土師器	口縁部外面、器内面は横ナデ整形。体部外面は篋削り。口縁部は垂直に立ち上がる。器内面口縁部に煤が付着。残存率30%
5	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	貼床下出土。肩部。器外面に斜め方向の平行叩き。器内面に当て具痕。器外面に自然釉が付着。
6	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。器外面はナデ整形。器内面は当て具痕の後にナデ整形。



第24図 6号住居址出土遺物

第15表 6号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値 < >は既存値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
7	15-7	甕	21.1	-	-	-	土師器	周溝出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に横方向、斜め方向の匏削り。
8	-	甕	(24.0)	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に横方向の匏削り。

挿図番号	図版番号	種類	長さ	幅	重さ(g)	石質	観察・特徴
9	-	砥石	<5.7>	2.5	<46>	凝灰岩	床面付近出土。両面、両側面に擦り痕が残る。

7号住居址、5号土壙

本住居址は、5号土壙、2号溝と重複し、5号土壙が古く、2号溝は新しい。規模は東西5.3m、南北5mをはかり、主軸方位はN-4°-Wである。平面プランは方形を呈する。北壁の中央にカマドを構築している。南東コーナーには2号溝が大きく重複している。床面は周溝付近と四隅を除き、硬化面が広がっている。貼床下は北東コーナー周辺が大きく窪み、住居址中央に径1.5mの土壙、北西コーナーに長軸1.4m、短軸1mの土壙を確認した。

壁は傾斜を持って立ち上がり、壁高は20～33cmをはかる。壁に沿って幅10～18cm、深さ10～20cmの周溝がカマドを除き巡る。周溝には径15cm前後の小ピットが見られる。

柱穴は各コーナーに対応する4本と、南壁に沿った中央より西寄りに小さな柱穴を1本確認した。P1は重複しており、径55～60cm、深さ53cm、P2は2号溝と重複し、現存径30cm、深さ53cm、P3は径46～50cm、深さ47cm、P4は径55cm、深さ67cmをはかる。P5は径30cm、深さ54cmをはかる。

カマド

カマドは北壁の中央に位置する。カマド煙道部に5号土壙が重複し、土壙が古く、カマドが新しい。規模は幅87cm、奥行153cmで、平面プランはU字状を呈する。壁外へは80cm掘り込んでいる。火床部は床面から13cm掘り下げ、径15cmをはかる。左右袖に土師器甕（第27図8）を逆位に置き、袖の基礎としている。

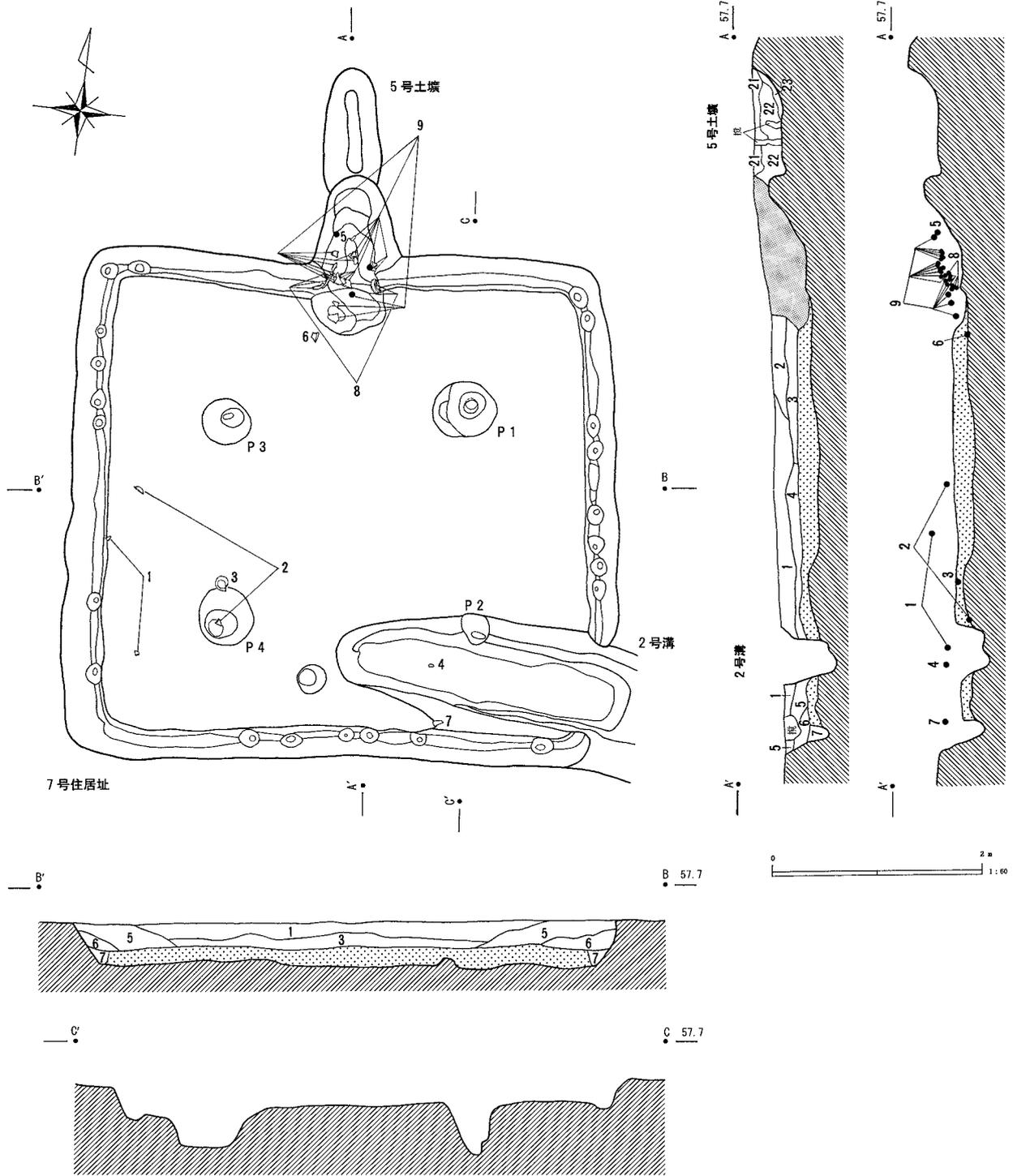
5号土壙

7号住居址と重複し、新旧関係は本遺構が古い。規模は長軸不明、短軸55cm、深さ28cmをはかる。平面プランは楕円形を呈する。

第16表 7号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	蓋	(15.0)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。口縁部にかえりを持つ。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率25%。
2	-	蓋	(18.0)	-	-	-	還元焰焼成	P4出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率25%。
3	15-3	坏	14.7	9.6	9.5	3.4	半還元焰焼成	床面出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率80%。
4	-	坏	-	-	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。底部外面に篋記号。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
5	-	坏	-	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部外面、器内面は横ナデ整形。体部外面は篋削り。口縁部と体部の境に低い段を有する。
6	-	坏	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。口縁部外面、器内面は横ナデ整形。体部外面は篋削り。口縁部と体部の境に低い段を有する。
7	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の篋削り。器内面はナデ整形。



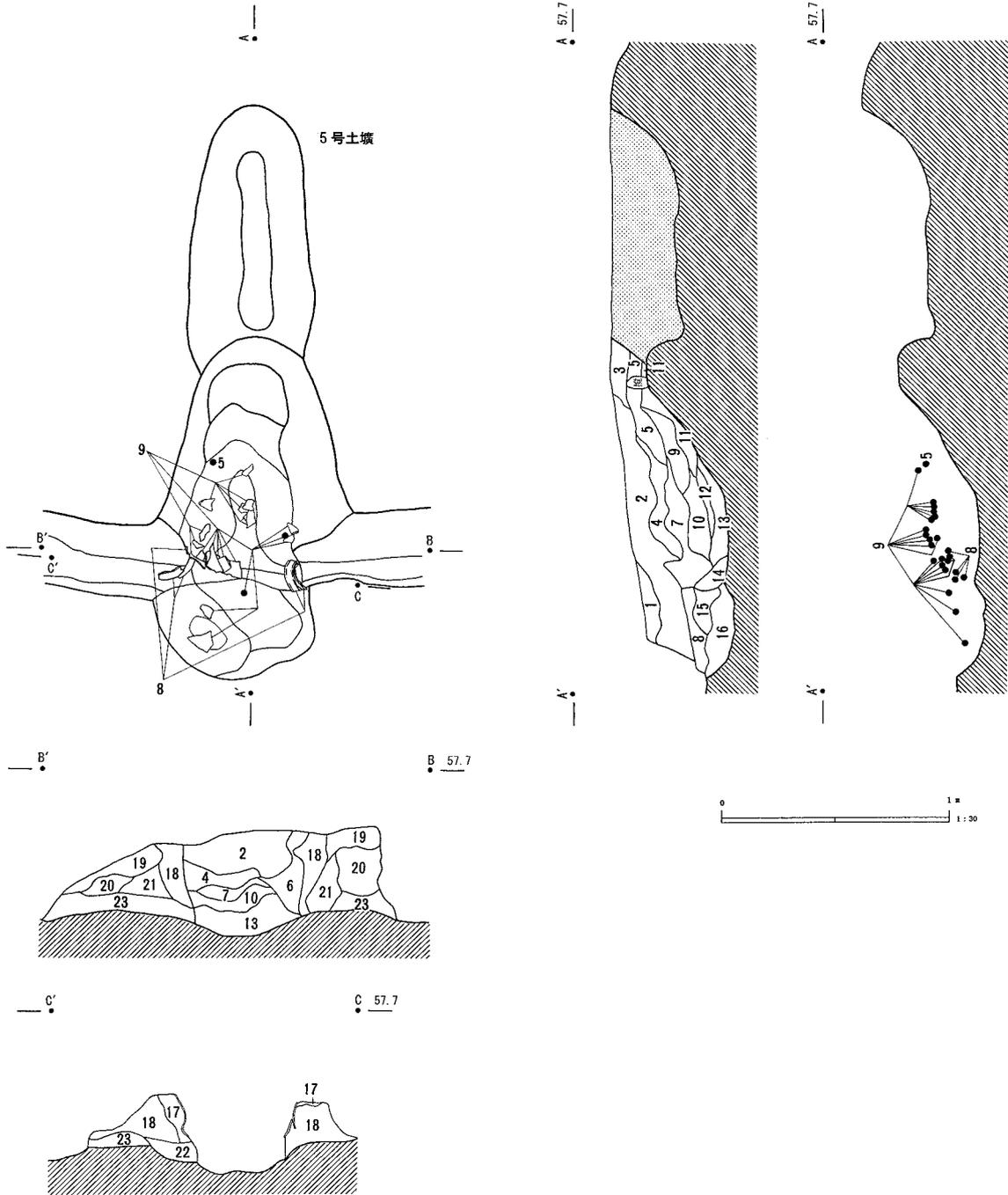
**7号住居址**

- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、粘土粒子、焼土粒子を微量含む。
- 3層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含み、焼土粒子、炭化物粒子を極微量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子、炭化物粒子を極微量含む。
- 5層 暗黒褐色土 ローム粒子を極微量含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを微量含む。

**5号土壌**

- 21層 暗赤褐色土 焼土粒子、粘土粒子を少量含む。
- 22層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 23層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。

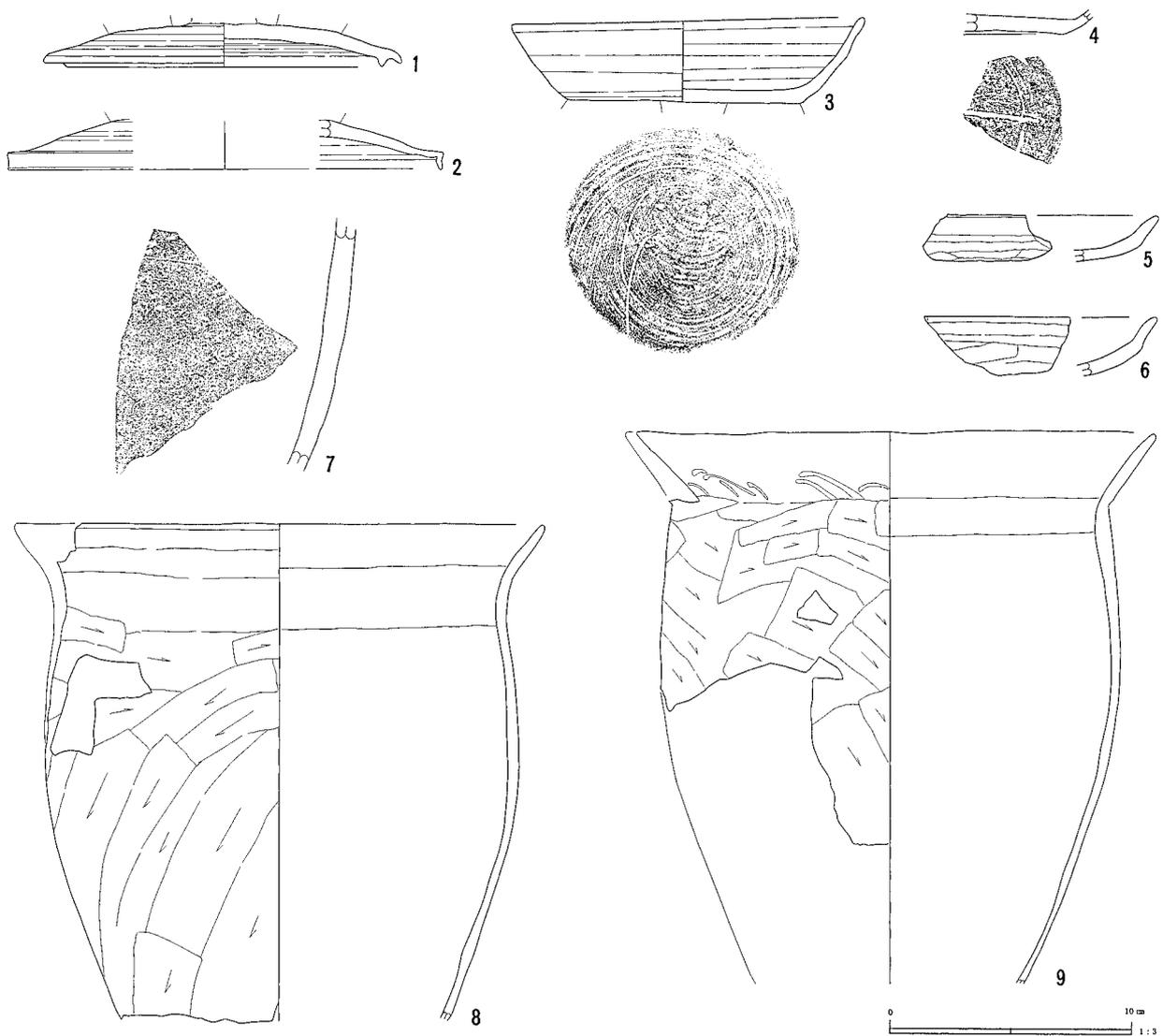
第25図 7号住居址 5号土壌



**7号住居址カマド**

- |  |   |
|--|---|
| <p>1層 暗褐色土 粘土粒子を微量含み、焼土粒子を極微量含む。</p> <p>2層 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子を微量含む。</p> <p>3層 暗茶褐色土 ローム粒子を少量含む。</p> <p>4層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含む。</p> <p>5層 暗茶褐色土 粘土粒子を多量含み、焼土粒子を微量含む。</p> <p>6層 暗黄褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを少量含む。</p> <p>7層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含み、粘土粒子を少量含む。</p> <p>8層 暗茶褐色土 粘土粒子を多量に含む。</p> <p>9層 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。</p> <p>10層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。</p> <p>11層 暗褐色土 ローム粒子を多量含み、焼土粒子を極微量含む。</p> <p>12層 暗黒褐色土 炭化物粒子を少量含む。</p> | <p>13層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。</p> <p>14層 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。</p> <p>15層 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量含む。</p> <p>16層 暗黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。</p> <p>17層 暗茶褐色土 粘土粒子、焼土粒子を少量含む。</p> <p>18層 暗黄茶褐色土 ローム粒子、粘土ブロックを多量含む。</p> <p>19層 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子を少量含む。</p> <p>20層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、粘土粒子を微量含む。</p> <p>21層 暗褐色土 焼土粒子、粘土粒子を微量含む。</p> <p>22層 暗茶褐色土 ロームを多量に含み、焼土粒子を微量含む。</p> <p>23層 暗黄褐色土 ローム、粘土粒子を多量に含む。</p> |
|--|---|

第26図 7号住居址カマド



第 27 図 7号住居址出土遺物

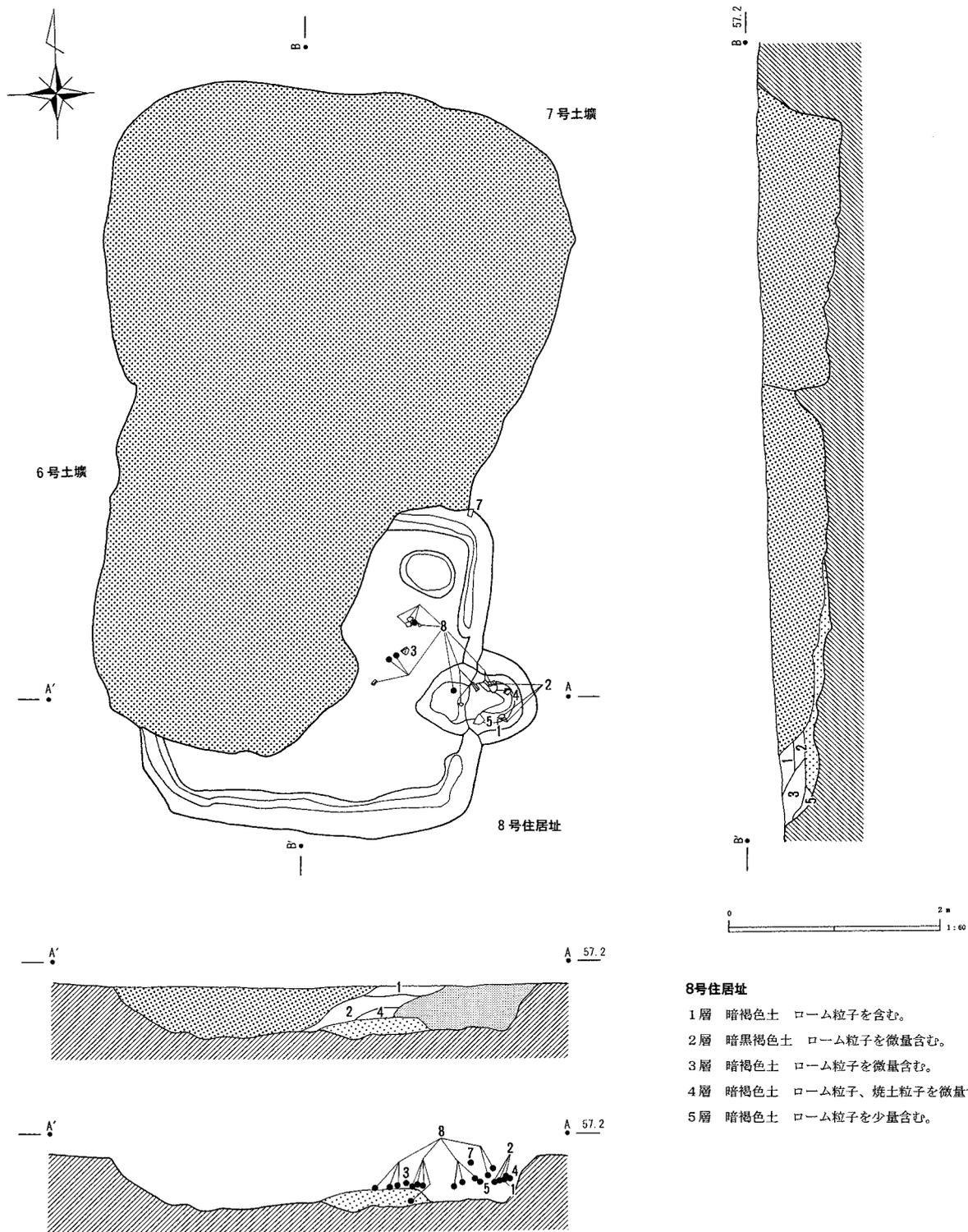
第 17 表 7号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
8	15-8	甕	22.0	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部は弱いくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に横、斜め方向の篋削り。
9	15-9	甕	22.0	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に横、斜め方向の篋削り。

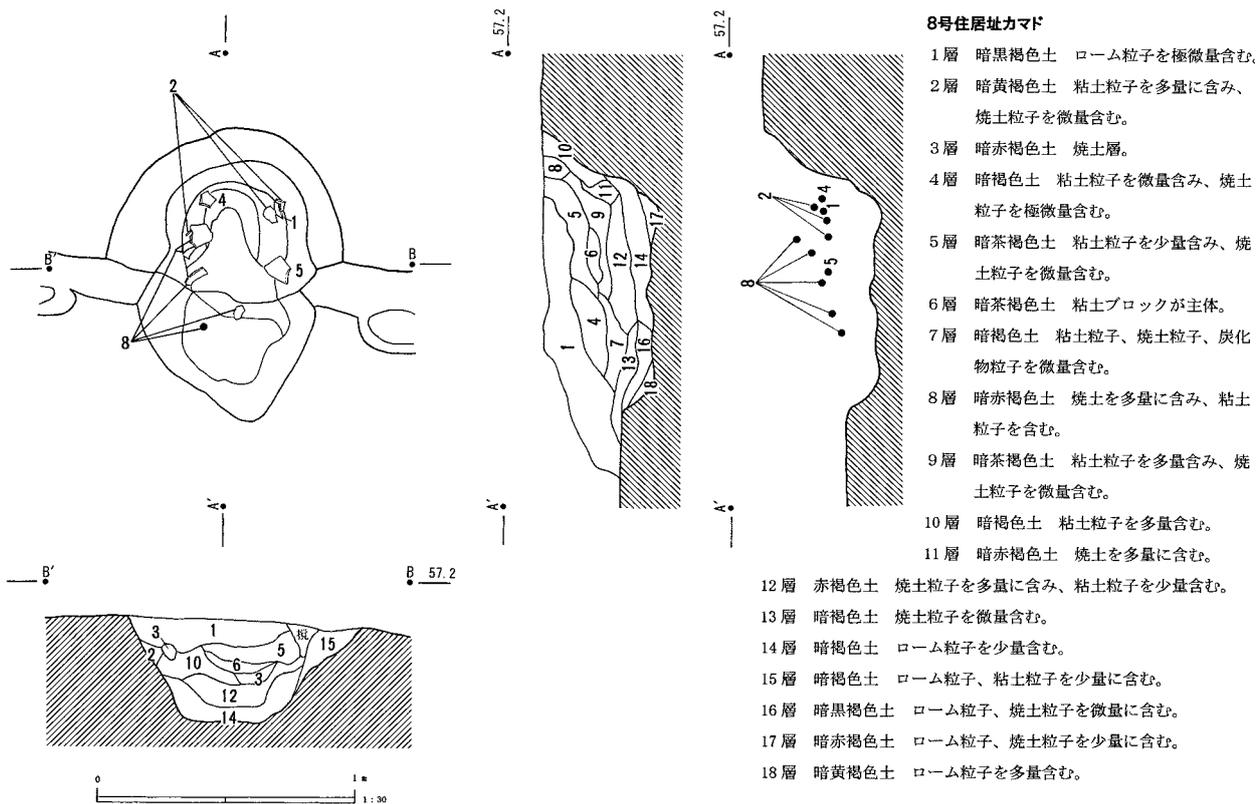
### 8号住居址

本住居址は6号土壙と西側で大きく重複している。新旧関係は8号住居址が古く、6号土壙が新しい。本住居址の規模は東西3.15m、南北3.25mをはかり、主軸方位はE-0.5°-Sである。平面プランは方形を呈すると思われる。カマドは東壁のやや南寄りに築かれ、北東コーナーで径40~55cm、深さ19cmの土壙を検出した。



第28図 8号住居址

床面は中央に硬化面が見られる。貼床下は北東コーナーで大きく落ち込む。壁は僅かな傾斜を持ち立ち上がり、壁高は25cmをはかる。壁に沿って幅4～20cm、深さ約10cmの周溝がカマドを除き巡っている。



第 29 図 8号住居址カマド

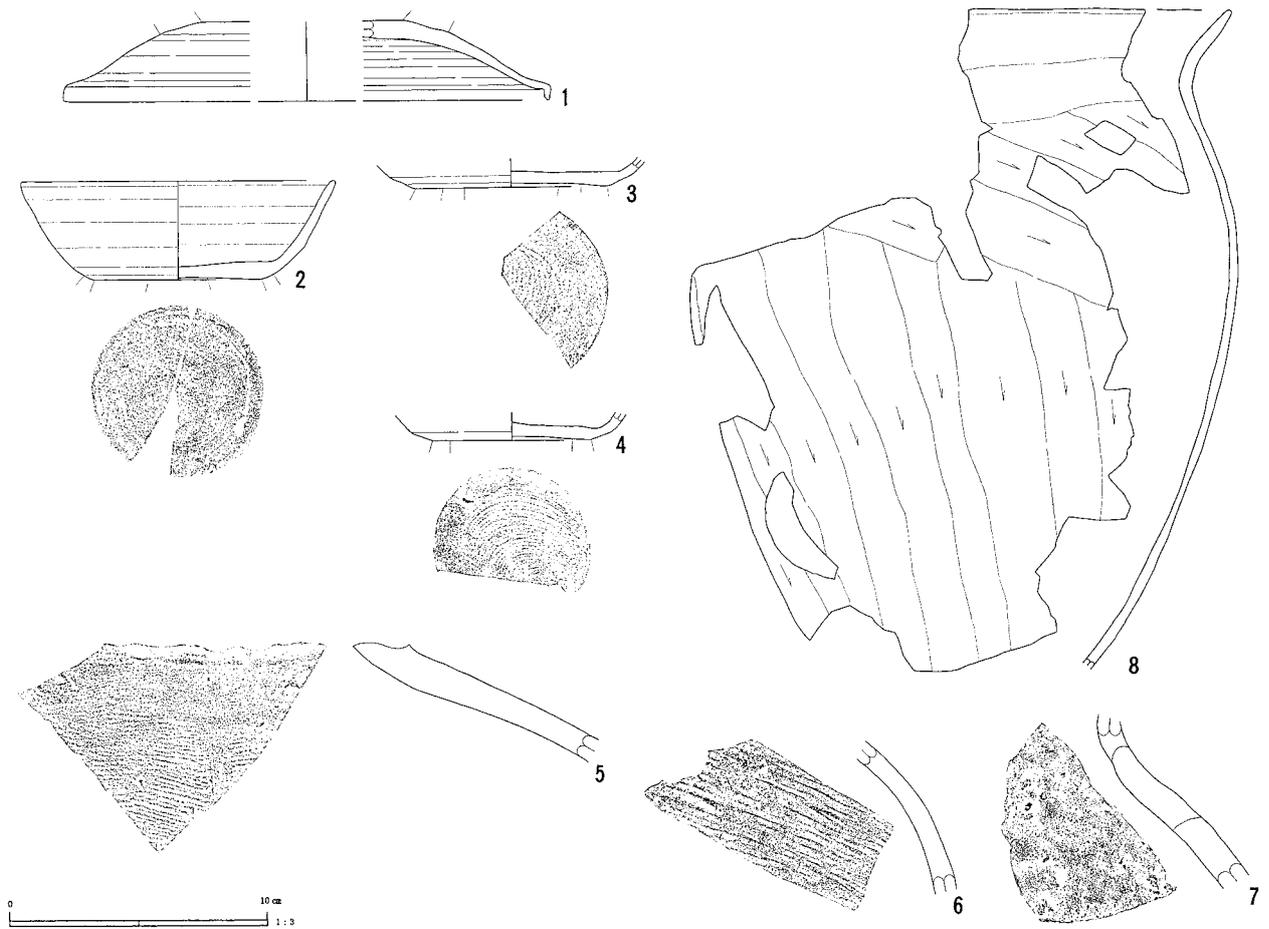
カマド

カマドは東壁のやや南寄りに位置している。規模は幅 90cm、奥行 115cmで、平面プランは幅広のU字状を呈する。壁外へは約 50cm掘り込んでいる。火床部は床面から 13cm掘り込んでいる。幅 40cm、奥行 25cmをはかる。

第 18 表 8号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	蓋	(18.8)	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率25%。
2	15-2	坏	(12.3)	6.5	6.4	3.9	還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率40%。
3	-	坏	-	(7.6)	-	-	還元焰焼成	床面付近出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
4	-	坏	-	(6.2)	-	-	還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
5	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。肩部。器外面に横方向の平行叩き。器内面はナデ整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。

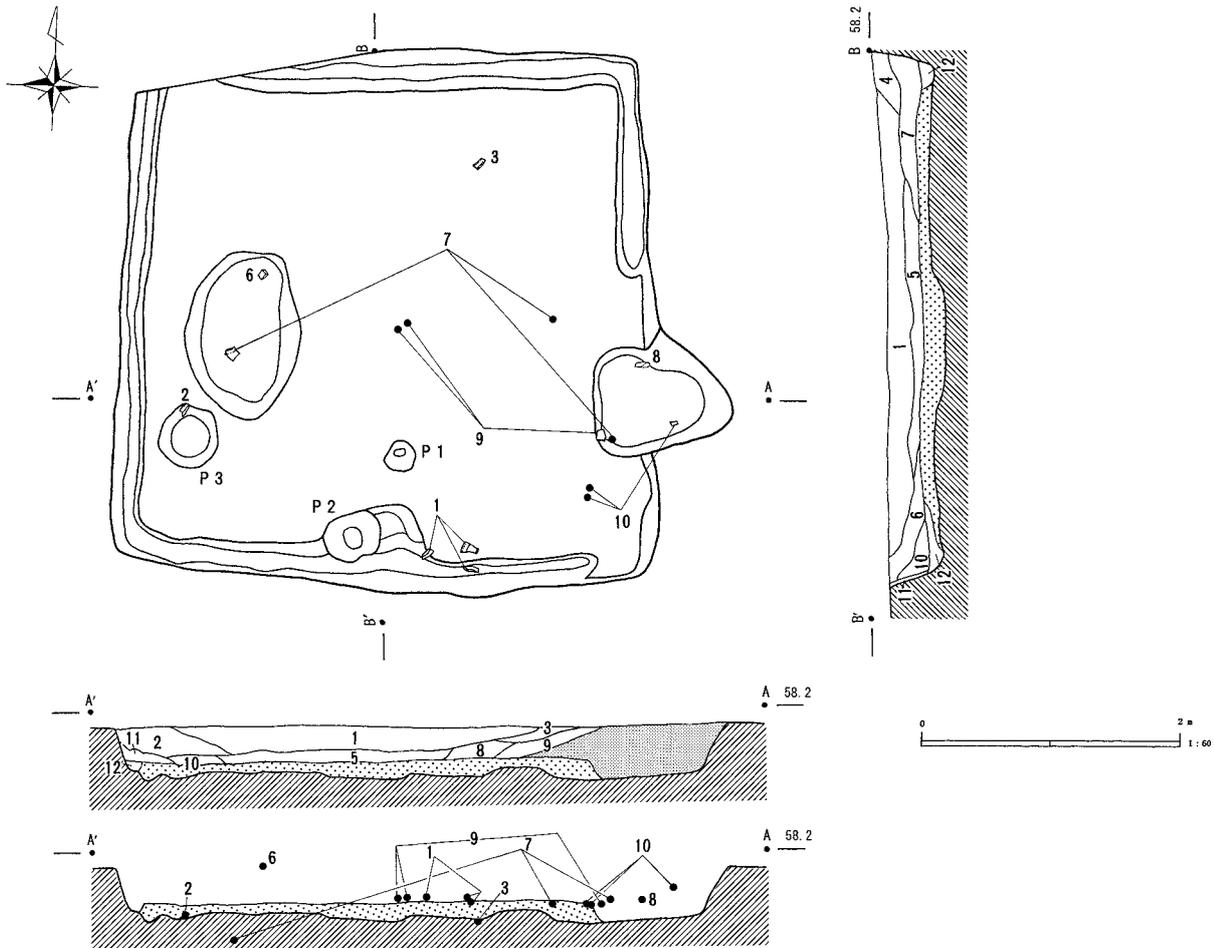


第30図 8号住居址出土遺物

第19表 8号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
6	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	東カマド出土。肩部。器外面に斜め方向の平行叩き。器内面はナデ整形。器外面に自然釉が付着。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
7	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	肩部。器外面に釉。湖西窯跡産と思われる。
8	15-8	甕	-	-	-	-	土師器	カマド、床面から出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に斜め方向の篋削り。



**9号住居址**

- |         |                        |          |                                |
|---------|------------------------|----------|--------------------------------|
| 1層 暗褐色土 | ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。   | 7層 明褐色土  | ローム粒子を含み、焼土粒子を極微量含む。           |
| 2層 暗褐色土 | ローム粒子、焼土粒子を含む。         | 8層 明褐色土  | ローム粒子を多量に含み、焼土粒子、粘土粒子を含む。      |
| 3層 明褐色土 | ローム粒子を含み、焼土粒子を微量含む。    | 9層 明褐色土  | ローム粒子、粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。      |
| 4層 暗褐色土 | ローム粒子を微量含み、焼土粒子を極微量含む。 | 10層 暗褐色土 | ローム粒子、焼土粒子、粘土粒子を多量に含む。         |
| 5層 暗褐色土 | ローム粒子に多量に含み、焼土粒子を微量含む。 | 11層 明褐色土 | ローム粒子を多量に含む。                   |
| 6層 明褐色土 | ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。  | 12層 暗褐色土 | ローム粒子、ロームブロックを多量に含み、焼土粒子を少量含む。 |

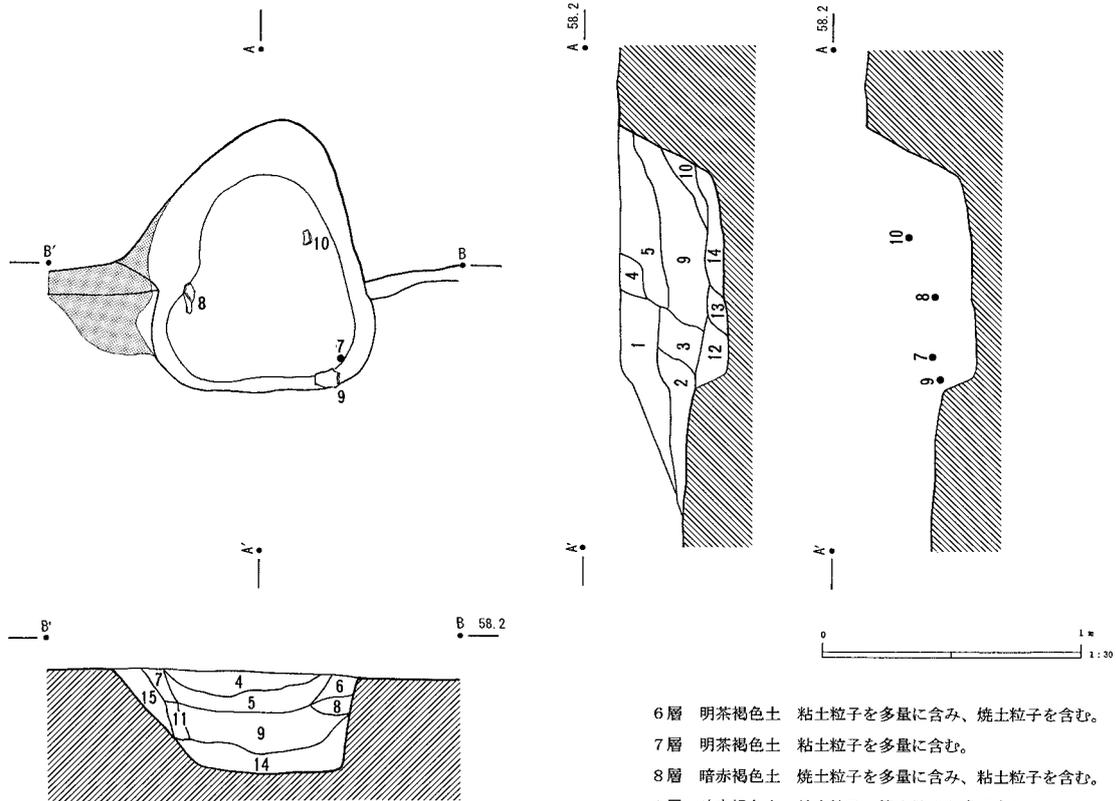
第31図 9号住居址

**9号住居址**

規模は東西4.2m、南北4.25mをはかり、主軸方位はE-1°-Sである。平面プランは方形を呈し、カマドは東壁の南寄りで見出した。床面は周溝、コーナー近くまで丁寧に築かれている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は25～35cmをはかる。壁に沿って幅13～25cm、深さ10cm前後の周溝がカマドを除き巡る。柱穴は3本確認され、南壁に沿った中央のP1は径25cm、深さ21cm、P2は周溝と重複し、径45cm、深さ31cm、南西コーナー付近のP3は径50cm、深さ21cmをはかる。西壁沿い中央で長軸133cm、短軸9cmの土塊1基を確認した。貼床下は住居址中央部が土塊状に落ち込み、南東、南西コーナーも落ち込む。

**カマド**

カマドは東壁の南寄りに位置する。規模は幅95cm、奥行115cm、平面プランは幅広のU字状を呈する。壁外へは65cm掘り込んでいる。火床部は床面から18cm掘り込み、幅72cm、奥行78cmをはかる。



**9号住居址カマド**

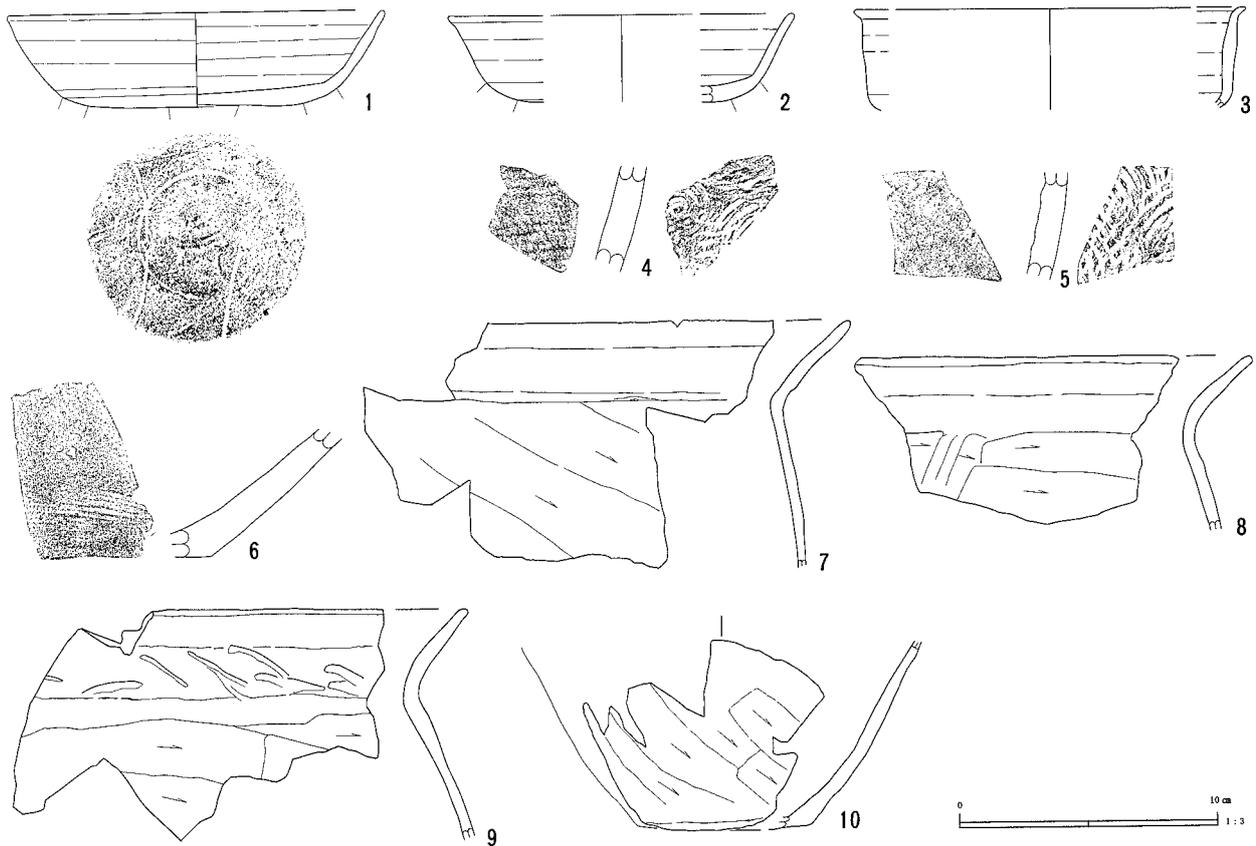
- 1層 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 2層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 3層 明褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 4層 明茶褐色土 粘土を含み、焼土粒子を微量含む。
- 5層 明茶褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 6層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 7層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含む。
- 8層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含み、粘土粒子を含む。
- 9層 暗赤褐色土 粘土粒子、焼土粒子を多量含む。
- 10層 明茶褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 11層 明茶褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を極微量含む。
- 12層 明褐色土 粘土粒子を多量含み、焼土粒子を微量含む。
- 13層 明茶褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 14層 明茶褐色土 粘土層。
- 15層 明褐色土 粘土を多量に含む。

第32図 9号住居址カマド

第20表 9号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	16-1	坏	14.7	8.4	9.9	3.7	半還元焰焼成	床面出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率90%。
2	-	坏	(13.5)	-	-	-	還元焰焼成	P3出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。器内面の体部と底部の変換点に爪先技法。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
3	-	坏	(15.2)	-	-	-	還元焰焼成	貼床下出土。体部は垂直に立ち上がり、口唇部は屈曲する。器内外面にロクロ水挽き整形。
4	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面に同心円の当て具痕。
5	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面はナデ整形。器内面には同心円の当て具痕。
6	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	胴部下半から底部。器外面はナデ整形後下端部を篋削り。器内面はナデ整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。



第 33 図 9号住居址出土遺物

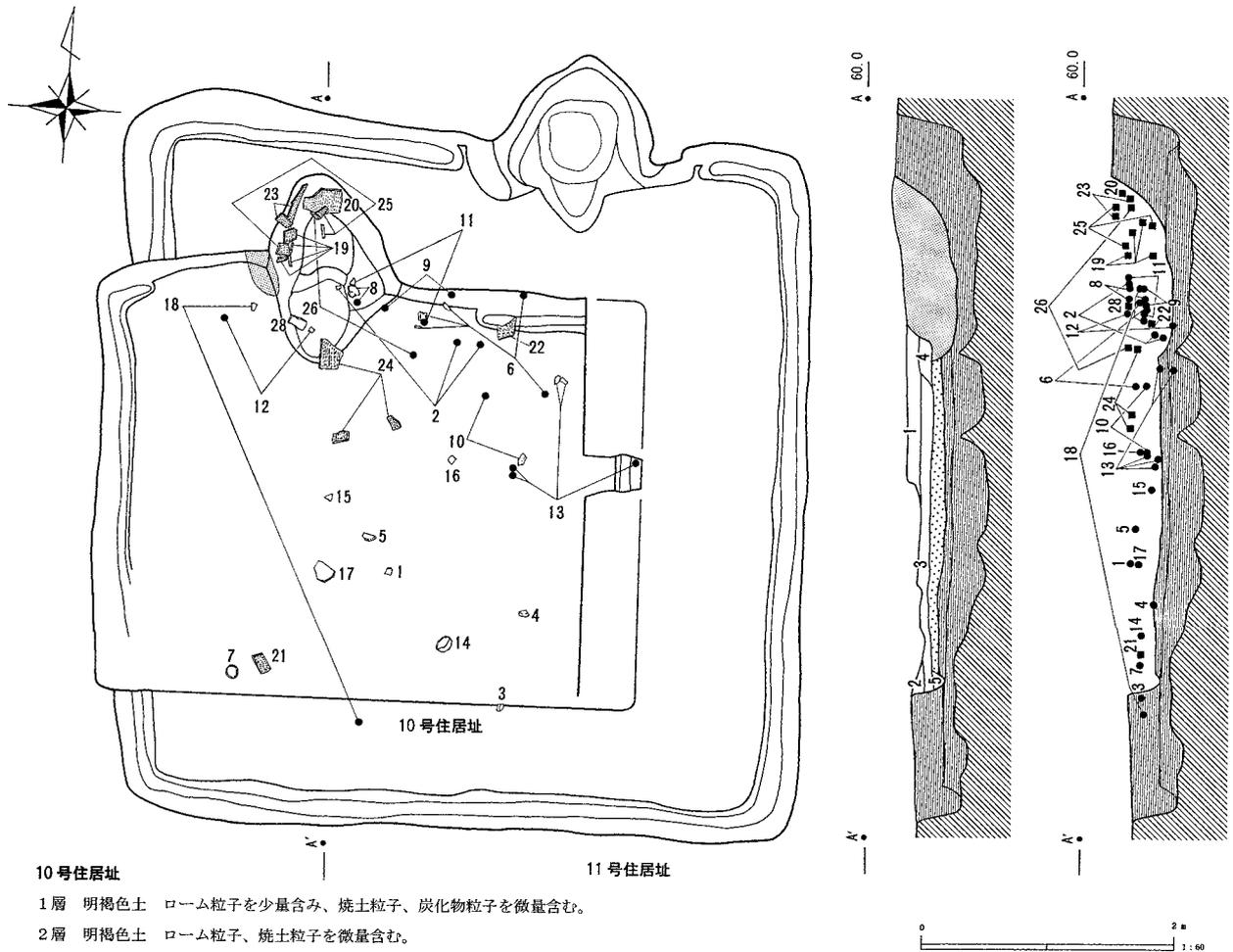
第 21 表 9号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
7	-	甕	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に斜め方向の篋削り。
8	-	甕	-	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に横方向の篋削り。
9	-	甕	-	-	-	-	土師器	床面出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。胴部外面に横方向の篋削り。
10	-	甕	-	(6.8)	-	-	土師器	カマド出土。胴部下半から底部。胴部外面に斜め方向の篋削り。

### 10号住居址

本遺構は11号住居址と大きく重複し、新旧関係は11号住居址が古く、本遺構が新しい。規模は東西4.3m、南北4.65mをはかり、主軸方位はN-3°-Wである。平面プランは方形を呈し、北壁のやや西寄りにカマドを構築している。壁は垂直に立ち上がり、壁高は20~25cmをはかる。カマド周辺から中央部、そして西側の周溝にかけては良好な床面が広がる。それ以外の箇所については床面が不明瞭だった。周溝は8~14cm、深さ10cm前後で、南壁の周溝はセクションベルトで確認している。北壁の一部分とカマドを除き巡っていたものと思われる。



10号住居址

- 1層 明褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 2層 明褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 3層 明褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。

第34図 10号住居址

カマド

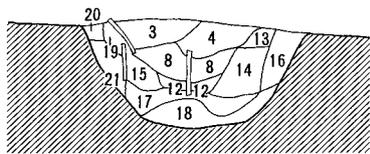
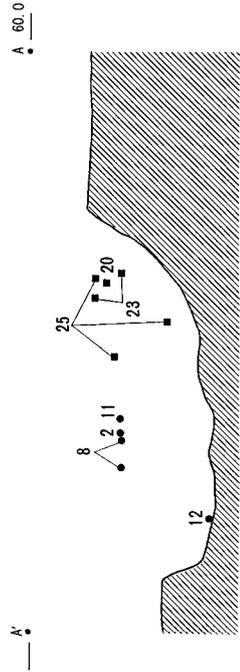
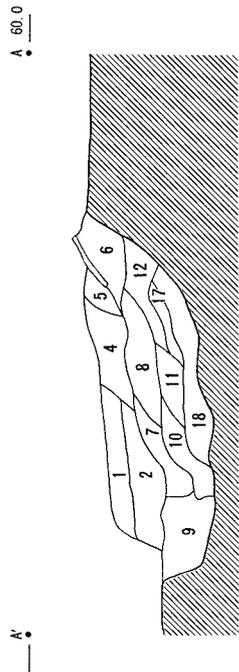
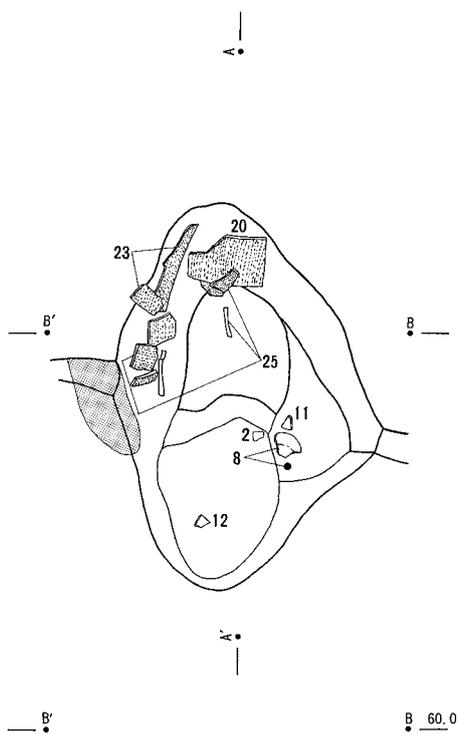
カマドは北壁のやや西寄りに位置する。規模は幅80cm、奥行153cm、平面プランは細長いU字状を呈する。壁外へは70cm掘り込んでいる。火床部は床面から20cm掘り下げ、幅40cm、奥行55cmをはかる。

煙道部西壁に瓦が並んで出土しており、構築の際に基礎として用いられたものと考えられる。煙道部の中央に瓦が直立状態で出土した。これは、五徳として用いたものと思われる。

第22表 10号住居址出土遺物観察表

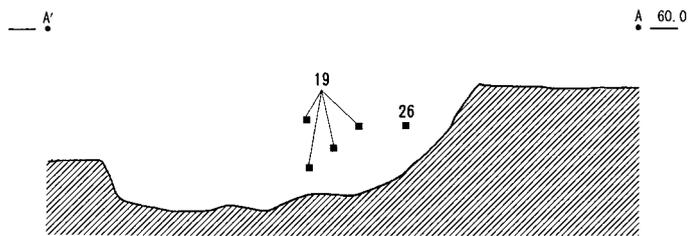
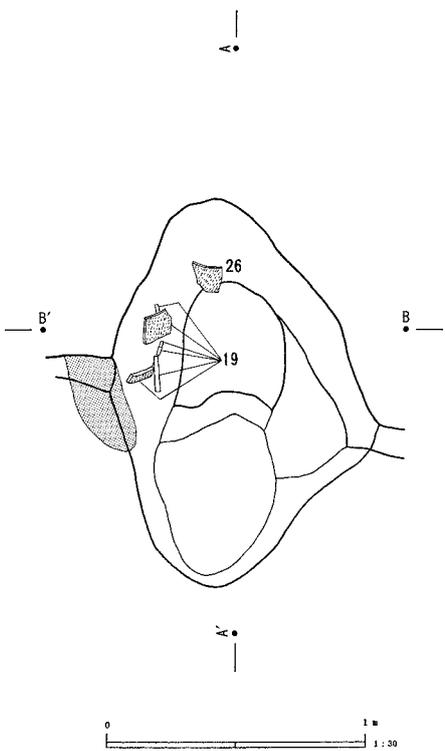
単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	蓋	(20.4)	-	-	3.7	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは環状。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
2	-	蓋	(15.6)	-	-	-	半還元焰焼成	カマド出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。
3	-	坏	-	(9.8)	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り後全面回転篋削り。
4	-	坏	(14.0)	(8.7)	-	2.7	還元焰焼成	床面出土。回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。

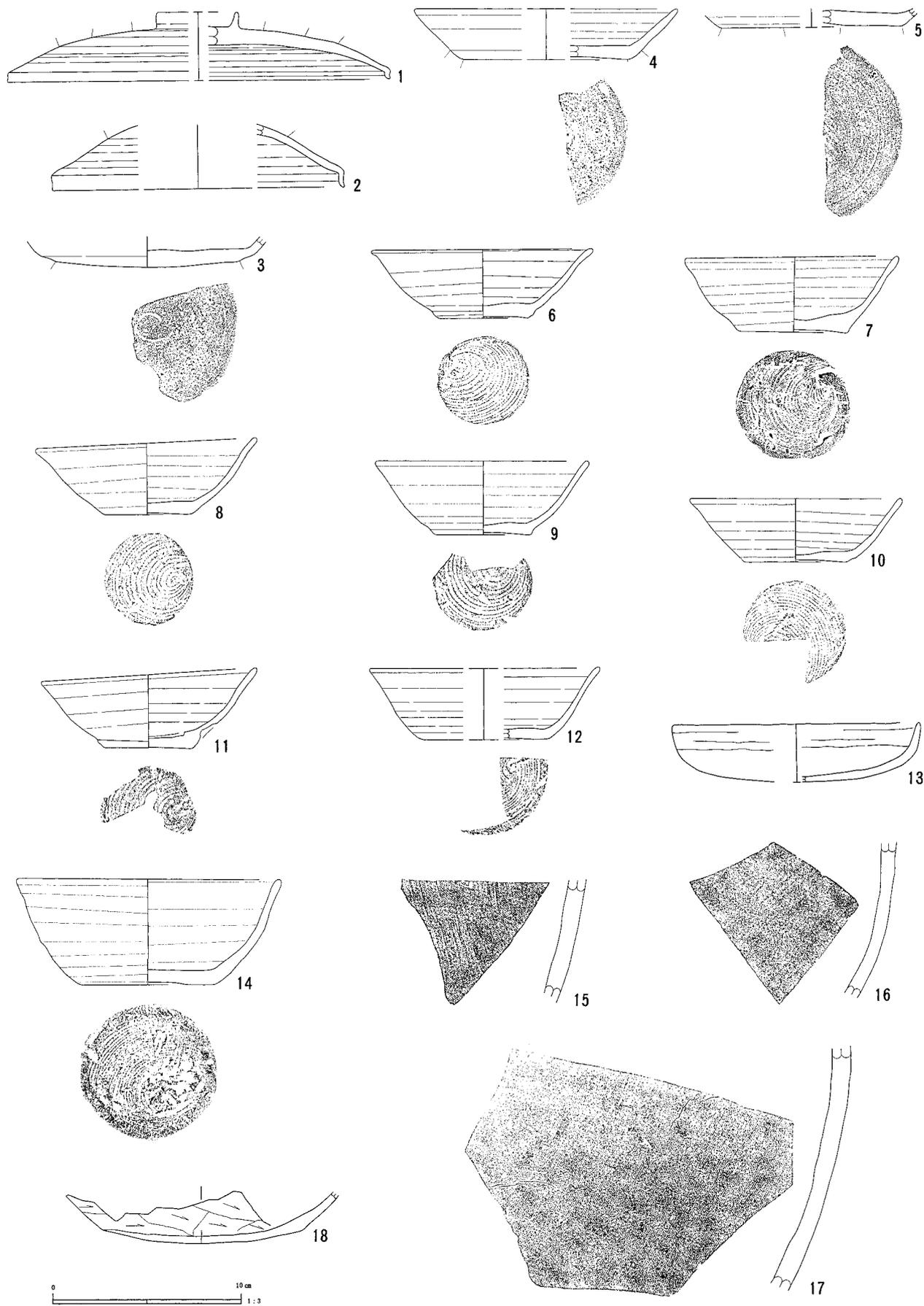


**10号住居址カマド**

- 1層 暗褐色土 粘土粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 粘土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3層 明褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 4層 明褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 5層 明褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 6層 暗褐色土 焼土粒子を多量に含む。
- 7層 暗褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 8層 暗赤褐色土 粘土、焼土を多量に含む。
- 9層 明褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 10層 暗褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 11層 明褐色土 粘土粒子、焼土粒子を多量に含む。
- 12層 明褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 13層 暗褐色土 粘土粒子、焼土粒子を微量含む。
- 14層 暗褐色土 焼土粒子を多量に含み、粘土粒子を少量含む。
- 15層 暗赤褐色土 粘土粒子、焼土粒子を多量に含む。
- 16層 暗褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 17層 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。
- 18層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 19層 暗褐色土 焼土粒子を多量に含む。
- 20層 暗褐色土 焼土粒子、粘土粒子を微量含む。
- 21層 暗褐色土 焼土粒子を含み、粘土粒子を微量含む。



第35図 10号住居址カマド



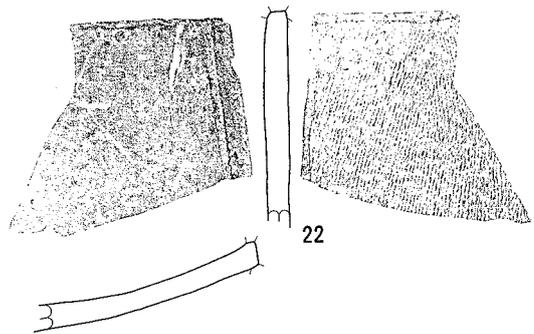
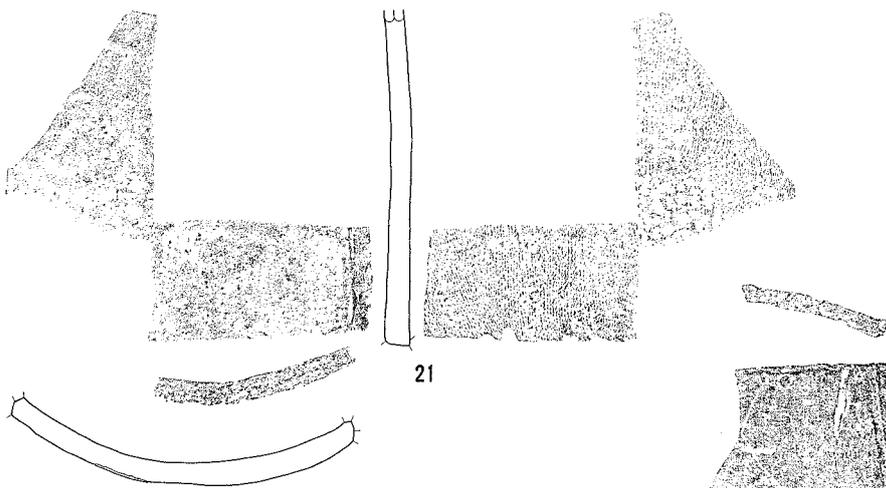
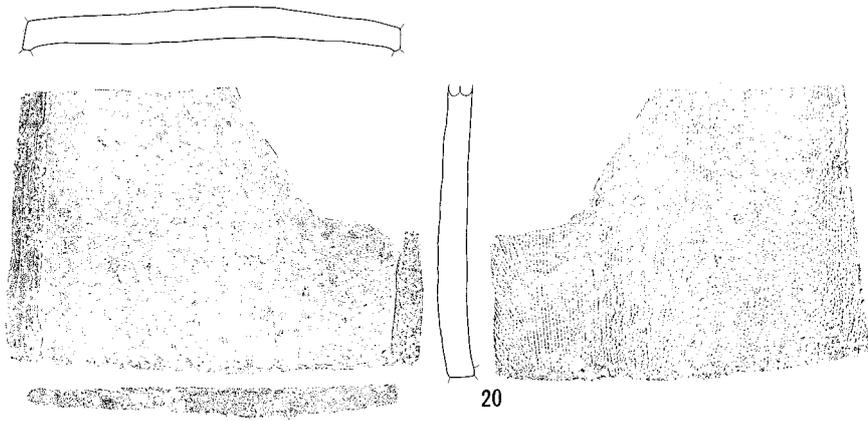
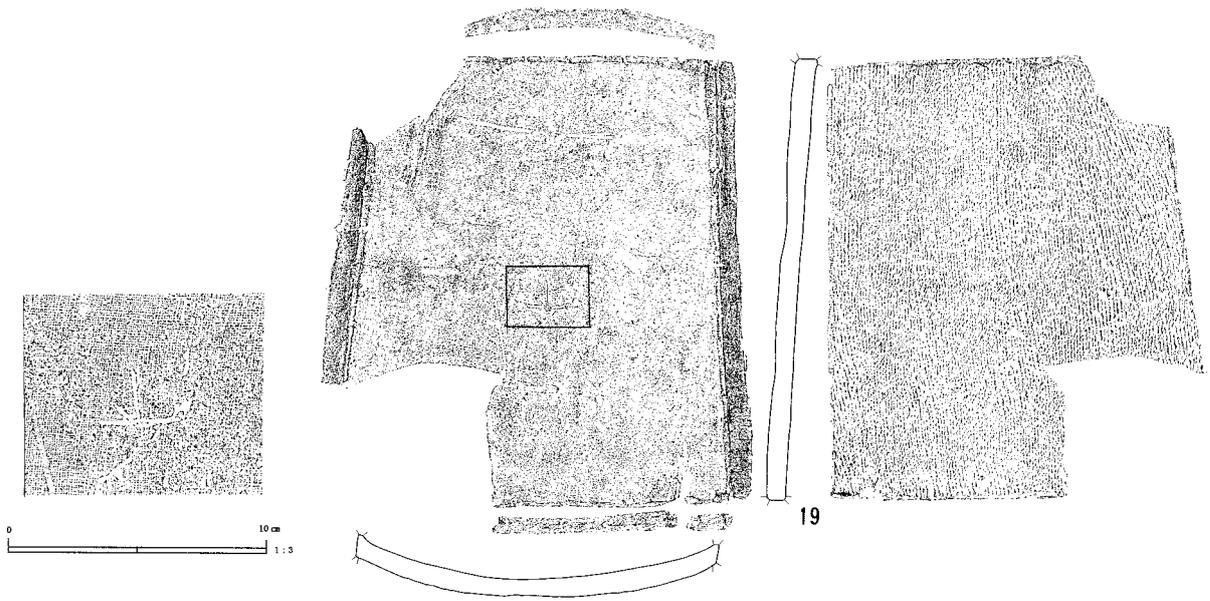
第 36 图 10 号住居址出土遗物 (1)

第23表 10号住居址出土遺物観察表

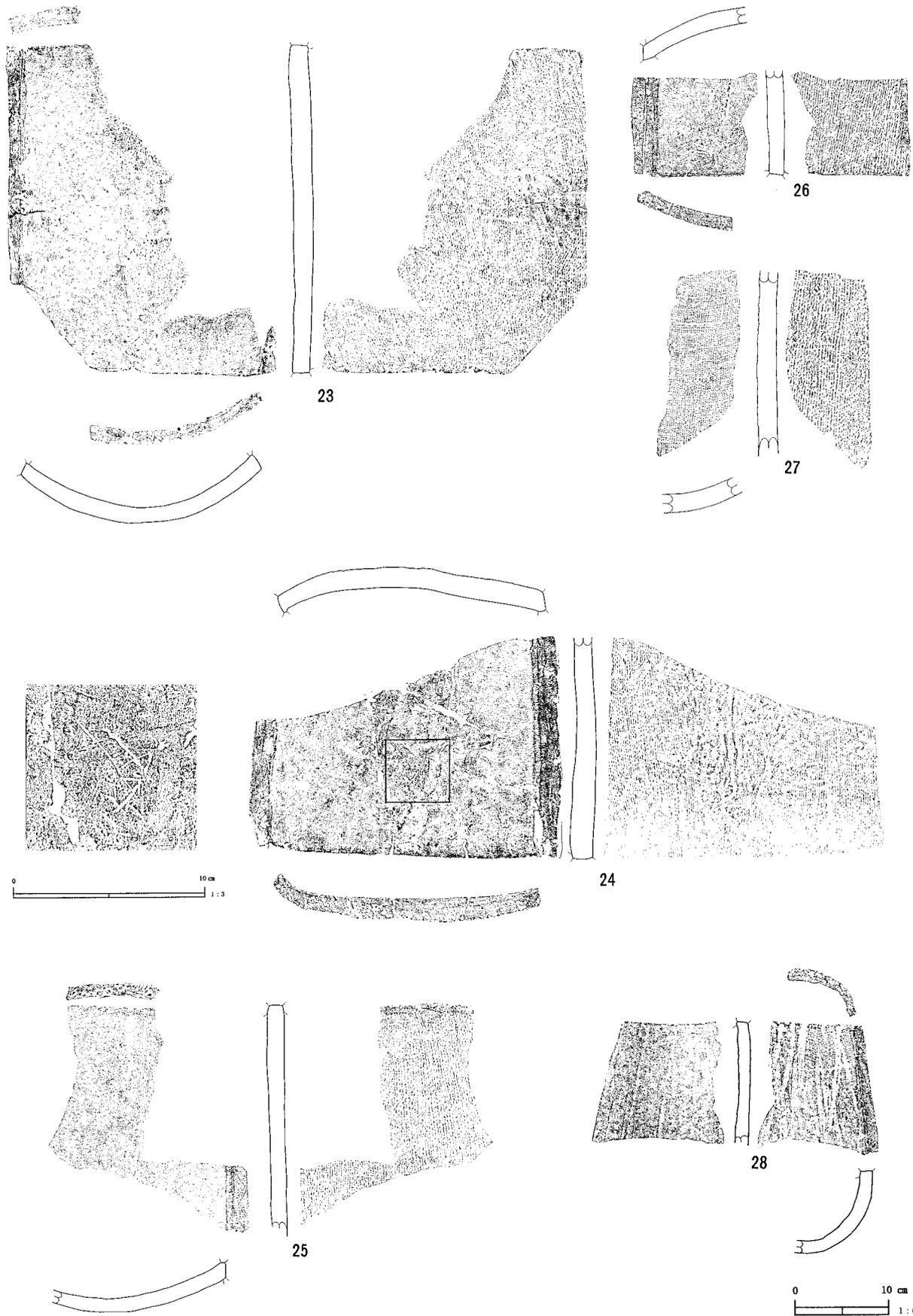
単位はcm ( )は推定値 ( )は既存値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
5	-	坏	-	(9.6)	-	-	半還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
6	16-6	坏	12.0	4.8	5.0	3.8	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。口縁部が僅かに外反。残存率80%。
7	16-7	坏	11.4	6.0	5.7	4.1	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。完形。
8	16-8	坏	11.8	4.8	4.9	3.8	還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。口縁部が僅かに外反。残存率70%。
9	16-9	坏	(11.4)	5.3	4.9	4.0	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率60%。
10	16-10	坏	11.4	5.6	5.5	3.5	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率70%。
11	-	坏	11.5	4.9	(4.8)	4.0	還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率70%。
12	-	坏	(12.3)	(6.8)	-	3.9	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率40%。
13	16-13	坏	13.3	-	-	3.2	土師器	床面付近出土。口縁部外面、器内面は横ナデ整形。体部外面は篋削り。口縁部は垂直に立ち上がる。底部は丸底。残存率70%
14	16-14	埴	14.1	7.1	6.5	5.8	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率100%。
15	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面は当て具痕の後にナデ整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
16	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面は当て具痕の後にナデ整形。
17	16-17	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面は斜め方向の平行叩き後にナデ整形。器内面は当て具痕の後にナデ整形。
18	-	甕	-	(10.8)	-	-	土師器	器外面に横、斜め方向の篋削り。器内面はナデ整形。底部は僅かに丸底で、縁辺部を篋削り。

挿図番号	図版番号	種類	長辺	短辺	焼成	観察・特徴
19	16-19	平瓦	35.5	上<19.9> 下<19.2>	還元焰焼成	カマド出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹凸面側部、端部に篋削り。残存率80%。凹面に棒状工具を用いた「下」の線刻文字。
20	16-20	平瓦	<28.3>	29.9	還元焰焼成	カマド出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹面側部、端部に篋削り。
21	17-21	平瓦	<26.4>	26.7	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹面側部、端部に篋削り。
22	16-22	平瓦	-	-	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹凸面端部と凹面側部に篋削り。



第 37 图 10 号住居址出土遺物 (2)



第38图 10号住居址出土遗物(3)

第24表 10号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値 < >は既存値

挿図番号	図版番号	種類	長辺	短辺	焼成	観察・特徴
23	17-23	平瓦	35.5	上<8.0> 下<18.5>	還元焰焼成	カマド出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹面側部、端部に篋削り。残存率60%。
24	17-24	平瓦	<23.8>	29.0	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹面側部、端部に篋削り。凹面に棒状工具を用いて「氏(?)」の線刻文字。
25	17-25	平瓦	-	<19.4>	還元焰焼成	カマド出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹凸面側部、端部に篋削り。
26	17-26	平瓦	-	-	還元焰焼成	カマド出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹凸面側部、端部に篋削り。
27	-	平瓦	-	-	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面に縄叩き。
28	17-28	丸瓦	-	-	還元焰焼成	凸面は縦方向の篋ナデ整形。凹面は布目痕。端面、側面、凹面側部に篋削り。

11号住居址

規模は東西5.85m、南北5.45mをはかり、主軸方位はN-2°-Eである。平面プランは方形を呈する。北壁の中央から東寄りにカマドを構築している。

床面は周溝際まで硬化面が広がり、非常に良好である。壁は僅かな傾斜を持って立ち上がり、壁高は23~42cmをはかる。壁に沿って幅10~23cm、深さ6~15cmの周溝がカマドを除き巡っている。貼床下は南西コーナーを除き、大きく落ち込む。

柱穴は各コーナーに対応して4本確認したが、南東コーナーと南西コーナーに対応する2本穴は貼り床を剥がした際の検出となった。P1は径33cm、深さ60cm、P2の現存径50~60cm、深さ69cm、P3は30~43cm、深さ63cm、P4の現存径40~60cm、深さ84cmをはかる。

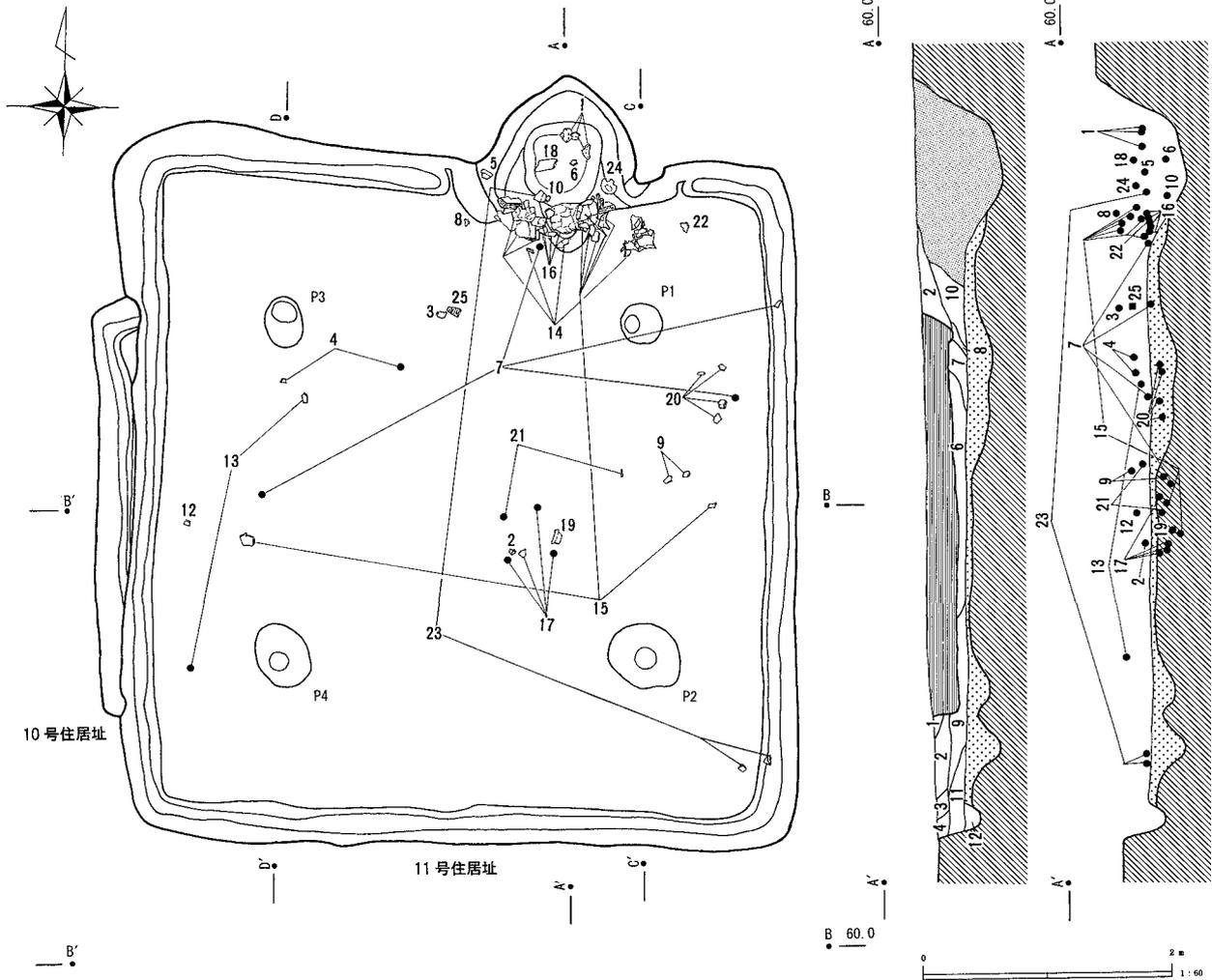
カマド

カマドは北壁の中央から東寄りに位置する。土師器甕3個体を入子にしてたものを横にしてカマドのブリッジ部の基礎として用いたものが、崩れ落ちた状態で出土している。規模は幅128cm、奥行138cmで、平面プランは幅広のU字状を呈する。壁外へは73cm掘り込んでいる。火床部は床面から32cm掘り下げ、幅33cm、奥行28cmをはかる。

第25表 11号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	17-1	坏	15.0	9.5	9.6	3.0	還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り後全面回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。底部外面に「×」の篋記号。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産である。残存率80%。
2	17-2	坏	(15.4)	9.4	9.6	4.0	還元焰焼成	床面付近出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産である。残存率50%。



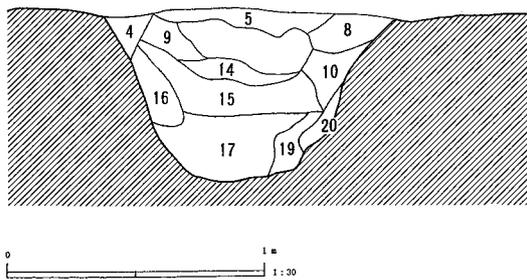
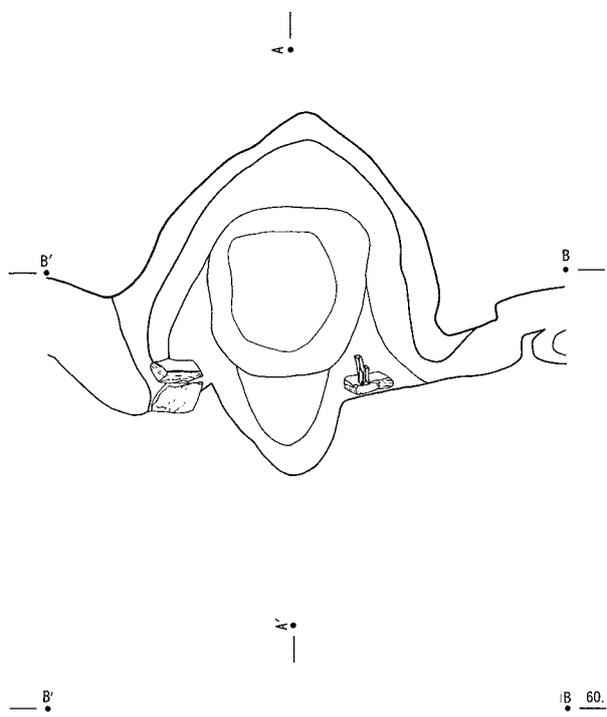
10号住居址

11号住居址

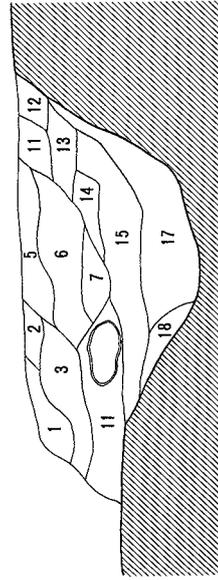
11号住居址

- 1層 明褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 2層 明褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 4層 明褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 5層 明褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 6層 明褐色土 ローム粒子を微量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 8層 明褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 10層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 11層 明褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。

第39図 11号住居址



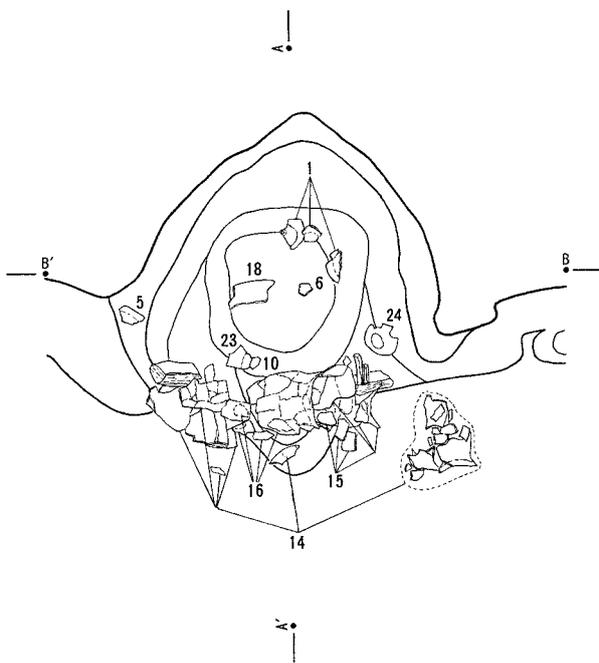
A 60.0



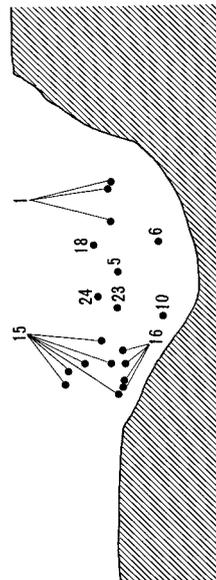
11号住居址カマド

- 1層 明褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 2層 明褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 3層 明茶褐色土 粘土を含み、焼土粒子を少量含む。
- 4層 明褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 5層 明茶褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 6層 明褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 7層 明茶褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 8層 明褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 9層 明茶褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 10層 明茶褐色土 粘土、焼土粒子を多量に含む。

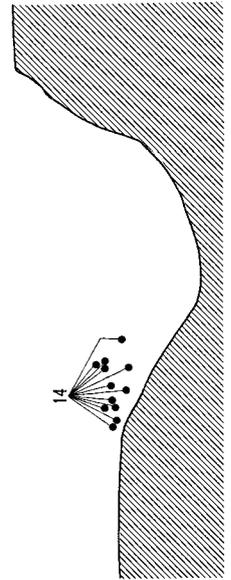
- 11層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 12層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含む。
- 13層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子、焼土小ブロックを含む。
- 14層 暗赤褐色土 焼土を多量に含み、粘土粒子を含む。
- 15層 明赤褐色土 粘土、焼土粒子を多量に含み、焼土小ブロックを少量含む。
- 16層 明褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 17層 明褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子、焼土小ブロックを含む。
- 18層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 19層 明茶褐色土 粘土粒子、焼土粒子を多量に含む。
- 20層 明茶褐色土 粘土粒子、黒色土粒子を多量に含む。



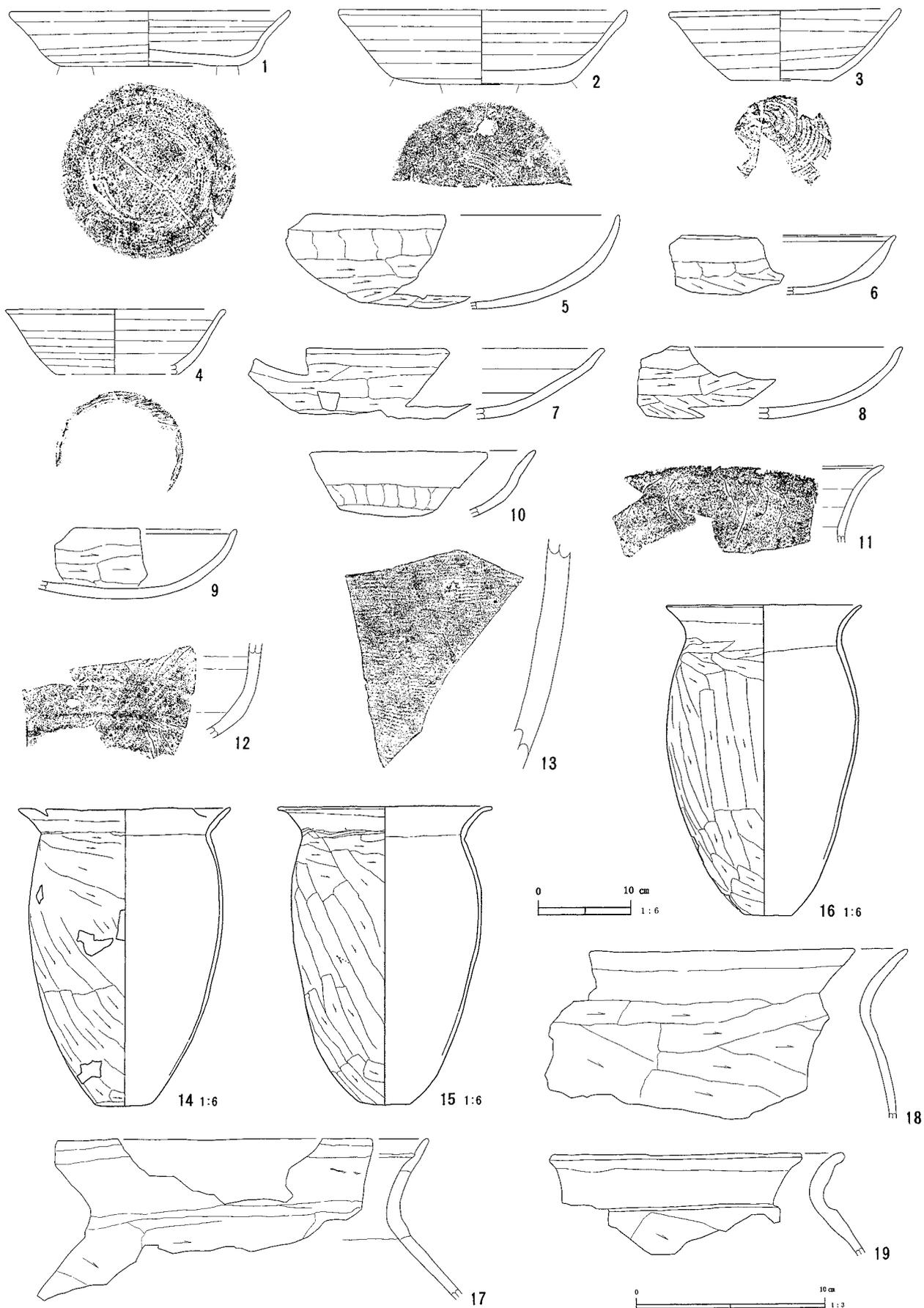
A 60.0



A 60.0



第40図 11号住居址カマド

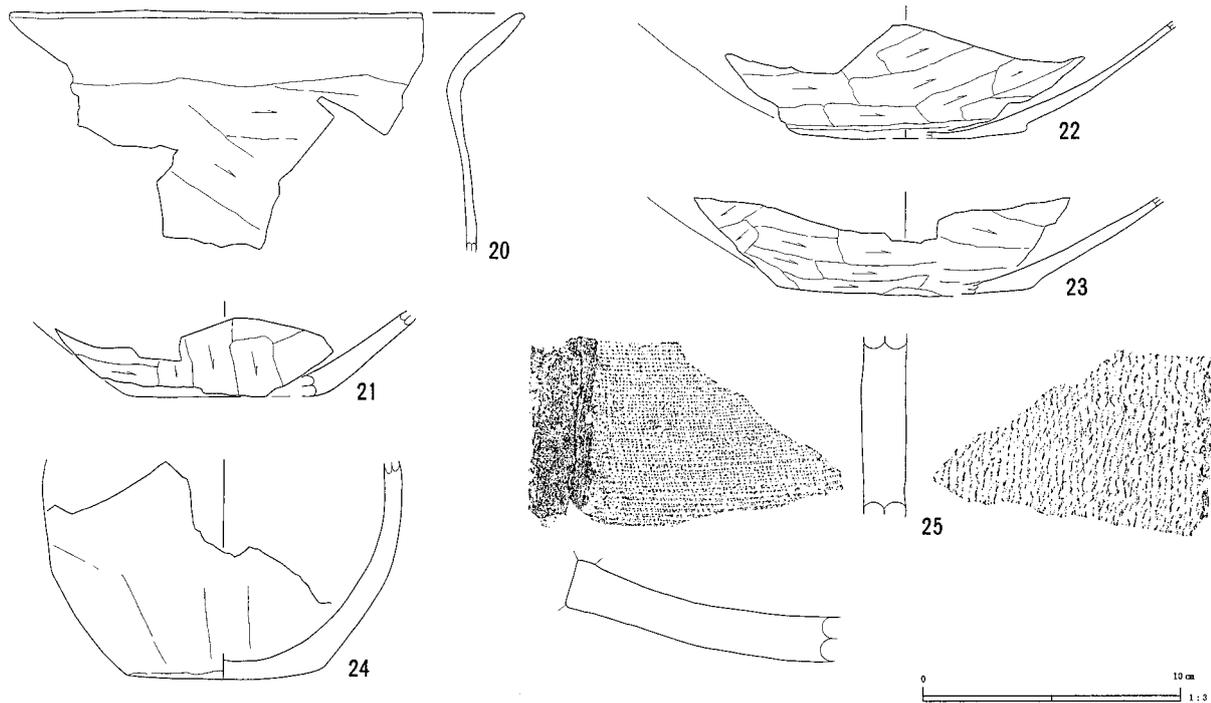


第41图 11号住居址出土遗物(1)

第26表 11号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
3	17-3	坏	12.3	5.4	5.6	3.8	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率70%。
4	-	坏	11.8	6.8	-	3.5	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率40%。
5	-	坏	-	-	-	-	土師器	カマド出土。底部は丸底で、口縁部器外面と器内面に横ナデ。体部外面は横方向に篋削り。
6	-	坏	-	-	-	-	土師器	カマド出土。底部は丸底で、口縁部器外面と器内面に横ナデ。体部外面は横、斜め方向に篋削り。
7	-	坏	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。底部は丸底で、口縁部器外面と器内面に横ナデ。体部外面は横方向に篋削り。皿状を呈する。
8	-	坏	-	-	-	-	土師器	底部は丸底で、口縁部器外面と器内面に横ナデ。体部外面は横、斜め方向に篋削り。皿状を呈する。
9	-	坏	-	-	-	-	土師器	底部は丸底で、口縁部器外面と器内面に横ナデ。体部外面は横方向に篋削り。
10	-	坏	-	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部器外面と器内面に横ナデ。体部外面は指整形と横方向の篋削り。
11	-	埴	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。薄手で、丁寧な作り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。佐波理模倣埴。
12	-	壺	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。
13	18-13	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面はナデ整形。
14	18-14	甕	22.7	6.2	-	33.7	土師器	カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に斜め方向の篋削り。残存率90%。
15	18-15	甕	23.0	5.4	-	32.3	土師器	カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に斜め方向の篋削り。残存率90%。
16	18-16	甕	20.9	5.1	-	33.7	土師器	カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に縦、斜め方向の篋削り。残存率90%。
17	-	甕	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に横、斜め方向の篋削り。
18	-	甕	-	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に横、斜め方向の篋削り。
19	-	甕	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。口縁部はくの字を呈し、胴部の境に段を有する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に斜め方向の篋削り。
20	-	甕	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。口縁部はくの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に横、斜め方向の篋削り。



第42図 11号住居址出土遺物(2)

第27表 11号住居址出土遺物観察表

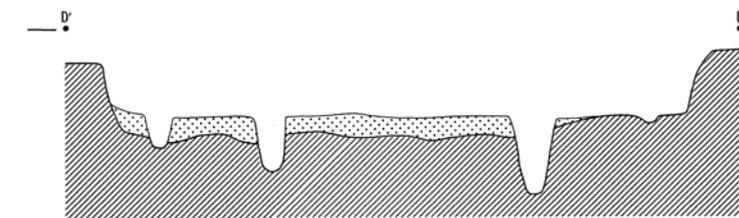
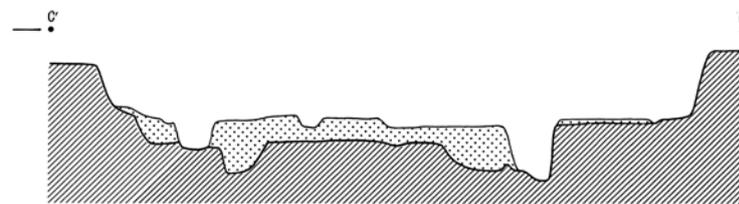
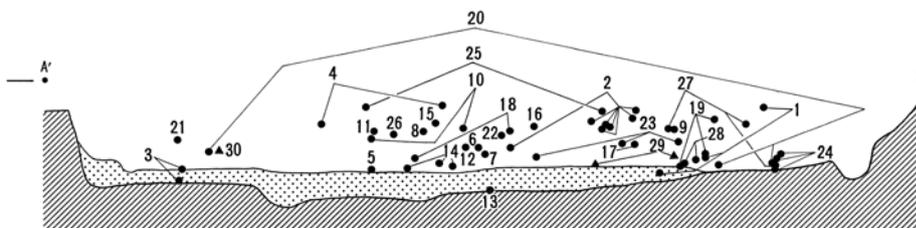
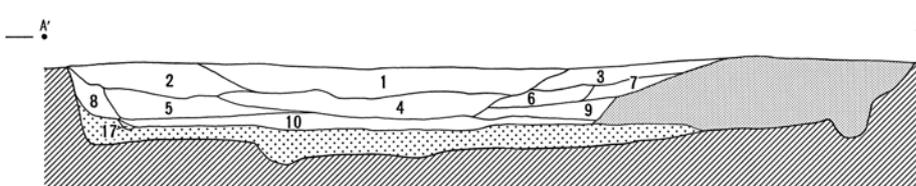
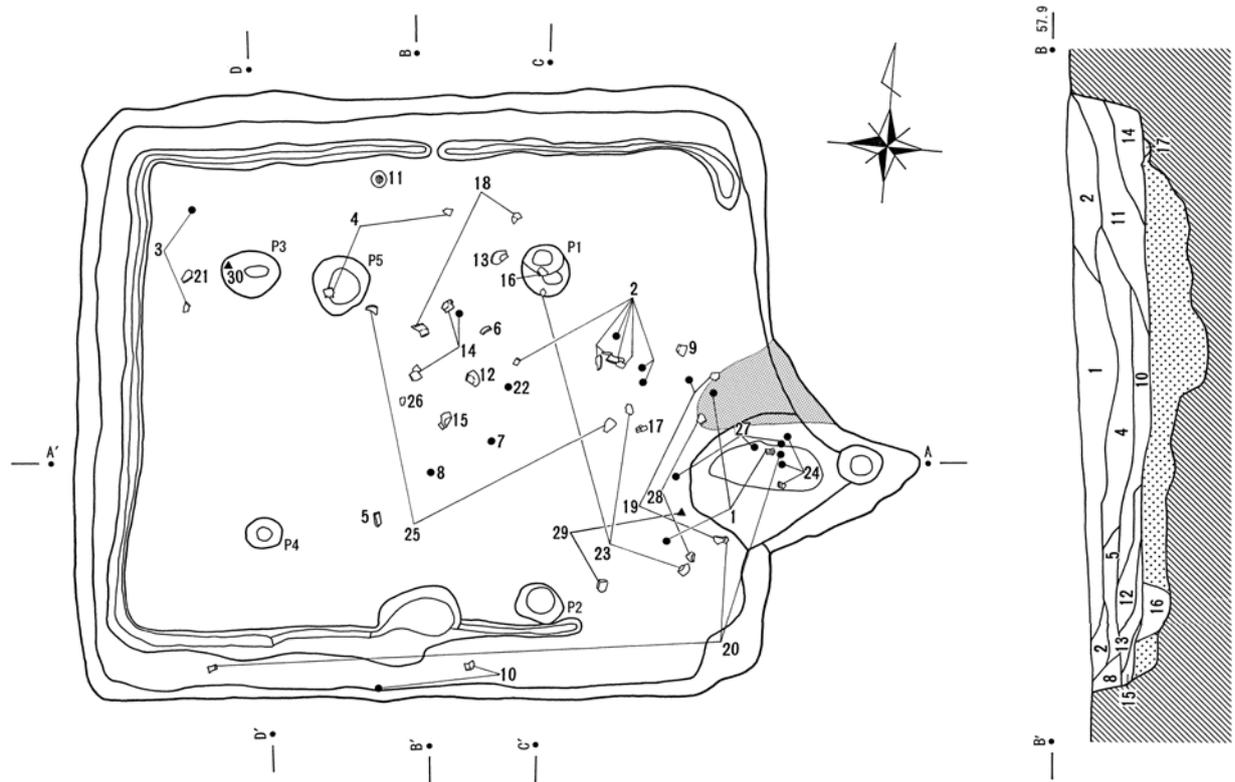
単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
21	-	甕	-	-	-	-	土師器	平底を呈するものの僅かに丸味を帯びる。器外面は横、斜め方向の篋削り。
22	-	甕	-	-	-	-	土師器	貼床下出土。平底を呈するものの丸味を帯びる。器外面は横、斜め方向の篋削り。器内面に漆が付着。
23	-	甕	-	-	-	-	土師器	平底を呈するものの僅かに丸味を帯びる。器外面は横、斜め方向の篋削り。
24	18-24	甕	-	7.4	-	-	土師器	カマド出土。平底を呈するものの僅かに丸味を帯びる。器外面に縦方向の篋削り。
25	18-25	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面に縄叩き。側面及び凹面側部に篋削り。

### 12号住居址

規模は東西5.43m、南北4.85mをはかり、主軸方位はN-83°-Eである。平面プランは長方形を呈する。カマドは東壁のほぼ中央で確認した。壁は僅かな傾斜を持って立ち上がり、壁高は32~54cmをはかる。壁に沿って幅6~25cm、深さ6~25cmの周溝が、北壁で途切れるものの東壁を除き巡っている。壁と周溝の間は、10~40cm離れている。南壁と周溝の間は、床面より約6cm高い。床面の状況は、周溝際を除き非常に硬く良好である。貼床下は北東コーナーと北西コーナーを除き、大きく落ち込む。

柱穴は各コーナーに対応する4本とP1とP3の間で1本確認した。P1は径38~42cm、深さ44cm、P2は径30~37cm、深さ23cm、P3は径38~46cm、深さ60cm、P4は径28cm、深さ42cm、P5は径45~48cm、深さ19cmをはかる。

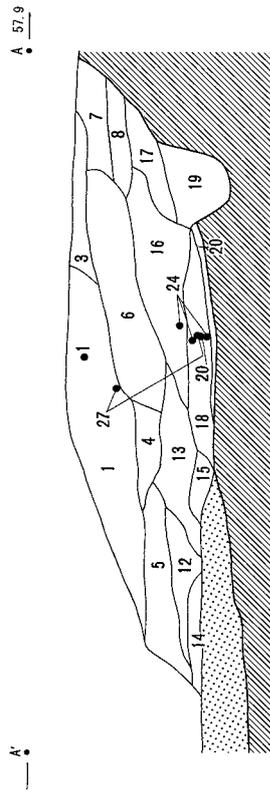
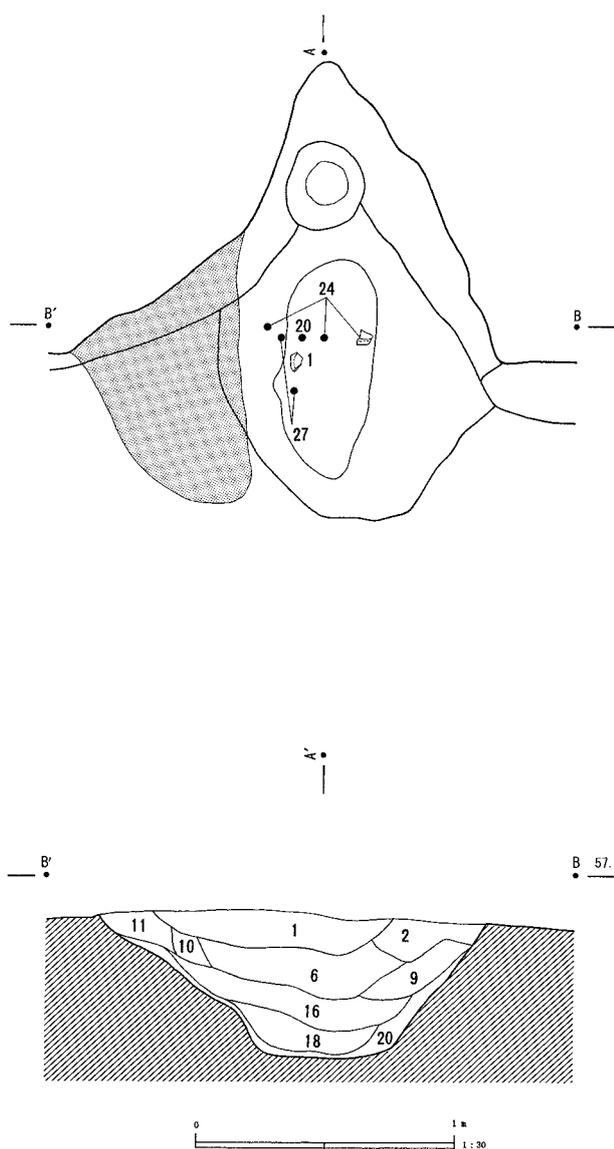


**12号住居址**

- A 57.9 1層 暗褐色土 焼土粒子を含み、ローム粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- A 57.9 5層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 6層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 7層 明褐色土 焼土粒子を含み、ローム粒子を少量含む。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を極微量含む。
- C 57.9 9層 明褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 10層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 11層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 12層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- D 57.9 13層 暗褐色土 ローム小ブロック、ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 14層 暗褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 15層 明茶褐色土 ローム小ブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 16層 明褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 17層 明褐色土 ローム粒子を多量に含む。



第43図 12号住居址



12号住居址カマド

- 1層 暗褐色土 焼土粒子を多量に含み、ローム粒子を少量含み。
- 2層 明茶褐色土 焼土粒子を多量に含み、粘土粒子を含む。
- 3層 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多量含み、粘土粒子を少量含み。
- 4層 明褐色土 焼土粒子を多量含み。
- 5層 明褐色土 焼土、粘土粒子を多量含み。
- 6層 暗赤褐色土 焼土、焼土ブロックを多量含み。
- 7層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を極微量含み。
- 8層 明褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を極微量含み。
- 9層 明茶褐色土 焼土粒子を含み、粘土粒子を少量含み。
- 10層 明茶褐色土 焼土粒子、粘土粒子を少量含み。
- 11層 明褐色土 粘土粒子を少量含み、焼土粒子を微量含み。
- 12層 明褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を微量含み。
- 13層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 14層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含み。
- 15層 明褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を少量含み。
- 16層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含み、炭化物粒子を極微量含み。
- 17層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 18層 明茶褐色土 粘土、粘土粒子、焼土粒子を多量に含む。
- 19層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含み。
- 20層 明茶褐色土 粘土層。

第44図 12号住居址カマド

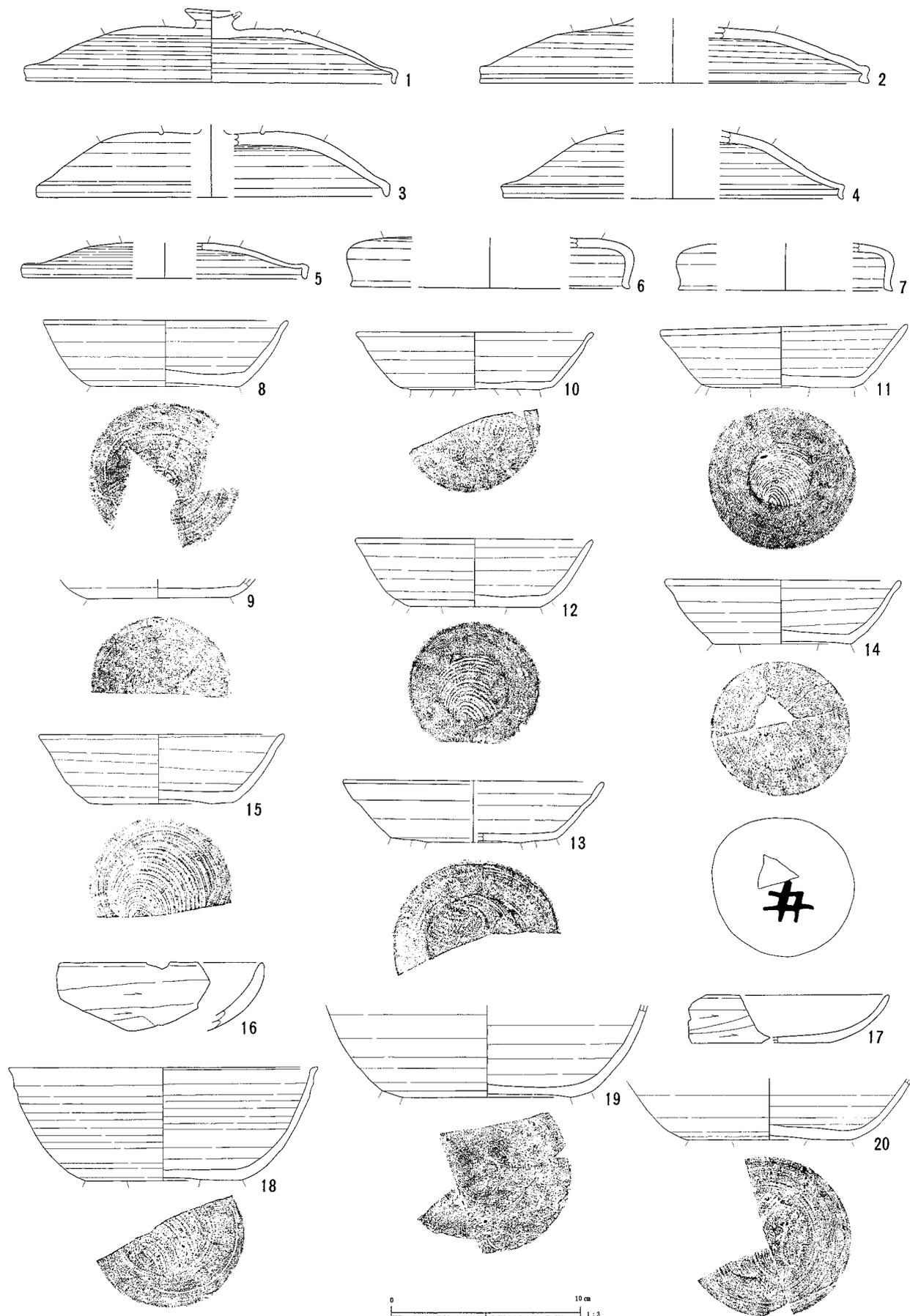
カマド

カマドは東壁のほぼ中央に位置する。規模は幅167cm、奥行185cmで、平面プランはV字状を呈する。壁外へは120cm掘り込んでいる。火床面は床面から12cm下り、緩やかな傾斜を持って煙道へと続く。

第28表 12号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	蓋	(19.6)	-	-	3.9	還元焰焼成	貼床下出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは径3.0cmで、中央が窪む。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率40%。
2	18-2	蓋	20.6	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは欠損する。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率70%。

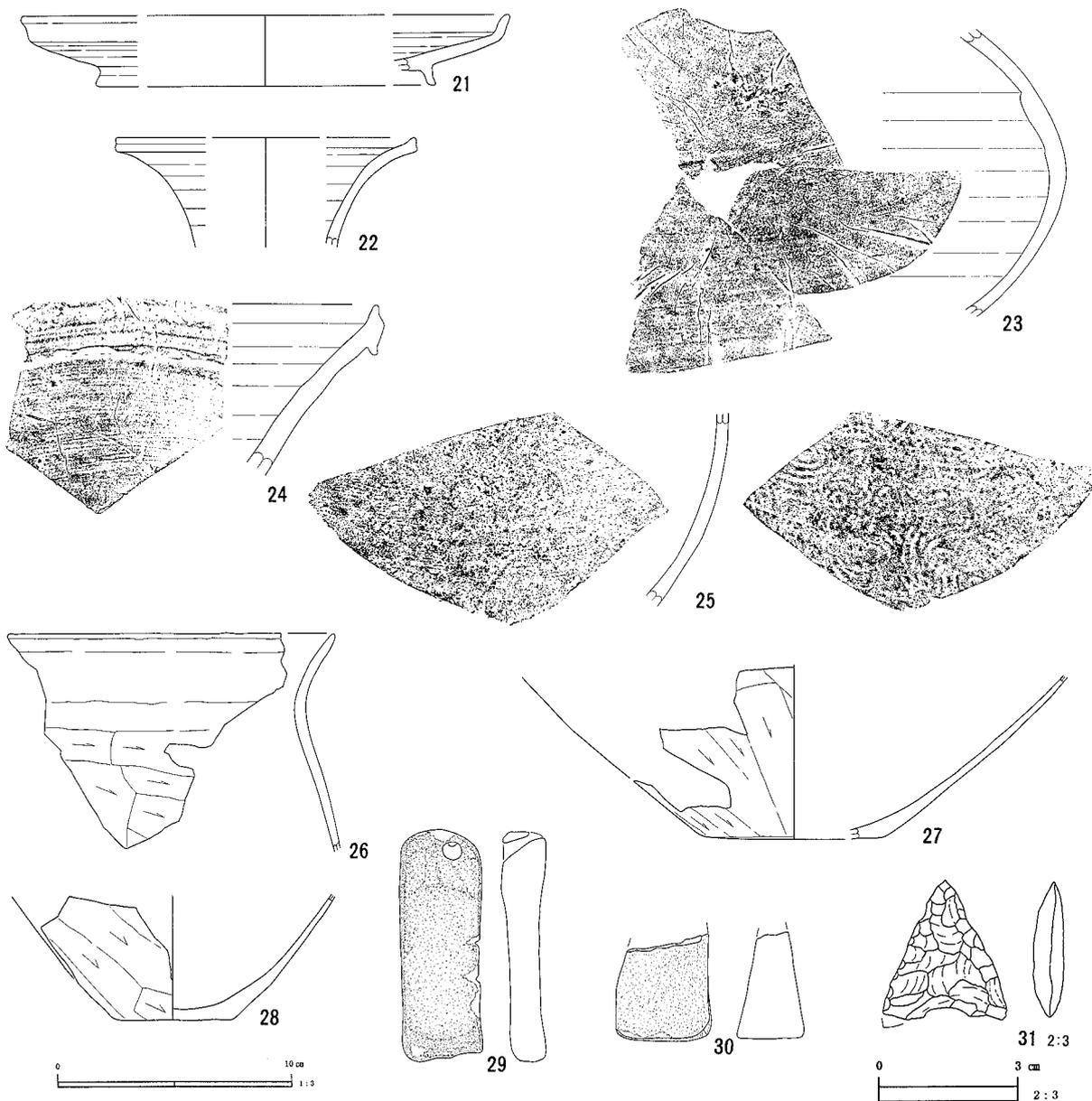


第 45 图 12 号住居址出土遗物 (1)

第 29 表 12 号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
3	-	蓋	(18.6)	-	-	-	還元焰焼成	貼床下出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率 30%。
4	-	蓋	(18.0)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率 30%。
5	-	蓋	(15.0)	-	-	-	還元焰焼成	床面出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率 30%。
6	-	蓋	(14.8)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。7 と同一の可能性はある。
7	-	蓋	(11.4)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。6 と同一の可能性はある。
8	18-8	坏	(13.0)	7.9	8.4	3.6	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。底部は全面回転篋削り。体部は直線的に立ち上がる。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率 50%。
9	-	坏	-	7.5	8.3	-	還元焰焼成	底部は全面回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
10	-	坏	(12.6)	6.8	8.0	3.1	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率 50%。
11	18-11	坏	13.1	7.7	8.4	3.3	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。体部は直線的に立ち上がる。器内面の底部から体部の変換点に爪先技法。胎土は非常に緻密。前内出窯跡系。完形。
12	18-12	坏	12.6	6.9	7.4	3.7	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。体部は直線的に立ち上がる。胎土は非常に緻密。前内出窯跡系。残存率 60%。
13	18-13	坏	(13.8)	8.9	8.3	3.4	還元焰焼成	貼床下出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率 50%。
14	18-14	坏	12.5	7.3	7.0	3.5	還元焰焼成	床面付近出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。器内面の底部から体部の変換点に爪先技法。底部外面に「井」の墨書。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率 80%。



第46図 12号住居址出土遺物(2)

第30表 12号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
15	18-15	坏	13.0	7.7	8.0	3.7	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率60%。
16	-	坏	-	-	-	-	土師器	口縁部外面、器内面は横ナデ整形。底部は丸底で、体部外面は篋削り。口縁部は垂直に立ち上がる。
17	-	坏	-	-	-	-	土師器	口縁部外面、器内面は横ナデ整形。底部は平底で、体部外面は篋削り。

第 31 表 12 号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値 &lt; &gt;は既存値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
18	-	埴	(16.4)	8.3	8.8	6.0	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。残存率40%。
19	-	埴	-	8.9	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
20	-	埴	-	8.7	9.3	-	還元焰焼成	底部は全面回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。体部下端に回転篋削り。
21	-	高台付盤	(21.0)	高台径 (14.6)	-	3.1	還元焰焼成	底部に高台を貼り付け。器内外面にロクロ水挽き整形。短い口縁部は直線に立ち上がる。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
22	-	壺	(13.0)	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
23	19-23	壺	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。肩部に自然釉。
24	19-24	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。器内外面にロクロ水挽き整形。
25	19-25	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面は横方向の平行叩き。器内面には同心円の当て具痕。
26	-	甕	-	-	-	-	土師器	口縁部の器内外面に横ナデ。器外面は横方向の篋削り。
27	-	甕	-	(7.6)	-	-	土師器	器外面に縦方向の篋削り。
28	-	甕	-	5.0	-	-	土師器	器外面に縦方向の篋削り。

挿図番号	図版番号	種類	長さ	幅	重さ(g)	石質	観察・特徴
29	19-29	砥石	10.2	1.9	82	凝灰岩	床面付近出土。両面、両側面に磨り痕が残る。上端部に両側から穴を穿孔している。残存率100%
30	-	砥石	<4.7>	4.0	<76>	凝灰岩	両面、両側面に磨り痕が残る。
31	19-31	石鏃	2.3	<2.0>	<1.6>	黒曜石	基部に抉りを持つ。左脚部が僅かに欠損する。残存率100%。

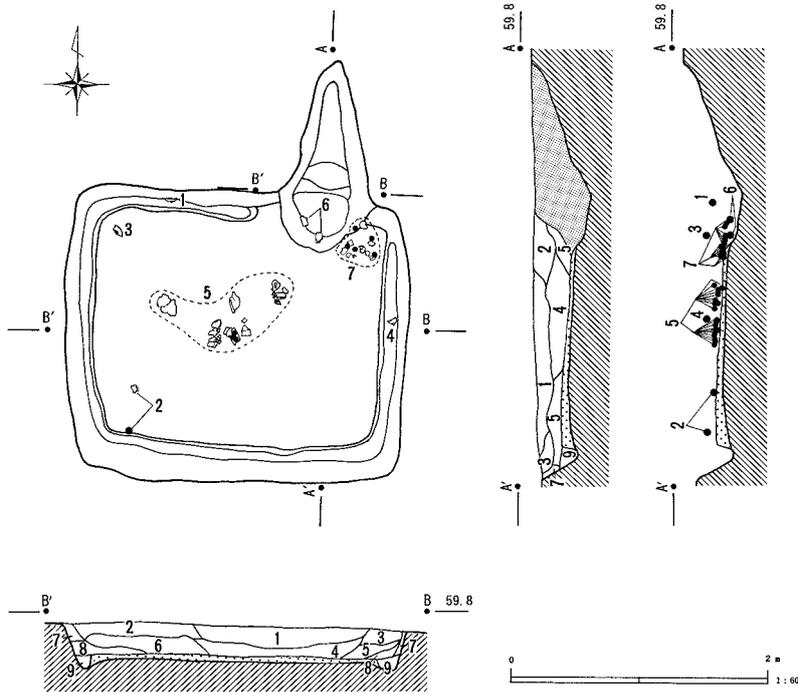
## 13号住居址

規模は東西 2.7 m、南北 2.3 mをはかり、主軸方位はN - 4° - Eである。平面プランは方形を呈する。北壁の北東コーナー近くにカマドを構築している。床面は整えられているが、固さは認められない。貼床下はほぼ平坦である。

壁は傾斜を持って立ち上がり、壁高は 16 ~ 25cmをはかる。壁に沿って幅 6 ~ 15cm、深さ 10 ~ 15cmの周溝がカマドを除き巡っている。

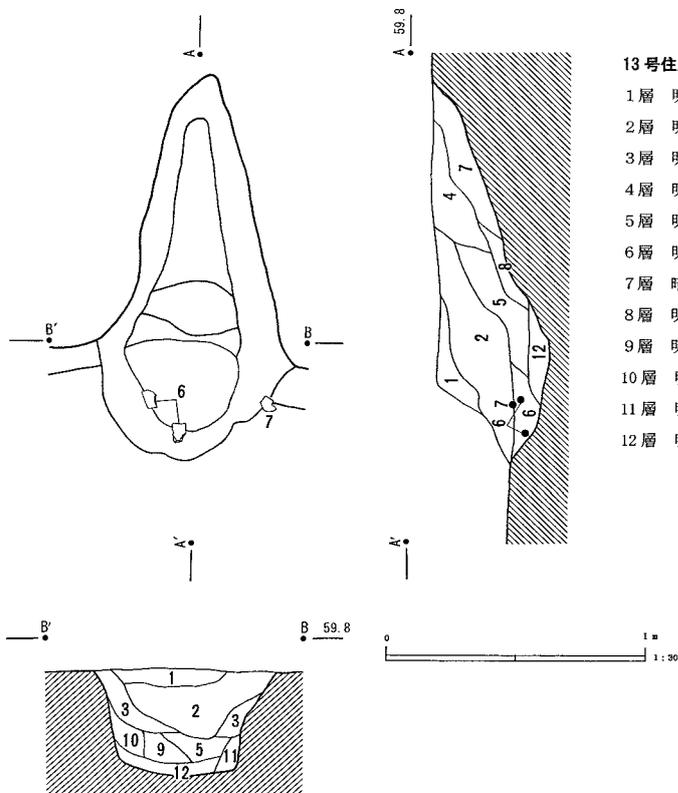
## カマド

カマドは北壁の北東コーナー近くに位置する。規模は幅 70cm、奥行 150cm、平面プランは細長のV字状を呈する。壁外へは 105cm掘り込んでいる。火床部は幅 40cm、奥行 35cmをはかり、床面から 15cm掘り下げている。



**13号住居址**

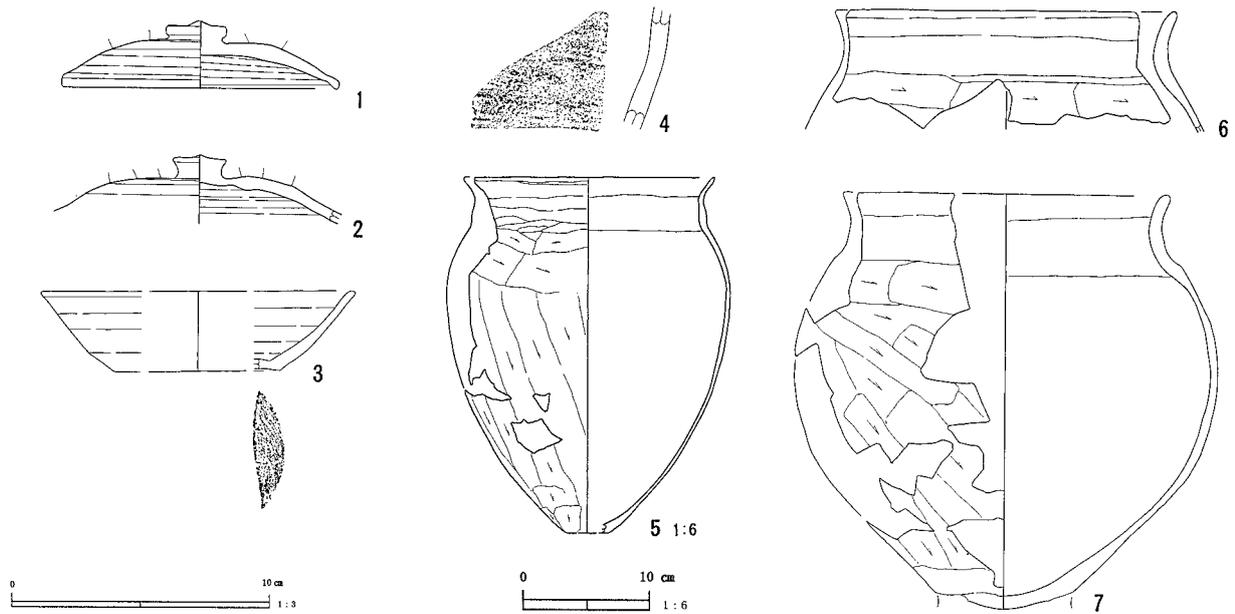
- 1層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 2層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を極微量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 5層 明褐色土 ローム粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 6層 明褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 7層 明茶褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 8層 明褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 9層 明褐色土 ローム粒子を含む。



**13号住居址カマド**

- 1層 明褐色土 粘土粒子を微量含む。
- 2層 明褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 3層 明茶褐色土 粘土、粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を極微量含む。
- 4層 明茶褐色土 粘土土層。
- 5層 明茶褐色土 粘土を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 6層 明褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 7層 暗褐色土 粘土粒子を少量含み、焼土粒子を微量含む。
- 8層 明褐色土 粘土粒子を含む。
- 9層 明茶褐色土 粘土、焼土を多量に含む。
- 10層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 11層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を極微量含む。
- 12層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。

第47図 13号住居址 カマド



第 48 図 13 号住居址出土遺物

第 32 表 13 号住居址出土遺物観察表

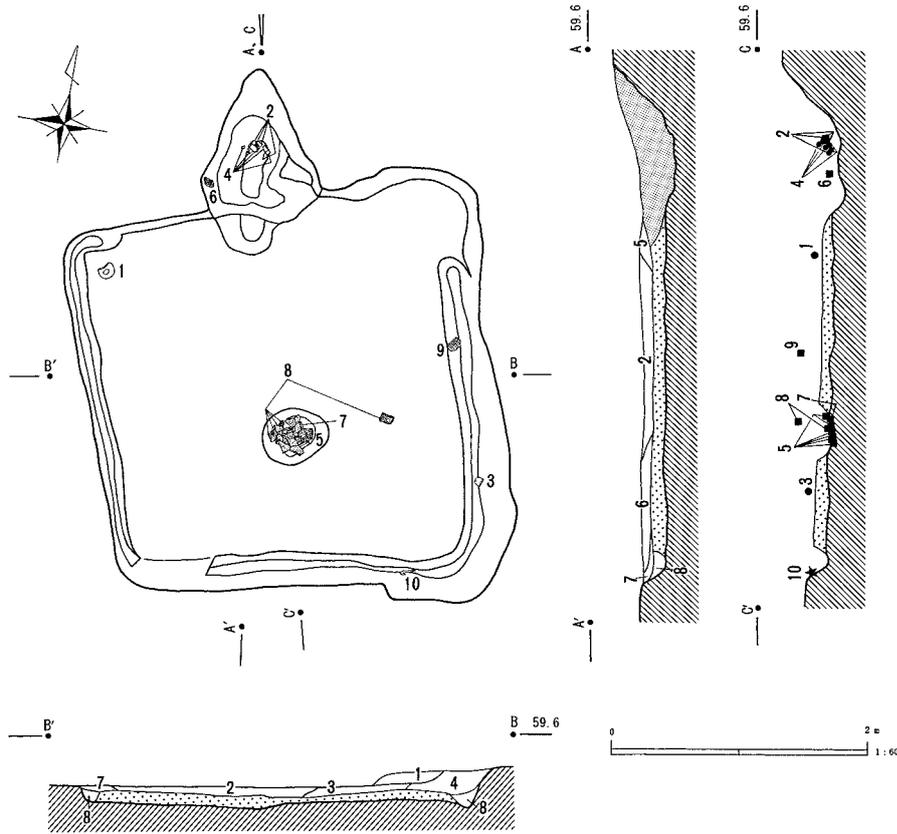
単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	19-1	蓋	10.7	-	-	2.7	還元焰焼成	壁際出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは擬宝珠状を呈し、径は2.3cm。完形。
2	-	蓋	-	-	-	-	還元焰焼成	床面付近出土。器内外面にロクロ水挽き整形後、天井部外面に回転篋削り。つまみは擬宝珠状を呈し、径は2.1cm。残存率30%
3	-	坏	(12.2)	(6.4)	-	3.1	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率20%。
4	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に横方向の平行叩き。器内面はナデ整形。
5	19-5	甕	19.6	(3.4)	-	28.3	土師器	床面付近出土。口縁部は弱いコの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に斜め、縦方向の篋削り。残存率70%。
6	-	台付甕	(13.3)	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に横方向の篋削り。
7	19-7	台付甕	(12.6)	-	-	-	土師器	床面出土。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に横、斜め方向の篋削り。残存率60%。

#### 14 号住居址

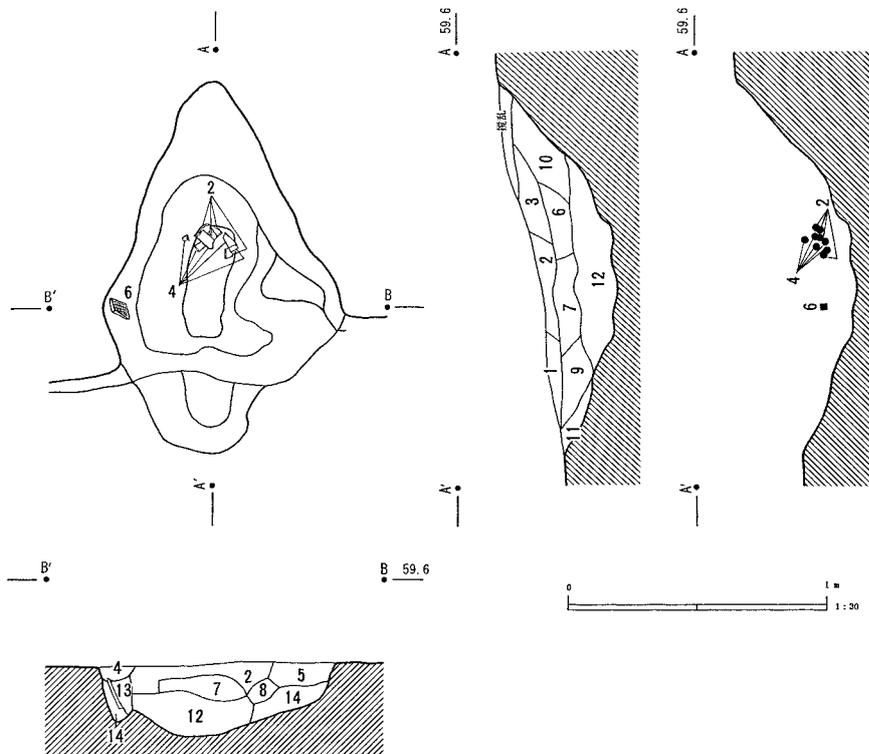
規模は東西 3.25 m、南北 3.5 m をはかり、主軸方位は N - 8.5° - W である。平面プランは方形を呈する。北壁の中央にカマドを構築している。床面はカマド正面から南壁にかけて、硬化が良好である。中央に長軸 53cm、短軸 43cm、深さ 12cm の土壇を検出し、平瓦 (第 50 図 5、7、8) が出土している。貼床下はほぼ平坦である。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は 5 ~ 10cm をはかる。周溝は北壁を除き、壁に沿って巡っている。幅 8 ~ 20cm、深さ 5 ~ 16cm をはかる。



**14号住居址**

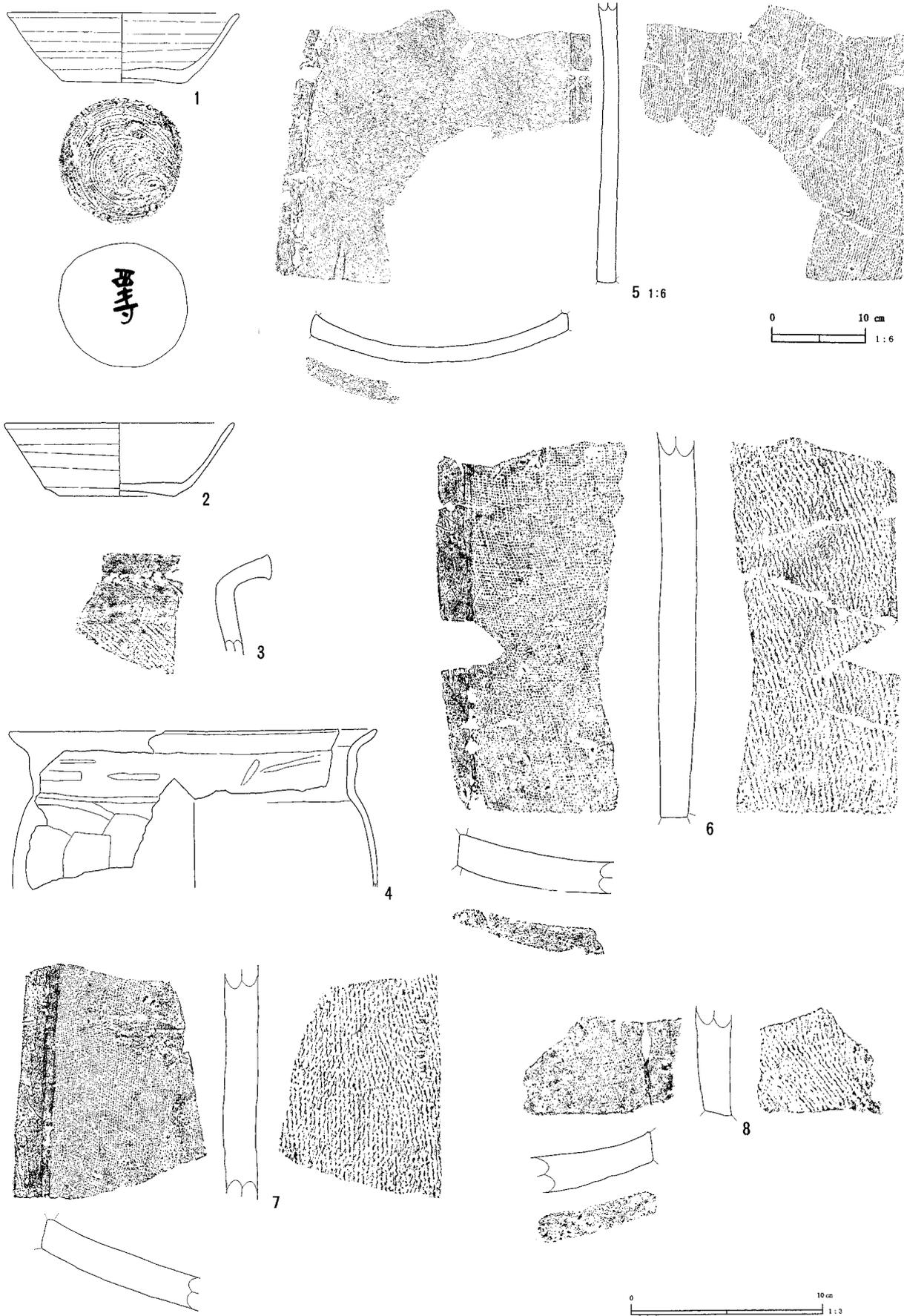
- 1層 明褐色土 ローム粒子を含む。
- 2層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 3層 明茶褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 4層 明褐色土 ローム粒子を含み、焼土粒子を微量含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含み、焼土粒子を微量含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 7層 明褐色土 ローム粒子を多量に含み、ローム小ブロックを含む。
- 8層 明褐色土 ローム粒子を多量に含む。



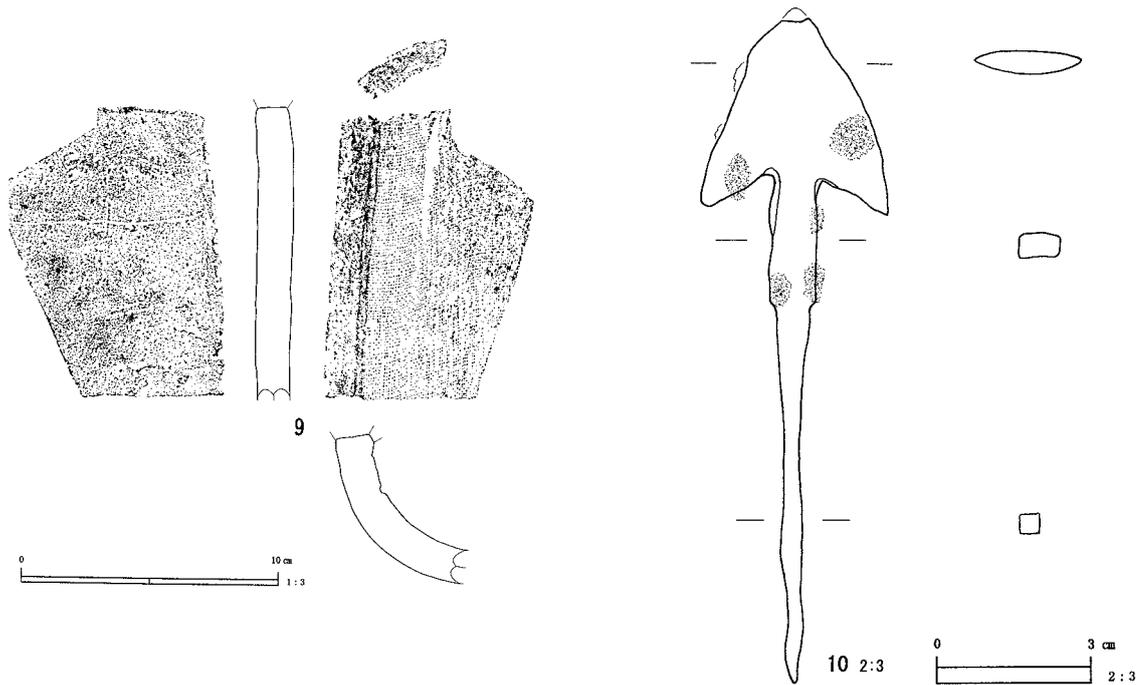
**14号住居址カマド**

- 1層 明褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2層 明茶褐色土 粘土粒子、焼土小ブロックを多量に含む。
- 3層 暗赤褐色土 焼土小ブロックを多量に含む。
- 4層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む。
- 5層 明褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 6層 暗赤褐色土 焼土小ブロックを多量に含み、粘土粒子を少量含む。
- 7層 明赤褐色土 粘土、焼土を多量に含む。
- 8層 明茶褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 9層 明褐色土 焼土粒子を含み、粘土粒子を少量含む。
- 10層 明茶褐色土 粘土粒子を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 11層 明褐色土 粘土粒子を含む。
- 12層 黒褐色土 粘土粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 13層 明茶褐色土 粘土粒子、焼土粒子を含む。
- 14層 明茶褐色土 粘土層。

第49図 14号住居址 カマド



第50图 14号住居址出土遗物(1)



第 51 図 14 号住居址出土遺物 (2)

カマド

カマドは北壁の中央近くに位置する。規模は幅 90cm、奥行 147cm、平面プランは V 字状を呈する。壁外へは 90cm 掘り込んでいる。火床部は長軸 45cm、短軸 15cm、床面から 20cm 掘り下げている。

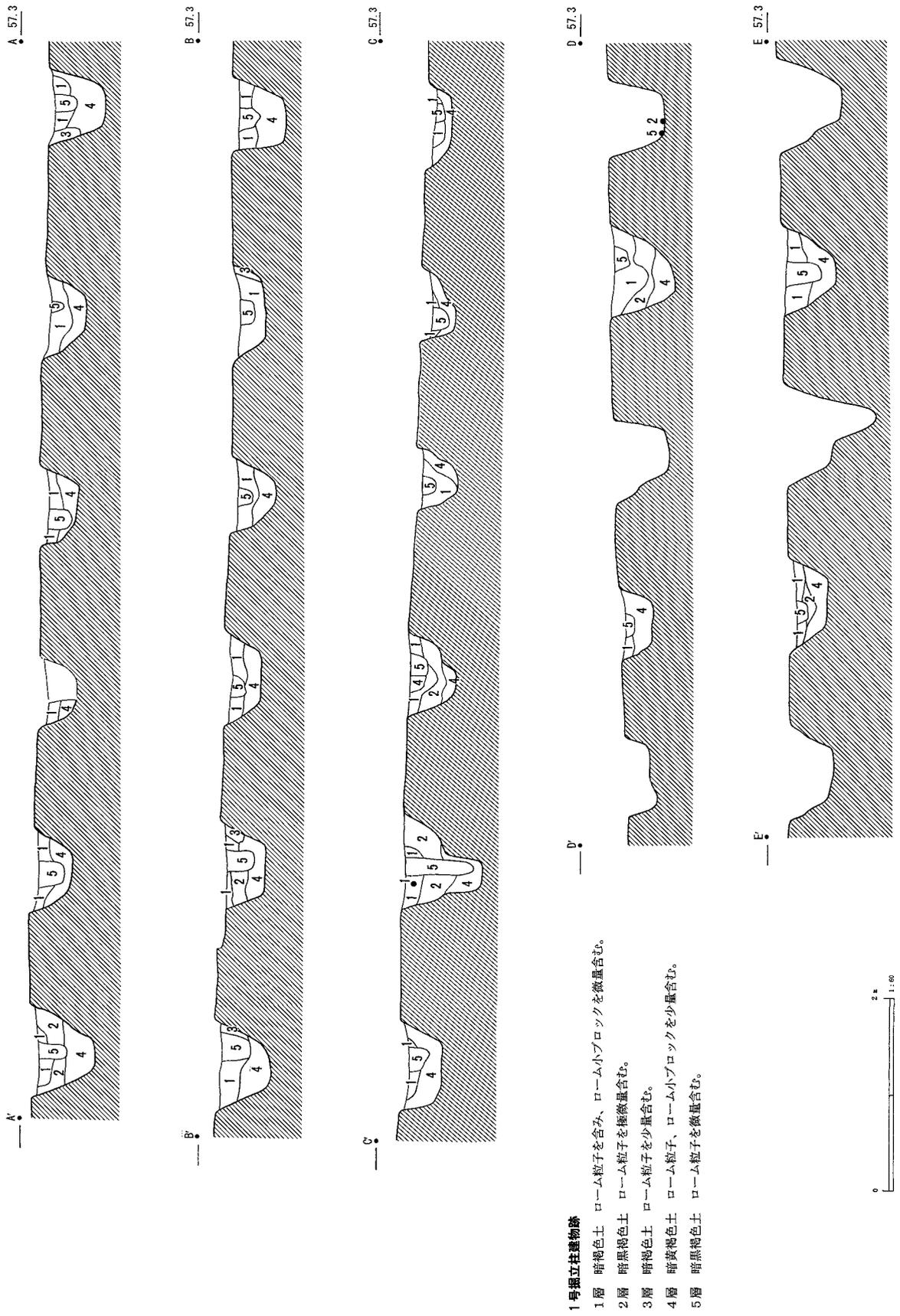
第 33 表 14 号住居址出土遺物観察表

単位は cm ( ) は推定値

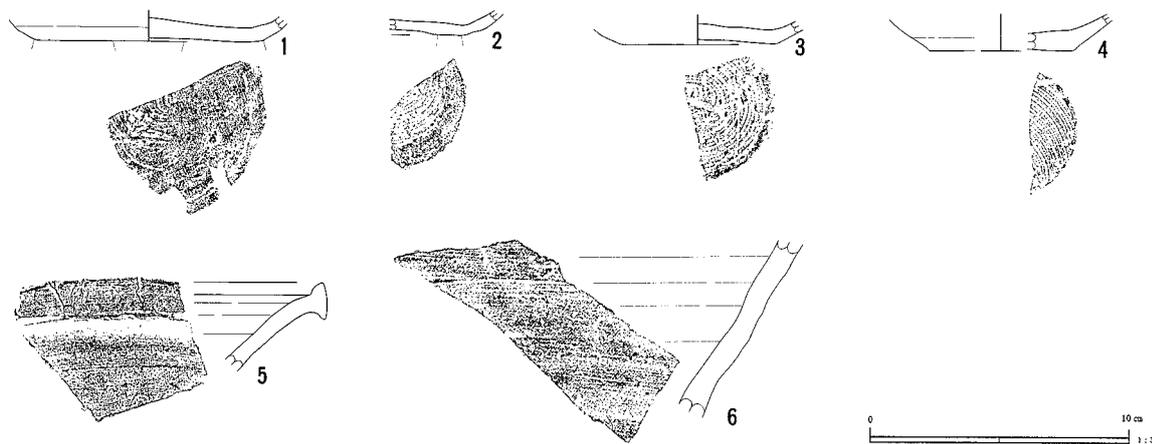
挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	19-1	坏	12.2	6.6	5.9	3.7	還元焰焼成	床面付近出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。底部外面に「西寺」の墨書。残存率 70%。
2	19-2	坏	12.0	6.1	6.8	3.9	半還元焰焼成	カマド出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率 60%。
3	-	短頸壺	-	-	-	-	還元焰焼成	周溝出土。口縁部の器内外面にロクロ水挽き整形。胴部外面に斜め方向の平行叩き。
4	-	甕	-	-	-	-	土師器	カマド出土。口縁部はコの字を呈する。口縁部の器内外面に横ナデ。器外面に縦方向の篋削り。
5	19-5	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	住居内土壙から出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹面側部に篋削り。幅 27cm。
6	20-6	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	カマド出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹面側部、端部に篋削り。
7	20-7	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	住居内土壙から出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。側面及び凹凸面側部に篋削り。
8	-	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	住居内土壙から出土。凹面に布目痕、凸面に縄叩き。端面及び側面、凹面側部に篋削り。



第 52 图 1 号掘立柱建物跡 (1)



第 53 図 1号掘立柱建物跡 (2)



第54図 1号掘立柱建物跡出土遺物

第34表 14号住居址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値 < >は既存値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
9	20-9	丸瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面は横方向の篔ナデ整形。端面及び側面、凹面側部に篔削り。

挿図番号	図版番号	種類	長さ	幅	厚み	観察・特徴
10	20-10	鉄鍬	<13.2>	35	0.4	壁際出土。長頸鍬で関部は角両関。鍬身は三角形、幅3.7cm、厚さ0.5cm。頸部1.8cm、幅0.8cm、厚さ0.5cm。茎部7.7cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm。重量18g。残存率100%。

## (2) 掘立柱建物跡

### 1号掘立柱建物跡

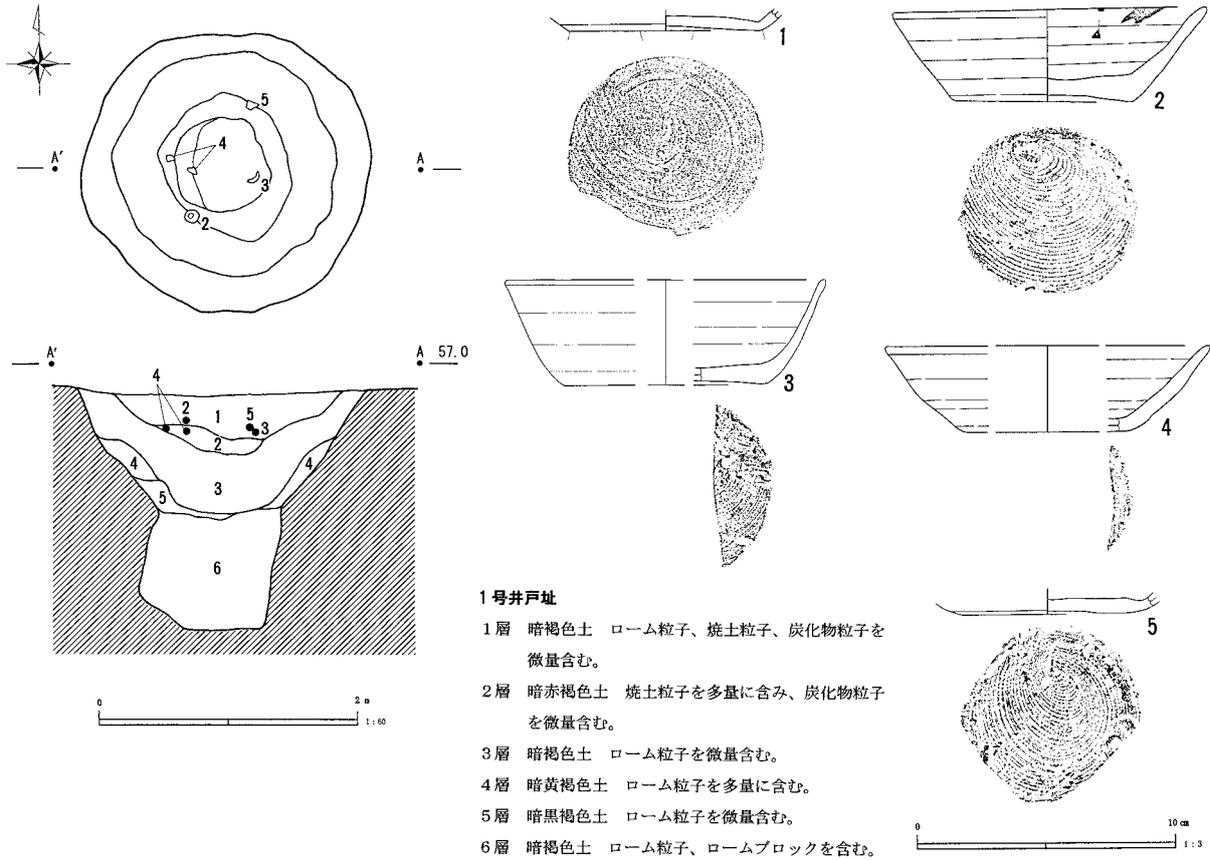
本遺構の規模は桁行5間(9.85m)、梁行4間(7.04m)をはかる。主軸方位はN-3°-Eである。柱の掘方は円形を呈し、径0.67~1.4mをはかり、深さは確認面から29~96cmである。桁方向に中柱を持ち、規模が大きな建物跡である。

柱痕は、P4を除き確認できた。径は14~22cmをはかる。桁行方向の柱痕間の中心距離は1.85~2.15m、梁行間は1.6~2.05mである。柱痕間の桁行9.6~9.85m、梁行6.8~6.94mである。

第35表 1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	坏	-	(8.9)	-	-	還元焰焼成	柱穴21出土。底部は回転糸切り後外周部回転篔削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。底部外面に「×」の篔書き。
2	-	坏	-	-	-	-	還元焰焼成	柱穴1出土。底部は回転糸切り後外周部回転篔削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
3	-	坏	-	(6.0)	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。



1号井戸址

- 1層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 2層 暗赤褐色土 焼土粒子を多量に含み、炭化物粒子を微量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 5層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。

第55図 1号井戸址 出土遺物

第36表 1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
4	-	坏	-	(5.6)	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。
5	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	柱穴1出土。器内外面にロクロ水挽き整形。
6	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。

(3) 井戸址

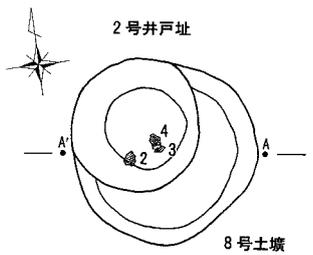
1号井戸址

規模は径2.2m、深さ1.9mをはかり、平面プランは円形を呈する。開口部はロート状に大きく広がり、深さ1mぐらいからすぼまり直線的に底面へと続く。底面は長軸75cm、短軸55cmの楕円形を呈する。壁の途中で僅かにオーバーハングしている。

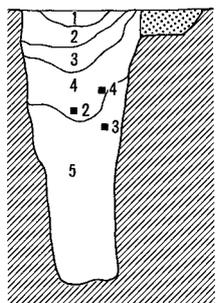
第37表 1号井戸址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	坏	-	7.5	7.7	-	還元焰焼成	上層出土。底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロクロ水挽き整形。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
2	-	坏	12.2	6.9	6.2	3.7	半還元焰焼成	上層出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。完形。口縁部に煤が付着。



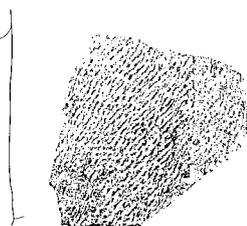
A' A 57.4



0 2 1:60



2

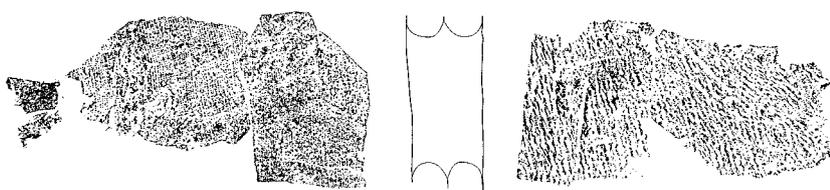


3



2号井戸址

- 1層 暗黒褐色土 焼土粒子を微量含み、ローム粒子を極微量含む。
- 2層 暗黄褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを微量含む。



4



0 10 1:3



5



第56図 2号井戸址 8号土壙 2号井戸址出土遺物

第 38 表 1 号井戸址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
3	-	坏	(12.4)	(7.7)	-	4.2	還元焰焼成	上層出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率30%。
4	-	坏	(14.6)	(6.2)	-	3.4	還元焰焼成	上層出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。残存率20%。
5	-	坏	-	6.6	-	-	半還元焰焼成	上層出土。底部は回転糸切り。器内外面にロクロ水挽き整形。

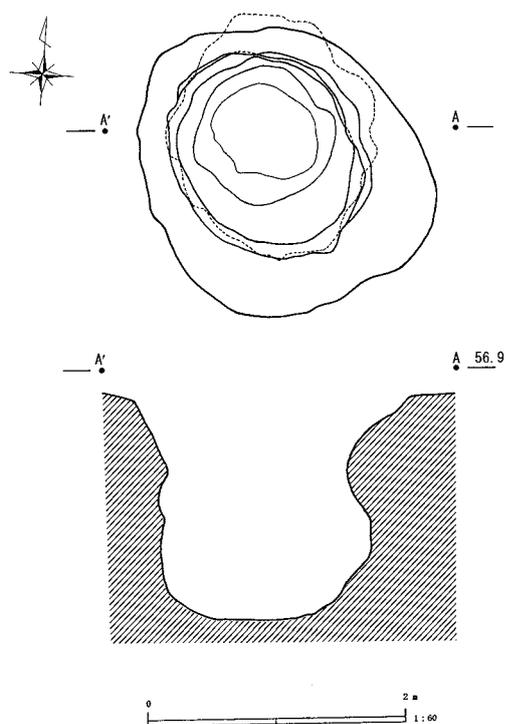
2号井戸址

65号土壙と重複する。本遺構が古い。規模は径1m、深さ2.15mをはかり、平面プランは円形を呈する。底面は径65cm、円形を呈する。壁は開口部が八の字に開くが、その他はほぼ垂直に立ち上がる。

第 39 表 2 号井戸址出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面にはナデ整形。
2	-	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	中層出土。凸面は縄叩き。凹面には布目。端面、凹面端部に篋削り。
3	-	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	中層出土。凸面は縄叩き。凹面には布目。端面、側面、凹面端部に篋削り。
4	-	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	中層出土。凸面は縄叩き。凹面は布目。側面に篋削り。
5	-	平瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	凸面は縄叩き。凹面には布目。側面、凹凸面側部に篋削り。



第 57 図 3号井戸址

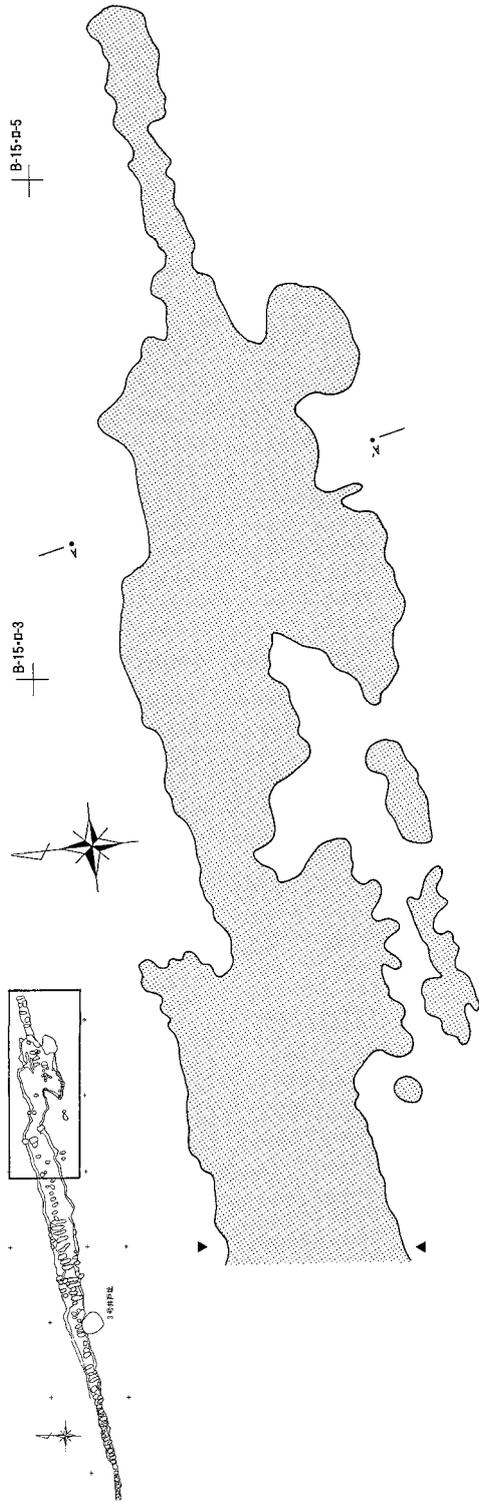
3号井戸址

平面プランは楕円形を呈し、規模は長軸2.5m、短軸2m、深さ1.83mをはかる。開口部はロート状に大きく広がり、深さ70cmぐらいからすぼまり、オーバーハンクしながら底面へと続く。底面は長軸87cm、短軸65cmの楕円形である。

(4) 道路遺構

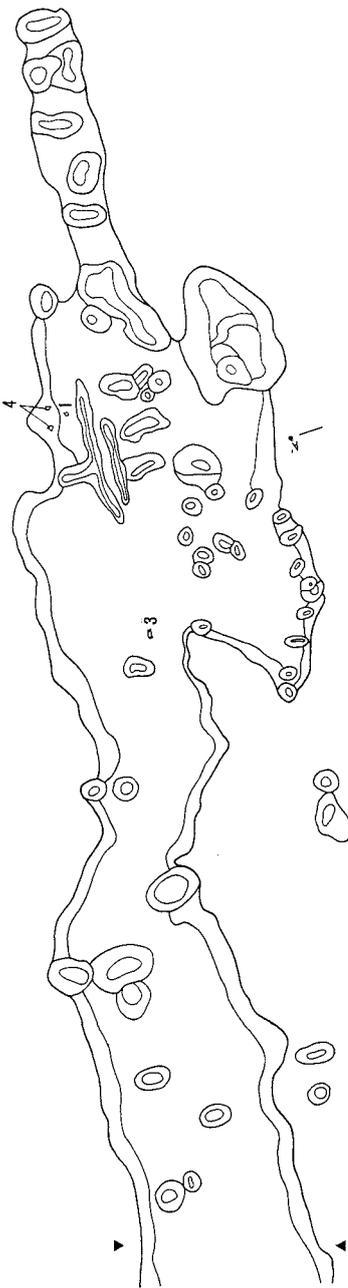
道路遺構

調査区の南側で、東西方向に走る道路遺構を検出した。本遺構の東に位置する拾石遺跡で検出された道路遺構と規模、構築方法、検出位置などから同一のものと考えられる。

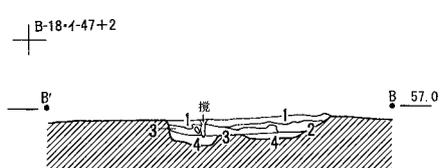
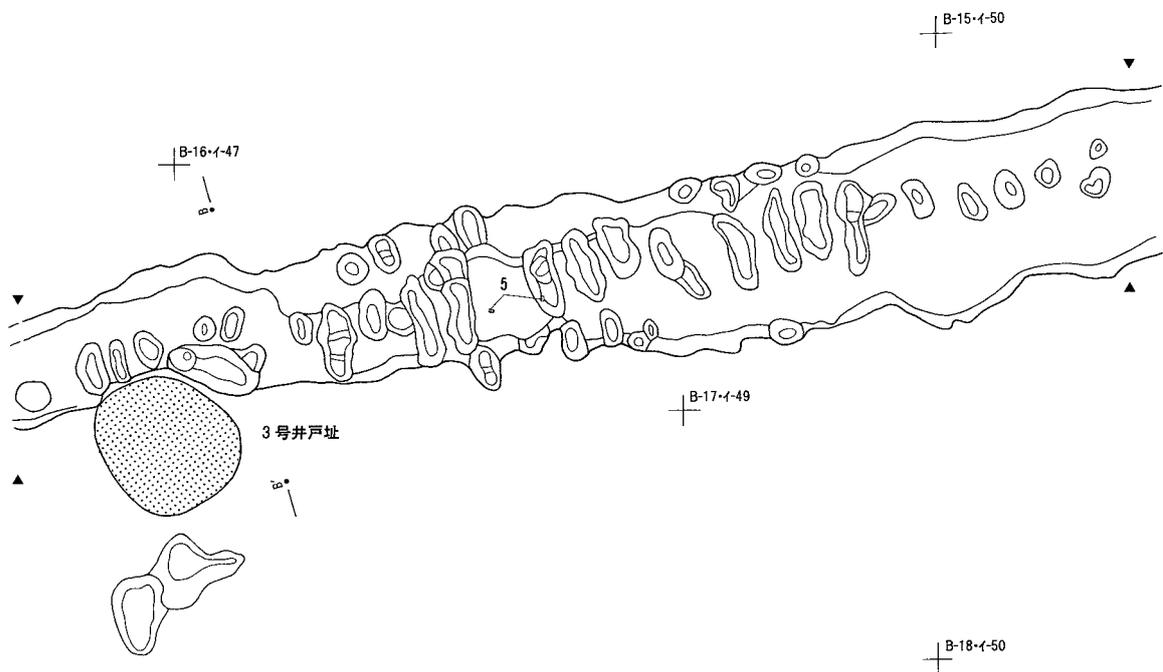
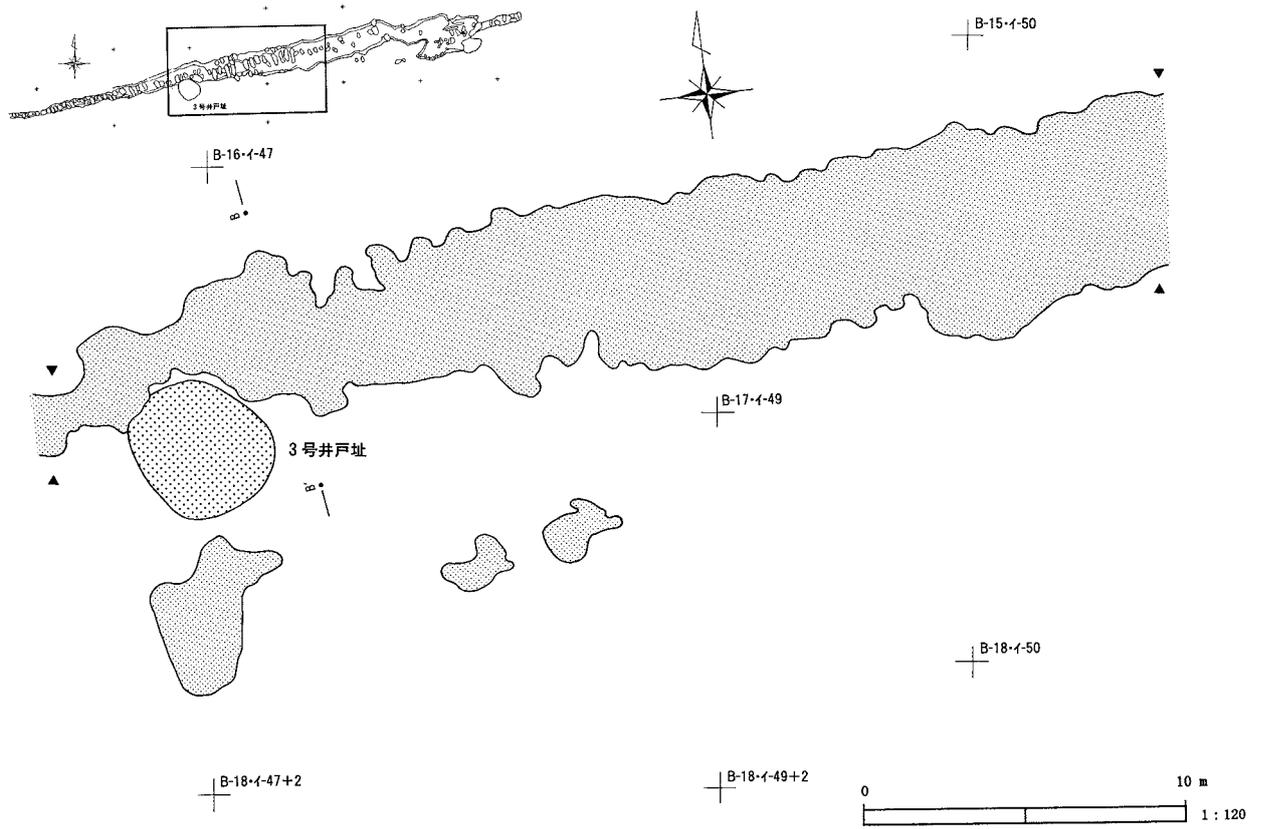


道路遺構

- 1層 暗黒褐色土 暗褐色口一△を微量含む。
- 2層 暗黒褐色土 暗褐色口一△、小礫を含む。
- 3層 暗黒茶褐色土 暗褐色口一△を含む。
- 4層 暗黒茶褐色土 暗褐色口一△、砂粒を少量含む。

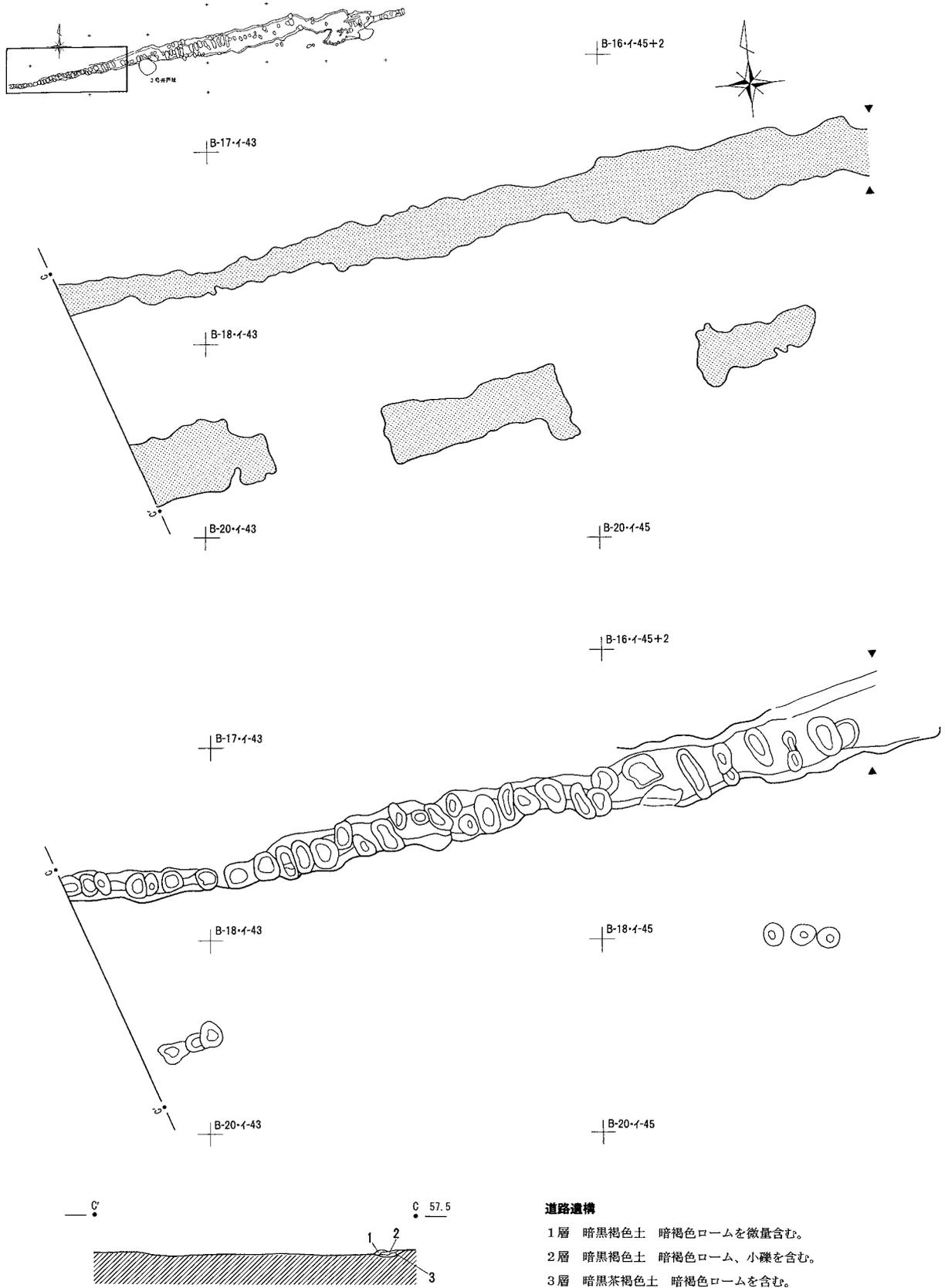


第58図 道路遺構 (1)

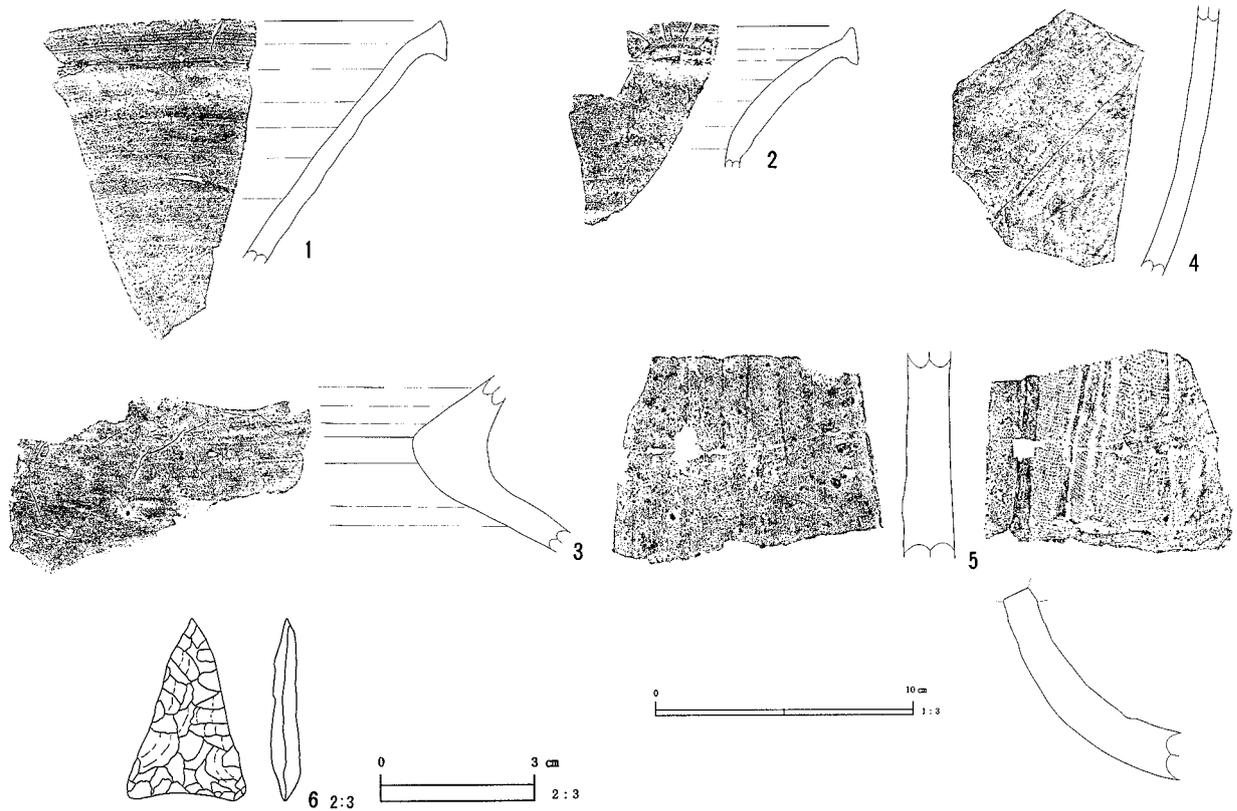


- 道路遺構**
- 1層 暗黒褐色土 暗褐色ロームを微量含む。
  - 2層 暗黒褐色土 暗褐色ローム、小礫を含む。
  - 3層 暗黒茶褐色土 暗褐色ロームを含む。
  - 4層 暗黒茶褐色土 暗褐色ローム、砂粒を少量含む

第59図 道路遺構 (2)



第60図 道路遺構(3)



第 61 図 道路遺構出土遺物

本遺構は東西 51.6m にわたって確認し、主軸方位は N - 86° - E である。遺構確認面とほぼ同じ高さで硬化面を確認し、この硬化面は道路幅に重なるように広がっている。硬化面を剥がすと、連続する楕円形の窪みを検出した。

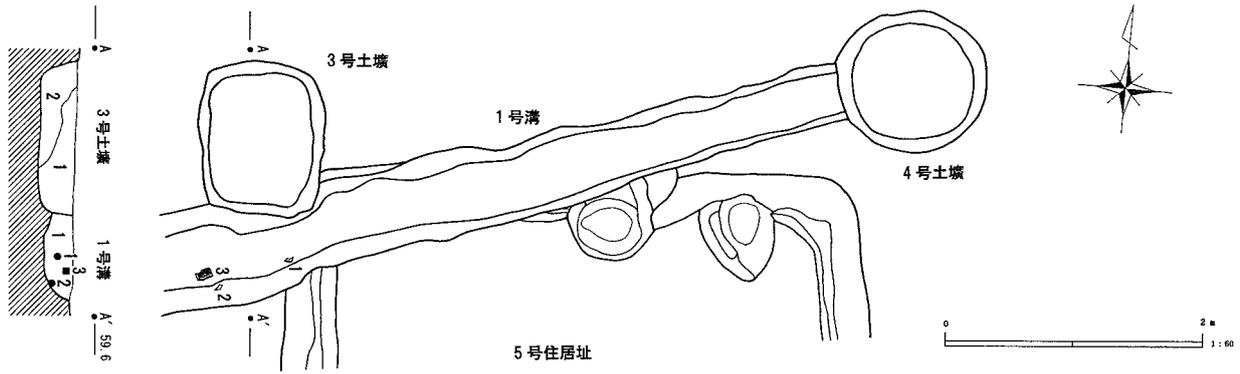
道路遺構の上面には、0.3 ~ 4.5 m の幅に硬く締まった暗黒褐色土の硬化面が広がっている。東側では掘り込みが 20cm、中央部は 28cm、西側では 10cm をはかり、断面は基本的に幅広の皿状を呈する掘割状の道路である。硬化面を剥がすと底面に不規則に並ぶ長軸 40 ~ 150cm、短軸 20 ~ 55cm の楕円形の掘り込みと径 20 ~ 50cm の不整形な円形の掘り込みを検出した。

南側の道路遺構も上面に 35 ~ 60cm の硬化面が広がり、硬化面を剥がすと径 50cm 前後の円形の掘り込みを検出した。

第 40 表 道路遺構出土遺物観察表

単位は cm ( ) は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	20-1	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。
2	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器内外面にロクロ水挽き整形。
3	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	頸部器内外面にロクロ水挽き整形。器外面に斜め方向の平行叩き。内面頸部下端を篋削り整形。
4	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面にはナデ整形。
5	20-5	丸瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面は縦方向の篋ナデ整形。側面、凹面側部に篋削り。



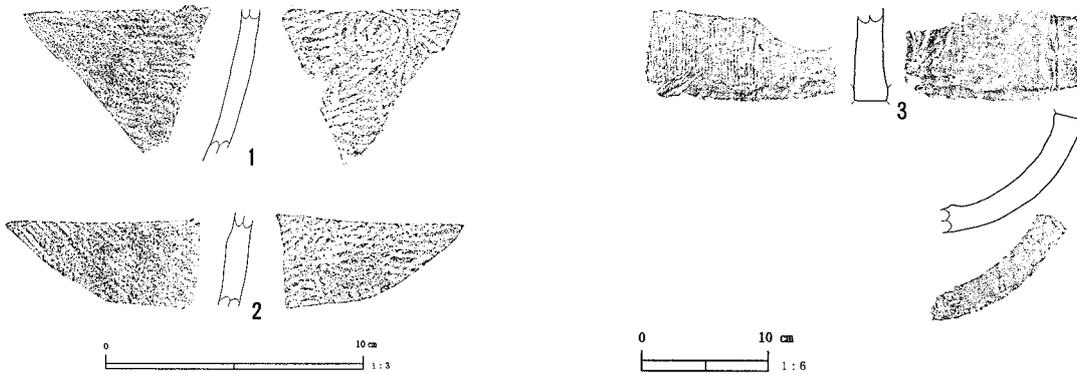
**1号溝**

1層 暗黒褐色土 ローム粒子を極微量含む。

**3号土壙**

1層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。

2層 暗褐色土 ローム粒子を微量含み、ロームブロックを極微量含む。



第62図 1号溝 出土遺物 3号土壙 4号土壙

第41表 道路遺構出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	種類	長さ	幅	重さ(g)	石質	観察・特徴
6	20-6	石鏃	2.7	1.7	1.5	チャート	基部に浅い抉りを持つ。左脚部が僅かに欠損する。完形。

(5) 溝

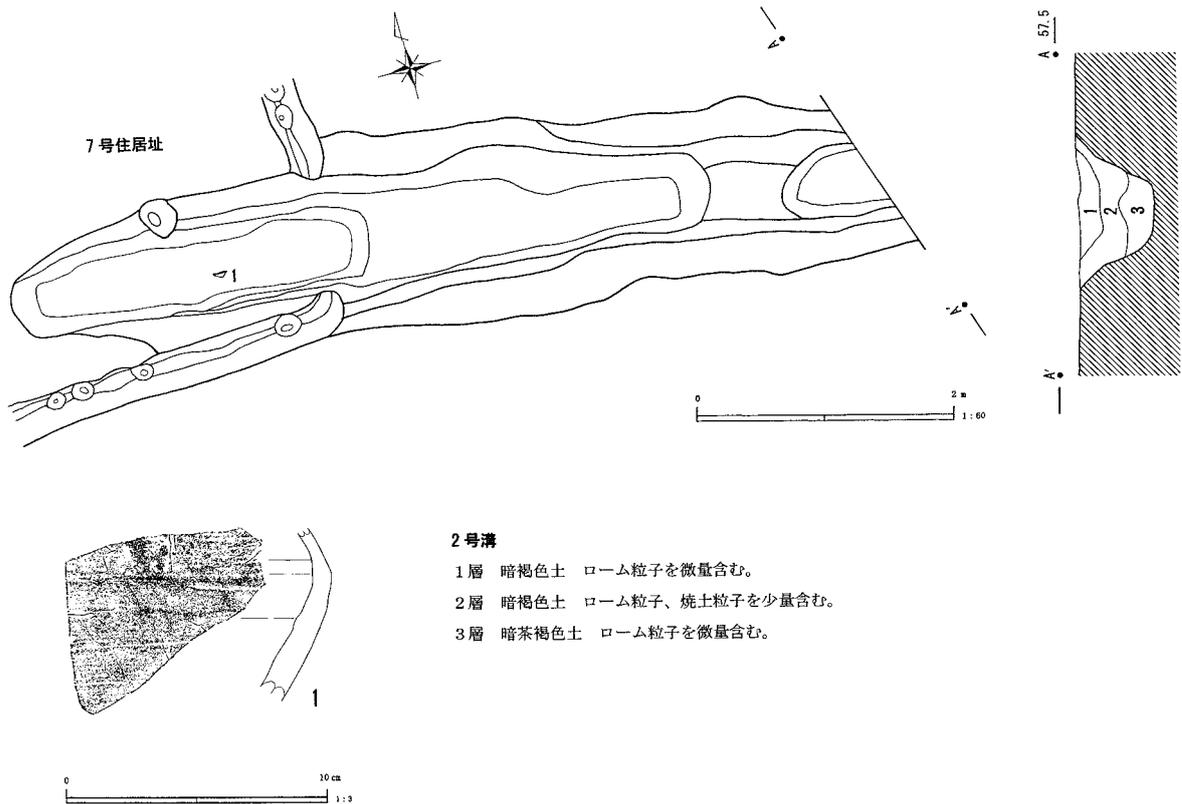
1号溝

本遺構は5号住居址、3号土壙、4号土壙と重複し、5号住居址が最も古く、続いて1号溝、3号土壙、4号土壙となる。確認できた長さは5.45mで、幅45～77cm、深さ24cmである。断面はレンズ状を呈する。

第42表 1号溝出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に横方向の平行叩き。器内面に同心円状の当て具痕が残る。
2	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面に同心円状の当て具痕が残る。
3	-	丸瓦	-	-	-	-	還元焰焼成	凹面に布目痕、凸面は縄叩き後一部に篋ナデ整形。端面、側面、凹凸面端部に篋削り。



**2号溝**

- 1層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子を微量含む。

第63図 2号溝 出土遺物

**2号溝**

本遺構は7号住居址と重複し、7号住居址が古い。東側は調査区外へと続く。規模は長さ6.85m、幅1.2～1.57m、深さ52～68cmをはかる。断面はU字を呈し、底面は幾つかの段を有する。

第43表 2号溝出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
1	-	壺	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面は回転篋削り。器内面はロクロ水挽き整形。湖西窯跡産か。

(6) 土壙

**3号土壙**

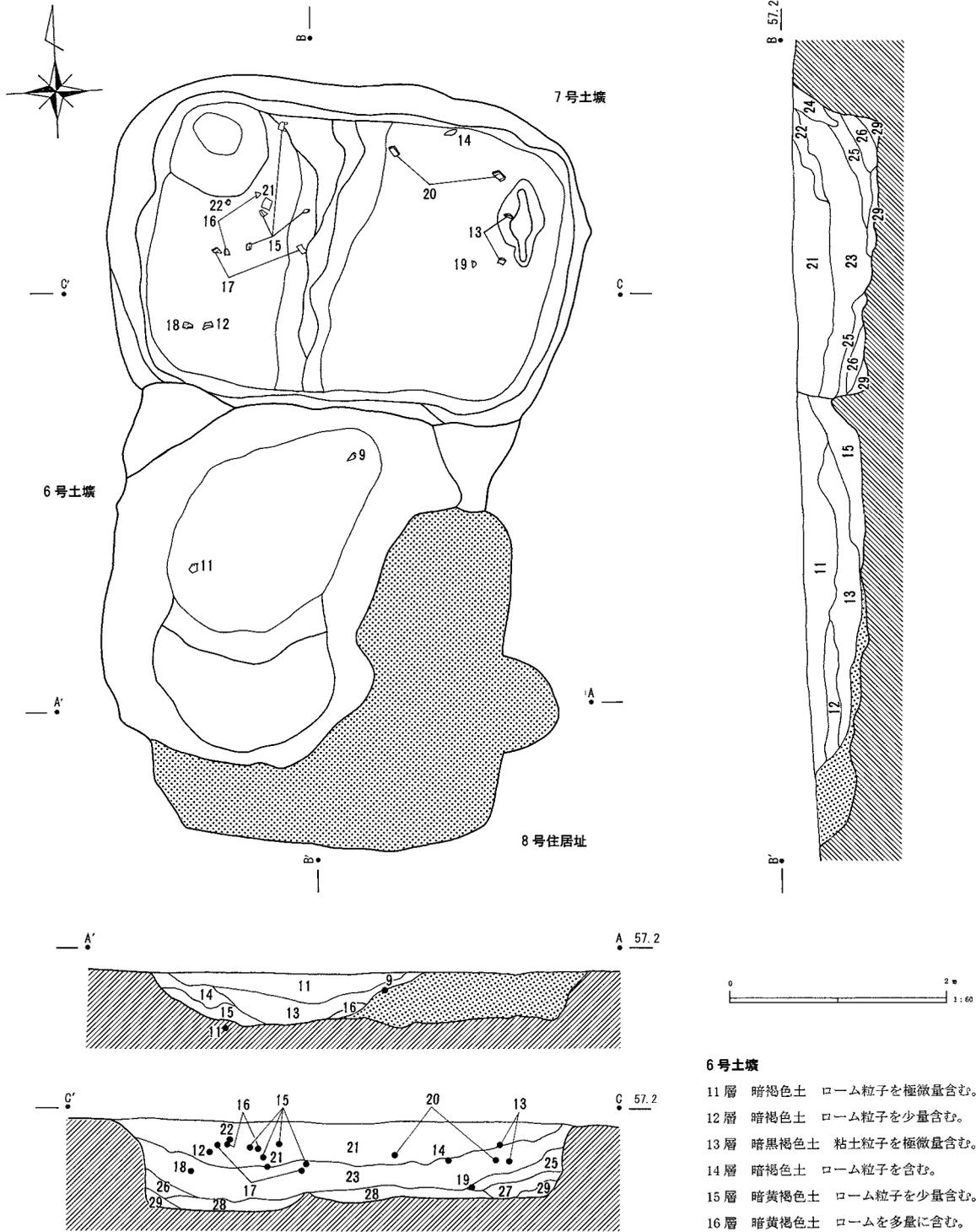
1号溝と重複し、新旧関係は本遺構が新しい。規模は東西1m、南北1.2m、深さ28cmをはかる。平面プランは長方形を呈する。

**4号土壙**

1号溝と重複し、新旧関係は本遺構が新しい。規模は径1.15m、深さ20cmをはかる。平面プランは円形を呈する。

**6号土壙**

本遺構は8号住居址と7号土壙に重複する。8号住居址、7号土壙が古く、本土壙が最も新しい。規模は東西3.45m、南北3.5m、深さ65～80cmをはかる。平面プランは不正の方形を呈する。



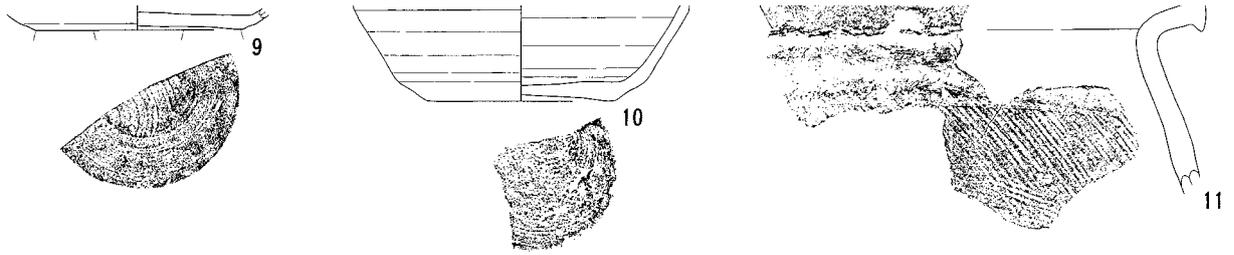
**7号土壌**

- 21層 暗褐色土 ローム粒子を微量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 22層 暗褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを微量含み、焼土粒子を極微量含む。
- 23層 暗黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を極微量含む。
- 24層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 25層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 26層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 27層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 28層 暗黄褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 29層 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。

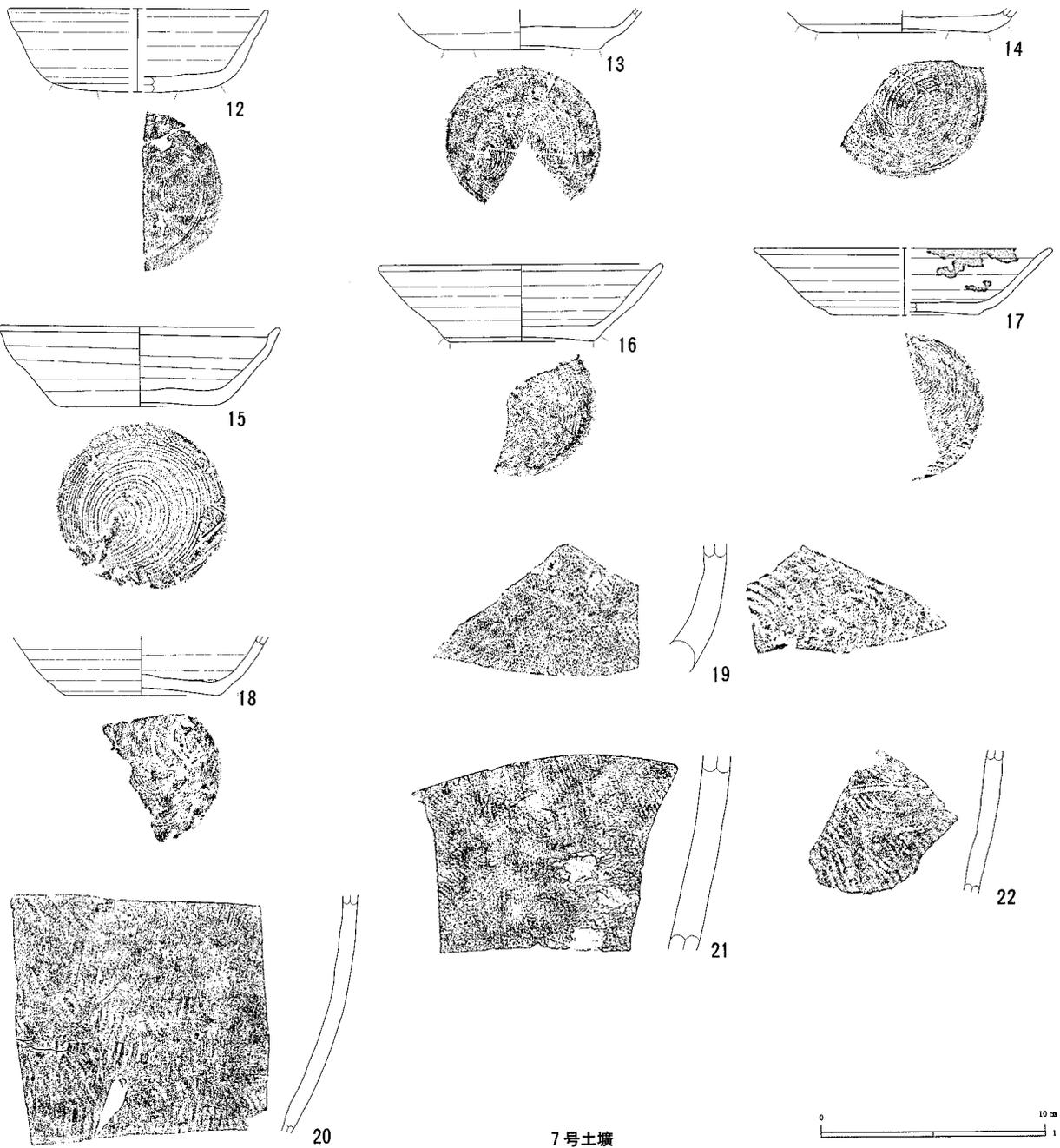
**6号土壌**

- 11層 暗褐色土 ローム粒子を極微量含む。
- 12層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 13層 暗黒褐色土 粘土粒子を極微量含む。
- 14層 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 15層 暗黄褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 16層 暗黄褐色土 ロームを多量に含む。

第64図 6号土壌 7号土壌



6号土坑



7号土坑

第 65 图 6号土坑出土遗物 7号土坑出土遗物

7号土壙

6号土壙と重複する。規模は東西4.35m、南北3.05m、深さ70～89cmをはかる。平面プランは長方形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底部はほぼ平坦で、中央部に南北に走る高さ約10cmの間仕切り状の高まりがある。北東コーナーに高さ13cmの楕円状の高まりがある。北西コーナーには径90cm、深さ18cmの土壙が見られる。

第44表 6号土壙出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
9	-	坏	-	(7.9)	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
10	-	坏	(13.0)	(7.4)	-	4.0	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。残存率35%。
11	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	口縁部は短く、大きく外反する。器外面は斜め方向の平叩き。器内面にロク口水挽き整形。

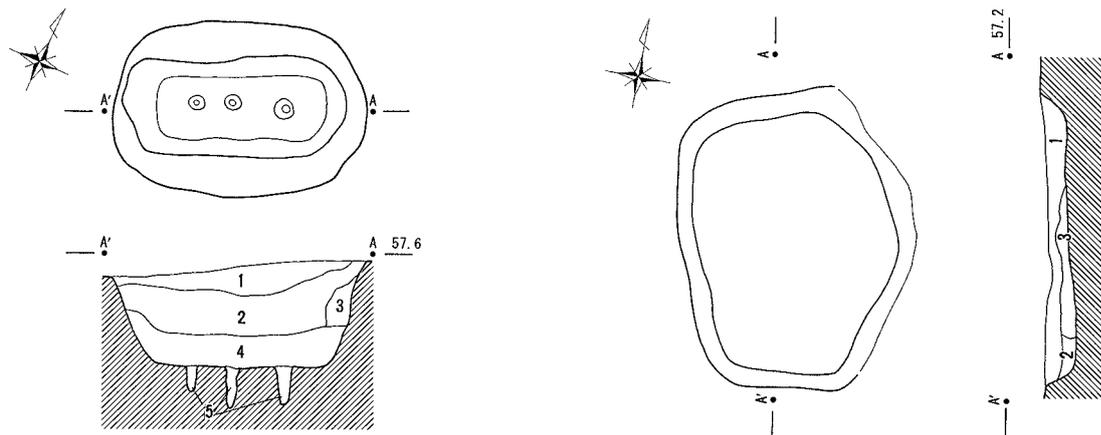
第45表 7号土壙出土遺物観察表

単位はcm ( )は推定値

挿図番号	図版番号	器種	口径	底径	内底径	器高	焼成	観察・特徴
12	-	坏	(11.6)	(7.4)	-	3.8	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。器内外面にロク口水挽き整形。残存率45%。
13	-	坏	-	6.9	8.5	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
14	-	坏	-	(7.1)	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り後外周部回転篋削り。胎土に白色針状物質を含む。南比企窯跡産。
15	20-15	坏	12.6	7.5	7.2	3.7	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。残存率70%
16	20-16	坏	(12.7)	(6.4)	-	6.5	半還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。残存率35%。内面口唇部に煤が付着。
17	20-17	坏	(13.3)	(6.7)	-	3.1	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。残存率30%。内面口唇部に煤が付着。
18	-	坏	-	(6.8)	-	-	還元焰焼成	底部は回転糸切り。器内外面にロク口水挽き整形。
19	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面に同心円状の当て具痕が残る。
20	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に横、斜め方向の平行叩き。器内面に当て具痕。
21	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面はナデ整形。
22	-	甕	-	-	-	-	還元焰焼成	器外面に斜め方向の平行叩き。器内面はナデ整形。

8号土壙

2号井戸址と重複し、新旧関係は本遺構が古い。規模は径1.5m、深さ20cmをはかる。平面プランは円形を呈する。

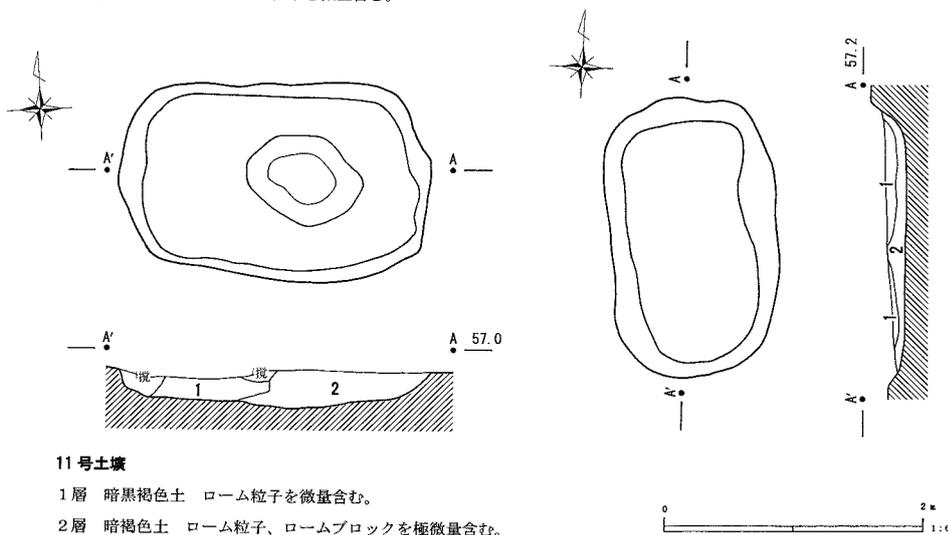


**9号土坑**

- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2層 暗黒褐色土 ローム粒子を極微量含む。
- 3層 暗黄褐色土 ロームブロックを微量含む。
- 4層 黒褐色土 ローム粒子を極微量含む。
- 5層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。

**10号土坑**

- 1層 暗黄褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを少量含む。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含み、焼土粒子を極微量含む。



**11号土坑**

- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを極微量含む。

**12号土坑**

- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを極微量含む。

第66図 9～12号土坑

**9号土坑**

規模は長軸 1.98 m、短軸 1.4 m、深さ 85cmをはかる。平面プランは楕円形を呈する。底面に径 12～15 cmのピットが3本穿たれている。縄文時代の遺物は出土していないが、落し穴として使用したものと推測できる。

**10号土坑**

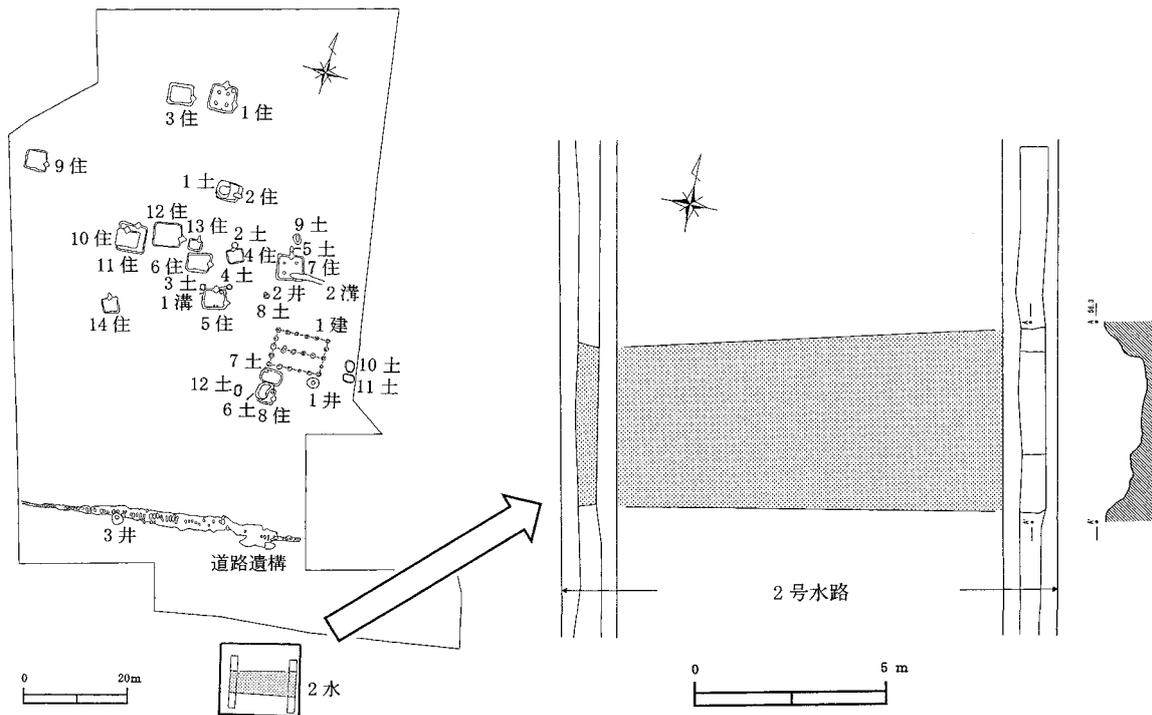
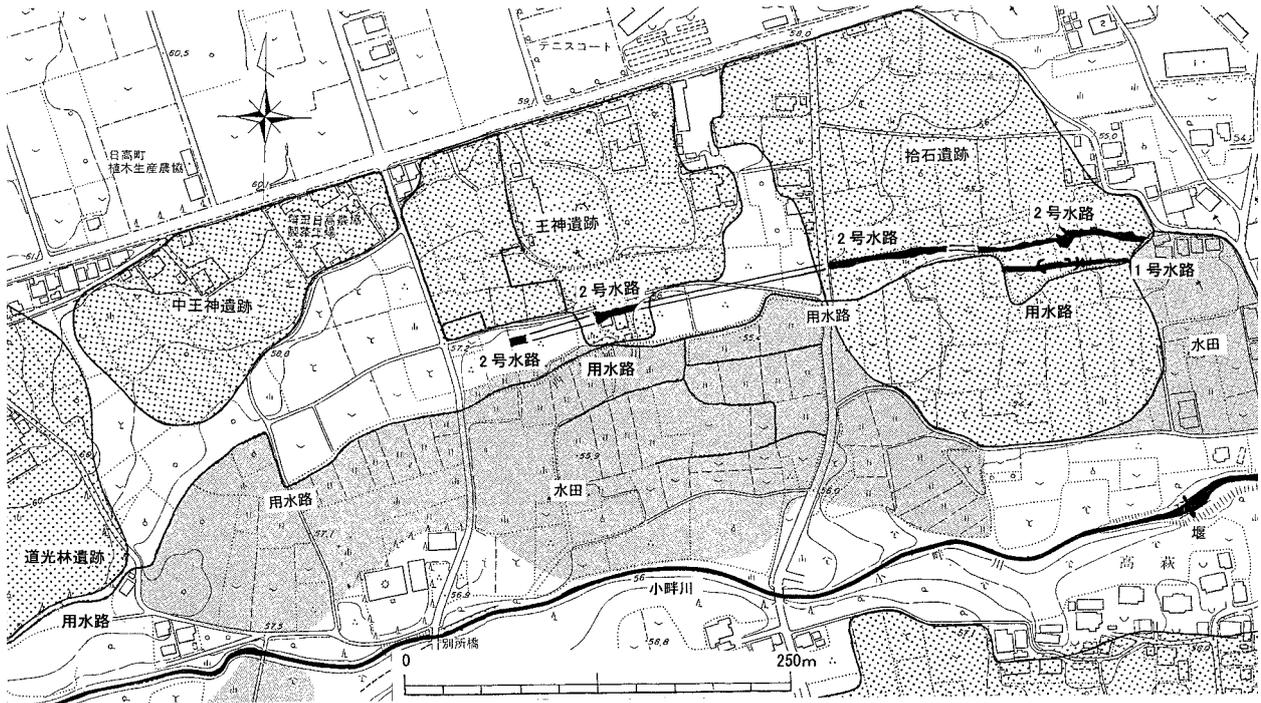
規模は長軸 2.4 m、短軸 1.83 m、深さ 23cmをはかる。平面プランは隅の丸い長方形を呈する。

**11号土坑**

規模は長軸 2.1 m、短軸 1.58 m、深さ 27cmをはかる。平面プランは隅の丸い長方形を呈する。底部に長軸 91cm、短軸 72cm、深さ 7cmの落込みがある。

**12号土坑**

規模は長軸 2.22 m、短軸 1.32 m、深さ 15cmをはかる。平面プランは隅の丸い長方形を呈する。



第 67 図 2号水路

(7) 水路

2号水路

調査区外に敷設されていた幅 6 m の都市計画道路の仮設道路両端にサブトレンチを入れて、拾石遺跡で調査した 2 号水路の確認調査を行った。調査区から 18 m 離れた箇所でも水路遺構の一部を確認した。遺構は都市計画道路の両端で検出され、東側トレンチのみを掘り下げた。規模は幅 4.9 m、深さ 1.1 m である。

## 第4章 まとめ

### 1：須恵器坏を中心とした編年

鳩山窯跡編年の須恵器坏類を基準に、住居址などから出土した遺物の共伴関係を考慮した土器群として編年することとした。Ⅴ、Ⅶ期に該当する資料は出土していない。

#### Ⅱ期（古）

当期の8世紀第1四半期後半から8世紀第2四半期前半に相当する須恵器のほとんどが南比企窯跡産の製品である。1号住居址4、5、3号住居址7、11号住居址1、2の坏は口径15cm大、底径9～11cm、器高3～4cmの法量を持つ坏である。11号住居址2を除き底部は全面回転篋削りで、1号住居址4、5は僅かに丸味を帯びる。体部は大きくハの字に開き、1号住居址4、5、3号住居址5、7は深身タイプ、11号住居址1は浅身の盤状を呈し、2は中間タイプである。1号住居址と3号住居址から口径14～15cmのかえりを持つ蓋が出土し、かえり部が口縁部より突出する。同様な蓋は小谷4号窯跡で見参できる。

土師器の坏は器高が低い半円形も見られるが、皿形が主流を占める。長甕は口縁部が大きく外反し、くの字状を呈する。胴部の最大径を上部で持つが、口径は超えない。1号住居址の24、28は器厚が厚く、球形を呈する。比企形土師器甕が共伴する。

#### Ⅱ期

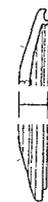
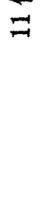
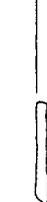
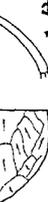
8世紀第2四半期に当たり、前期と同様に須恵器の供膳具は南比企窯跡産がほとんどを占める。4、7号住居址から出土したかえりを持つ蓋は、かえり部が口縁部より突出し、口径13.5～15cmである。7号住居址3は体部が大きくハの字に開き、浅身タイプの坏である。口径は14.7cm、底径9.6cm、器高3.4cmである。4号住居址からは佐波理模倣塚が出土している。土師器坏は、器高が低い皿状を呈する。土師器甕は、口縁部が大きく外反するものの胴部の張りが弱くなる。

#### Ⅲ期

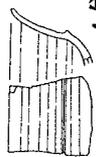
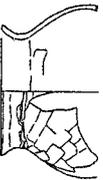
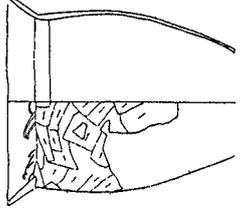
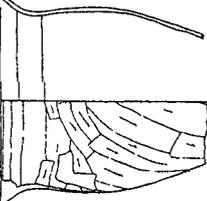
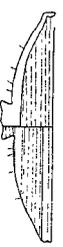
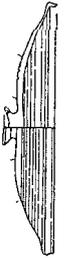
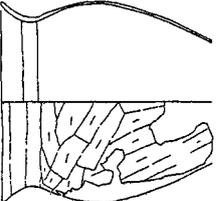
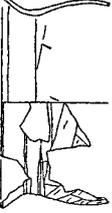
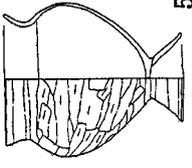
8世紀第3四半期に該当する。須恵器の供膳具は南比企窯跡産が主流であることは変わらないが、胎土から東金子窯跡産の前内出窯跡系と考えられる資料も僅かに見られる。5号住居址4～7、6号住居址1、9号住居址1、12号住居址8、11～15の口径は13cm前後、底径7～9cm、器高3～4cmの法量範囲に集中し、底部再調整は外周部回転篋削りである。形態は主に浅身タイプで、体部が大きくハの字に開く。鳩山編年Ⅲ期の特徴と類似する。蓋は器高が高くなり、口縁部が屈曲するタイプに変わる。土師器坏は丸底と平底の皿状のタイプが見られるが、数量は少なくなる。土師器甕の口縁部は屈曲が弱くなる。

#### Ⅳ期

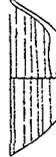
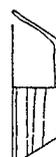
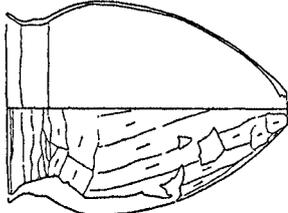
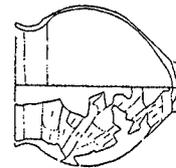
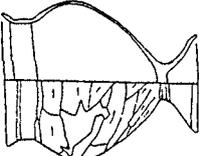
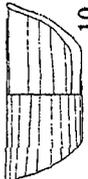
8世紀第4四半期に該当する。須恵器の供膳具は南比企窯跡産、東金子窯跡産が見られる。8号住居址2は口径が12cm大、底径6cm大、器高4cm大、形態は深身となる。底部再調整は外周部回転篋削りである。数量が少ないもののⅢ期がスケールダウンしたタイプである。鳩山編年Ⅲ期がスケールダウンするⅣ期の特徴と同じである。

須恵器		土師器	
蓋	坏類	坏類	甕、壺、鉢
 1住1  1住2  1住3  3住1  3住2  3住3  3住4  3住5	 1住4  1住5  11住1  11住2  3住7  3住6	 1住6  3住9  11住9  11住7  11住10  11住6	 3住10  11住5  11住8  1住7  1住19  3住14  11住16  11住14  11住15
II期(古)			

第68図 I期遺物(蓋、坏は1/6、甕は1/8)

須惠器		土師器	
蓋	坏類	坏類	甕、壺、鉢
II 期			
 4住1  7住1	 7住3  4住2	 4住7  7住9	 7住8
III 期			
 5住1  5住2  12住1  5住3	 12住11  6住1  12住8  12住14  5住5  5住12	 9住1  12住12  5住4  12住15  5住6  12住18	 6住7  5住16  5住18

第69図 II、III期遺物（蓋、坏は1/6、甕は1/8）

		須恵器		土師器	
		蓋	坏類	坏類	甕、壺、鉢
IV 期		 8住1	 8住2		
VI 期		 13住1  2住9  14住1  2住14  2住8	 2住7  14住2  2住10  13住3	 2住13  2住12  2住11	 13住5  13住7  2住20
VIII 期		 10住7  10住6  10住14	 10住9  10住11	 10住8  10住10	

第70図 IV、VI、VIII期遺物（蓋、坏は1/6、甕は1/8）

## Ⅵ期

9世紀第2四半期に相当する。須恵器の供膳具は完全に東金子窯跡産が主流となる。2号住居址7～14、14号住居址1、2、13号住居址3は口径12cm大、底径6cm前後、器高3.5cm前後、内底径は6～7cmと底径との差がなくなる。形態は深身と中間タイプが主体である。口縁部は僅かに外反し、体部は丸みを帯び内彎気味となる。土師器甕の口縁部は、コの字状が明確になる。形態は胴部最大径が口径を超え、径が小さい底部に向ってすぼまる。

## Ⅷ期

9世紀第4四半期。須恵器の供膳具は東金子窯跡産である。10号住居址6～11は口径12cm大、底径5cm前後、器高3.5cm前後で、内底径は5cm前後と底径との差がなくなる。形態は深身が主体である。口縁部は僅かに外反し、体部は丸みを帯び内彎気味となる。形態は深身タイプが主となり、内面の体部変換点に丸みを帯びるものが多く見られる。13は丸底で、口縁部は垂直に屈曲し、北武蔵形の土師器坏である。

## 2：集落の変遷

今回報告する奈良・平安時代の遺構は、住居址14軒、掘立柱建物跡1棟、井戸址3基、道路遺構1条である。土器編年を基に集落の変遷を検討したい。集落時期と土器編年期は同じである。

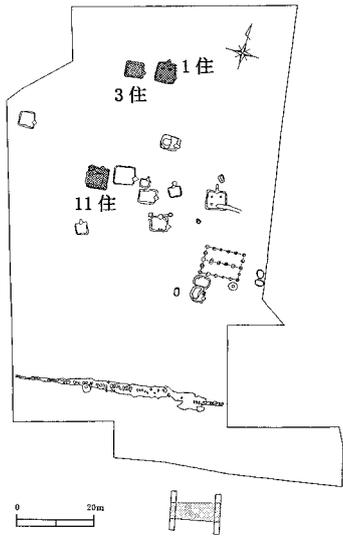
集落の出現期のⅡ期（古）は1、3、11号住居址が該当する。1、3号住居址は標高が高い箇所に位置している。柱穴を伴うのは1号住居址だけだが、3軒とも比較的規模が大きい住居址である。1号住居址は比企形の土師器甕が出土し、11号住居址は口縁部が大きく外反する土師器の長甕が出土している。Ⅱ期は隣接する4、7号住居址が該当する。Ⅲ期は5、6、9、12号住居址が該当し、5、6、12号住居址は近接し、9号住居址は距離を持っている。Ⅳ期に該当するのは8号住居址の1軒だけである。Ⅴ期は該当する遺構が見当たらない。Ⅵ期は2、13、14号住居址の3軒である。Ⅶ期は該当する遺構が所在しない。Ⅷ期は10号住居址が1軒である。

1号掘立柱建物跡は遺物が少なく時期の特定が難しいが、本遺構と住居址などの遺構との重複関係が見られないが、近接するエリアにⅣ期の8号住居址が構築される。続くⅥ期の1号井戸址も構築されることから、本遺構は8世紀第4四半期には機能していなかったと推定できる。Ⅱ期（古）1、11号住居址、Ⅱ期7号住居址と主軸方位がほぼ同じ事からⅡ期の構築と考えられる。

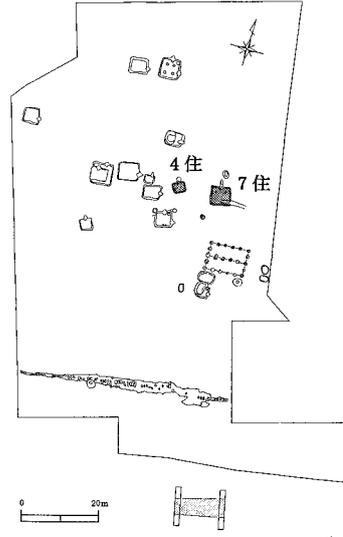
1号井戸址の上層からはⅣ期の遺物が出土しており、当該期には廃絶していたことが窺える。2、3号井戸址の時期は不明である。

道路遺構は遺跡の最も南に位置する。掘割状の形態を取り、底面の硬化面下には凹凸状の掘り込みを有する。この構築方法は当時の幹線道路と同じである。集落の住居と道路の位置関係や集落のネットワークをとらえるために、重要な遺構である。本遺跡の東に所在する拾石遺跡で確認した道路遺構と繋がり、二つの集落を結んでいたことが理解できた。立地も集落の南に構築されているなど共通する。

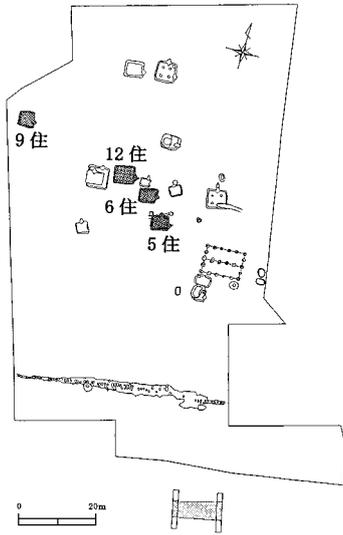
今回の調査区の住居址は8世紀第2四半期に始まり、8世紀第3四半期から第4四半期にピークを迎える。9世紀に入ると住居址は激減する。集落の立地は台地の緩傾斜地に広がり、全時期を通じて同じ位置に集中する。集落の南を東西方向に走る道路遺構によって、遺跡の南域が決められている。



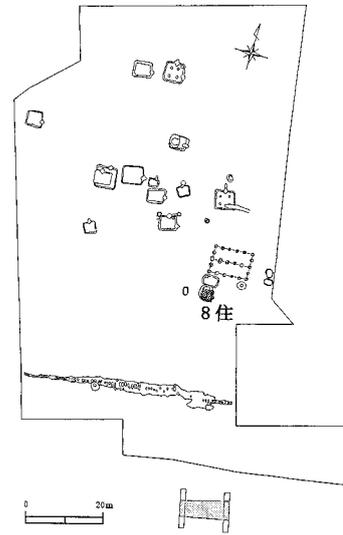
Ⅱ期 (古)



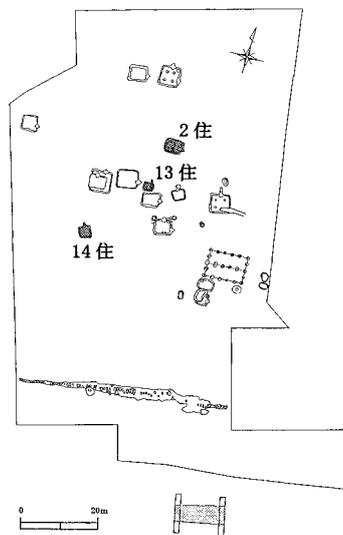
Ⅱ期



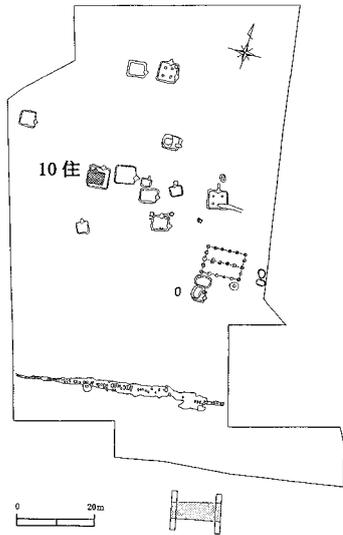
Ⅲ期



Ⅳ期



Ⅵ期



Ⅶ期

第 71 図 集落の変遷

### 3：碁石状土製品について

1号住居址から径1.8cm、厚み0.6cm、重さ1.45gの円形を呈する土製品が出土した。断面形状は中央が膨らむレンズ状で、焼成は土師質である。周辺遺跡の出土例を調べると、市内の常木久保遺跡8号住居址でも径1.8cm、厚み0.9cm、重さ1.9g、断面は中央が膨らみレンズ状を呈し、焼成が土師質の円形土製品が出土している。この土製品は当初は用途不明の土製品と考えていたが、形状が碁石と類似するため碁石の可能性を考えることとした。

我国の囲碁に関して最も古い文献資料は、中国の史書である「隋書倭国伝」に現れ、続いて「北史倭国伝」、「通典倭伝」に見られる。いずれにも倭人は囲碁、雙六、ばくち、琴などの遊びが好きであると記述されている。

国内の文献資料で囲碁について記述されている最も古いのは、天平勝宝3年(751)に編纂された「懷風藻」で、その後「続日本紀」、「日本紀略」、「日本文徳天皇実録」、「日本三代実録」などに見られ、囲碁が天皇や貴族の間で楽しまれていたことが理解できる。また、律令法典の「大宝律令」、「養老律令」に一般は盤上遊戯の雙六、碁は賭博性の強い遊びとして禁止するが、僧尼は含まない事が書かれている。貴族層や文人層にとって、碁は嗜み(教養)のひとつであったため、禁止にならなかった可能性が考えられる。「日本紀略」には仁明天皇が碁の賭物に新銭二十貫文を出して、碁を打たせたと書かれている。この様に囲碁は勝敗が決まる遊戯のため銭や馬などを賭物とする賭博の対象になっていたと思われる。

その他の古代囲碁資料として、天平勝宝8年(756)から光明皇后が聖武天皇の愛用した遺品と自身の愛用品を収めた東大寺正倉院の宝物の中に、木画紫檀碁局1面、桑木木画碁局2面の碁局と象牙を紅と緑に染めて花喰鳥を彫った径1.5cm前後、厚み0.7cm前後の紅牙撥鏤碁石が5枚、紺牙撥鏤碁石5枚と径1.4～1.5cm、厚み0.7～0.9cmの石英製の白碁石14枚、径1.5cm、厚み0.7cmの蛇紋岩製の黒石1枚が知られている。これらは「国家珍宝帳」にも記載されている。延暦12年(793)に宝物を調査した「曝涼使解」には碁子六百枚とあり、紅牙撥鏤碁石、紺牙撥鏤碁石、黒石、白石がそれぞれ150個ずつ納めていたと思われる。

現在の碁石は、蛤を用いて径2.19cm、厚み0.84～1.13cmの白石を作る。黒石は那智黒石で作り、白石より若干径が大きく2.22cmである。形状はレンズ状である。数量は白石が180個、黒石が181個の合計361個で一組である。現在と古代では、囲碁に用いた碁石の大きさと数量に違いが見られる。

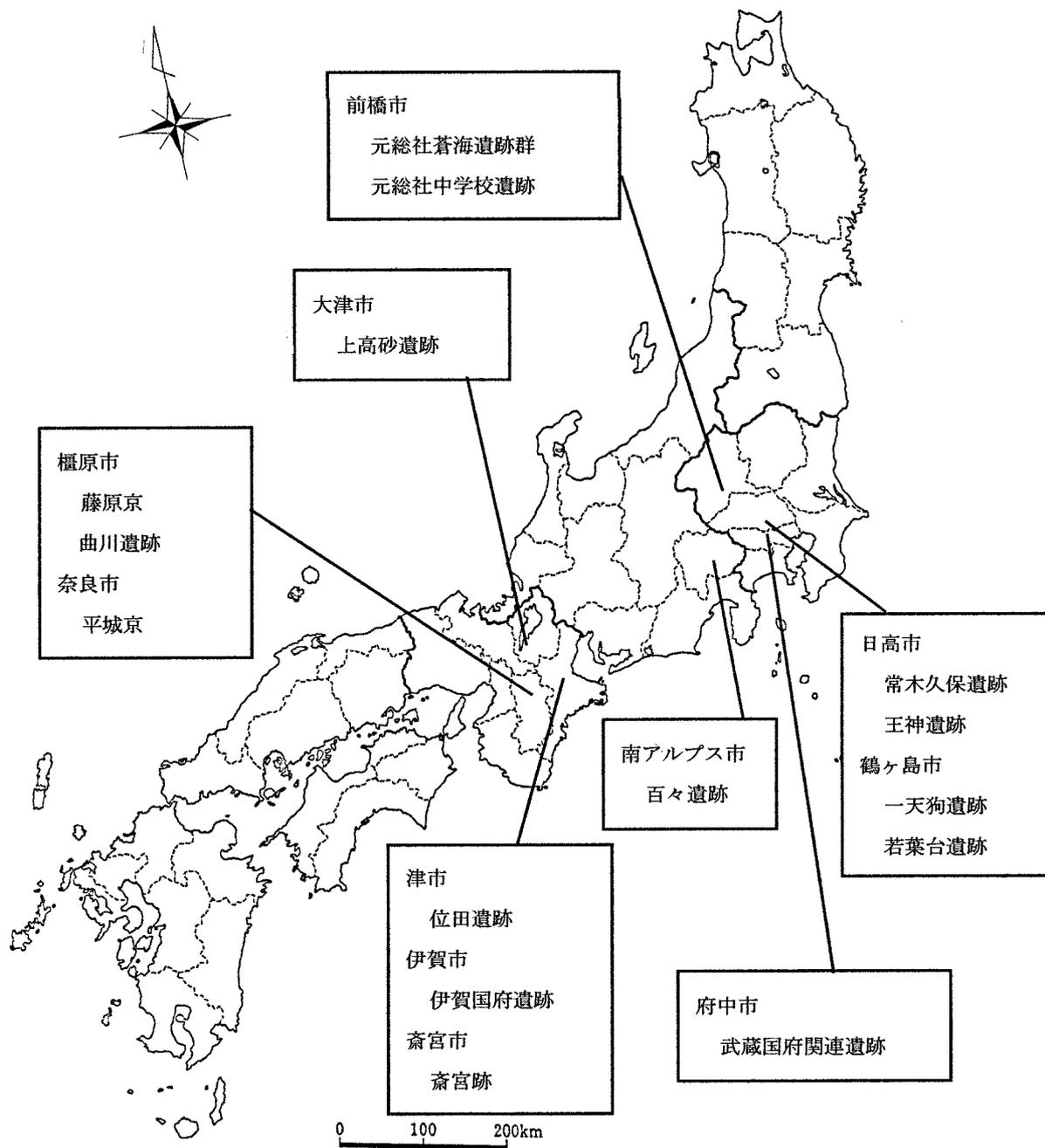
古代では貴族、僧侶などを中心にいくつかの遊戯が流行しその一つが囲碁で、広く普及し、親しまれていたことがわかる。

碁石状土製品や碁石状石製品が出土している遺跡は少なく。本市以外では下記の遺跡から出土している。

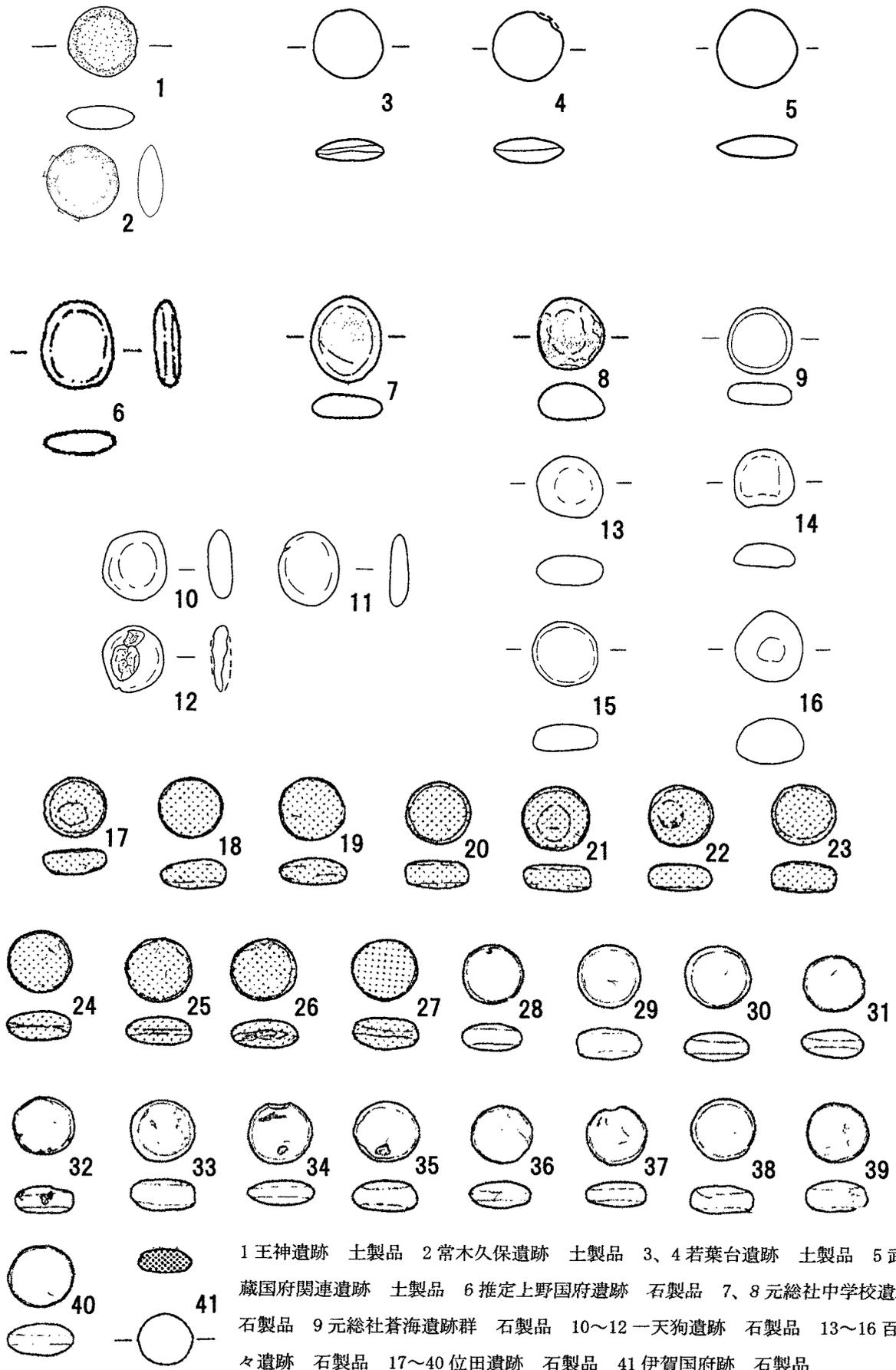
#### 鶴ヶ島市

若葉台遺跡S地点2号住居址からは、径1.7cm、厚み0.5cm、断面がレンズ状、焼成は素焼きの土製品が出土している。遺構外からも径1.7cm、厚み0.5cm、断面がレンズ状、焼成は素焼きの土製品が出土している。いずれも報告書には「碁石？」の記述が見られる。

一天狗遺跡J地点4区南1号住居址から、径1.55～1.65cm、厚み0.4～0.65cmの不整円形の黒石が3点出土している。全ての黒石は両面を研磨している。



第 72 図 基石、基石状土製品出土遺跡



1 王神遺跡 土製品 2 常木久保遺跡 土製品 3、4 若葉台遺跡 土製品 5 武蔵国府関連遺跡 土製品 6 推定上野国府遺跡 石製品 7、8 元総社中学校遺跡 石製品 9 元総社蒼海遺跡群 石製品 10~12 一天狗遺跡 石製品 13~16 百々遺跡 石製品 17~40 位田遺跡 石製品 41 伊賀国府跡 石製品

第73図 基石、基石状土製品

## 府中市

武蔵国府関連遺跡第 1172 次調査では、9 世紀前半の M39 - SI129（住居址）から碁石状土製品が 1 点出土している。径 2cm、厚さ 0.5cm で円形を呈し、断面はレンズ状である。

## 前橋市

### 元総社蒼海遺跡群

元総社蒼海遺跡群 79 次調査 H24 号住居址から径 1.8cm、厚さ 0.6cm、重さ 2.5 g、チャート製の碁石が 1 点出土している。住居址は 9 世紀後半である。

### 元総社中学校遺跡

元総社中学校遺跡 H6 号住居址から長さ 2.2cm、幅 1.8cm、厚さ 0.6cm、重さ 3.5 g、玄武岩製の扁平な黒石が 1 点出土している。W1 号溝覆土からは長さ 1.8cm、幅 1.7cm、厚さ 0.9cm、重さ 3.7 g、流紋岩製の白石が 1 点出土している。

### 推定上野国府遺跡

上野国府遺跡範囲確認調査 36 トレンチ H3 号住居址から長さ 2.1cm、幅 1.7cm、厚さ 0.5cm、チャート製で扁平な黒石が 1 点出土している。

## 南アルプス市

百々遺跡では、36 号住居址で径 1.7cm、厚さ 0.74cm、重さ 2.8 g の長石製の白石 1 点、41 号住居址から径 1.7cm、厚さ 0.6cm、重さ 2.6 g と径 1.85cm、厚さ 1.14cm、重さ 5 g の蛇紋岩製の黒石 2 点、47 号住居址からは径 1.6cm、厚さ 0.6cm、重さ 2 g の長石製の白石 1 点の計 4 点が出土している。36 号住居址は 9 世紀前半、41 号住居址は 9 世紀末から 10 世紀初頭、47 号住居址は 9 世紀末から 10 世紀前半である。

## 津市

位田遺跡では 10 世紀の溝から、黒色粘板岩製の黒石が 11 個、水晶製の白石が 13 個の計 24 個が 1ヶ所からまとまって出土している。大きさは共に径 1.46 ~ 1.66cm、厚さ 0.61 ~ 0.84cm、重さ 2.0 ~ 3.6 g で、形状はおはじき状である。

## 大津市

上高砂遺跡からは、径 1.2 ~ 2.7cm、厚さ 0.4 ~ 0.9cm の白石が 4 個出土している。平安時代末以降である。内 1 個は円形面の中央を穿孔する。

## 伊賀市

伊賀国府跡では、径 1.3cm、厚さ 0.7cm の石英製白石が 1 個、国庁域から出土している。

詳細は不明であるがその他に碁石状製品は、三重県斎宮市斎宮跡の 45 次調査で水晶製白石 1 点、54 次調査で黒石 1 点、78 次調査で瓦質が 1 点の計 3 点が出土している。

その他に、奈良県藤原宮では 7 世紀末から 8 世紀初頭の頁岩製黒石と砂岩性白石の出土が報告されている。平城宮の 8 世紀に該当する井戸から、径 1.2 ~ 1.6cm の粘板岩製黒石 2 個と石英製白石 6 個が出土している。

出土遺物を概観すると石製碁石が主流で、黒石、白石が出土する。位田遺跡、元総社中学校遺跡、百々遺跡、斎宮跡、藤原京、平城宮では黒石、白石が出土している。黒石は黒色粘板岩が多く用いられ、白石は主に石英が使われ、水晶なども見られる。碁石状土製品は大きさ、形状から囲碁に用いられた

可能性を考えられるが、素焼きのまま着色した痕跡は確認できない。

碁石状土製品は加工に手間がかかるが耐久性に富む。碁石状土製品は形、サイズを整えやすく、大量生産が可能であるが脆さを備える。そのため土製品の出土は少ないのではないだろうか。

囲碁に関連する資料は、政治文化の中心で中央官衙の藤原宮、平城宮や都と深い関係がある斎王の御所である斎宮から出土している。また、東大寺正倉院の宝物に碁盤、碁石、雙六の道具が収納されていることなどから、天皇、貴族、僧侶を中心に囲碁などの遊戯が盛んに行われていたことがわかる。

地方では伊賀国府、武蔵国府、上野国府と考えられている元総社蒼海遺跡群などの地方官衙から出土しており、中央との関係が深い遺跡で出土していることは興味深い。その一方で王神遺跡、常木久保遺跡、若葉台遺跡、一天狗遺跡など官衙以外の地方遺跡からも出土しており、単に囲碁の広がりと考えて良いのだろうか。今後囲碁関係資料や賽子など遊戯に関連する資料が増えることにより、古代の遊戯をとらえて中央と地方の結びつきを理解する資料となろう。

#### 4：鳥形硯について

5号住居址から出土した第21図19を鳥形硯として報告したが、硯面、頭部などの硯本体が出土していないが、遺物を詳細に観察した結果、器内面の仕上げ方、器外面の沈線、周縁部の仕上げなどから、鳥形硯の蓋の一部と結論付けるに至った。

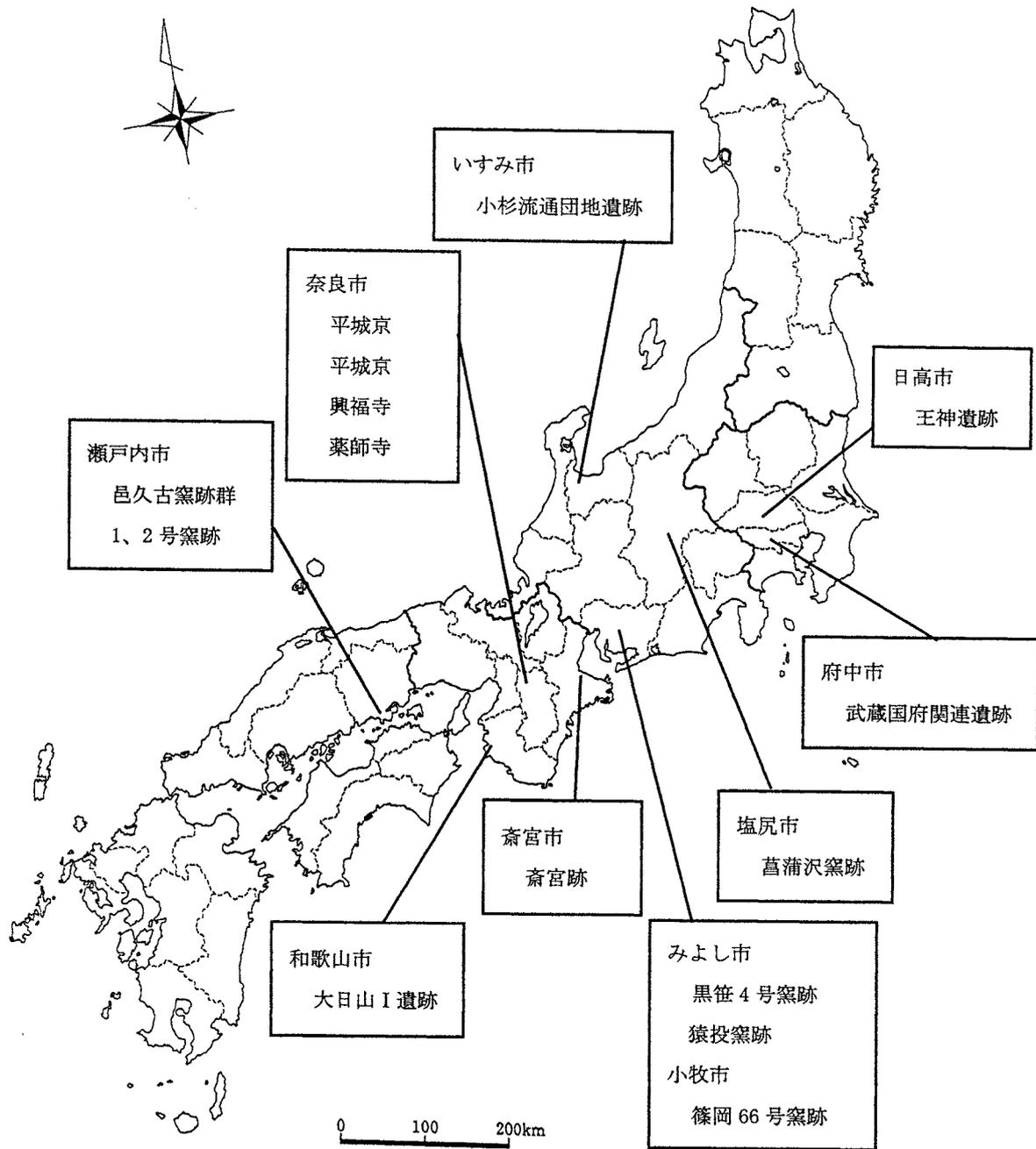
器外面には羽蓋の中央に稜を設けて、外縁に向けて緩やかな傾斜を持たせている。頸部を入れるために稜線の延長線上を篋で切って、狭い入り込部を設けている。羽は線刻により表現され、稜線を境にして綾杉状に沈線を配している。内面の周縁部は、肥厚させて縁を作出している。器外面は比較的丁寧な作りとなっているが、器内面の周縁部は雑な仕上がりとなっている。

奈良、平安時代の硯は陶硯で円面硯と風字硯の二種類に大別される。その他に動物、宝珠、花などを象った特殊な硯が見られ、形象硯として分類している。鳥形硯もこの範疇に含まれる形象硯の一つである。鳥形硯の出土例は非常に少なく、全国でも20例に満たない。

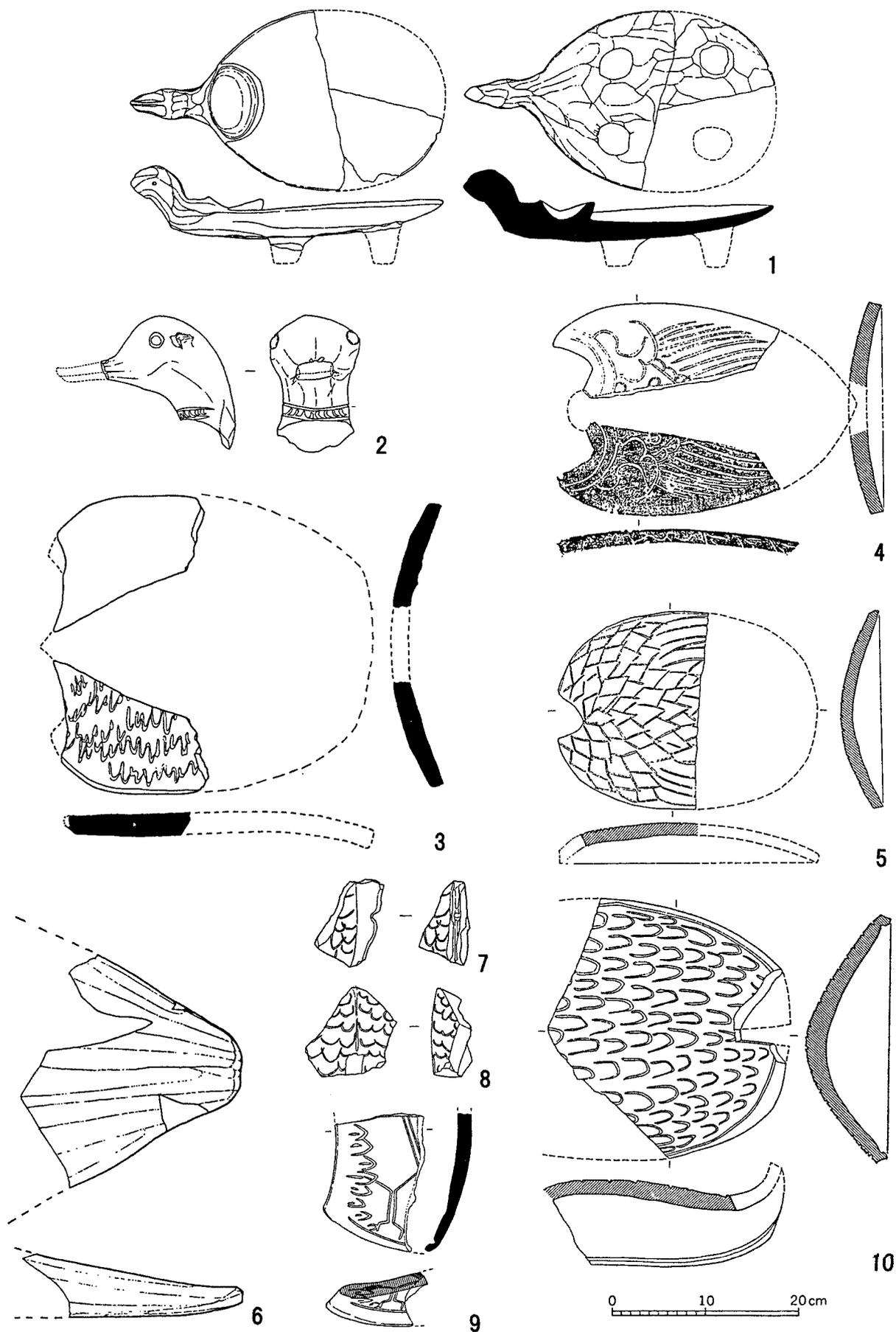
鳥形硯は愛知県の黒笹4号窯、猿投窯、篠岡66号窯、岡山県邑久窯群、長野県菖蒲沢窯跡の窯跡、奈良県の平城宮跡の6地点、平城京左京八条三坊、東京都府中市国府関連遺跡群の官衙遺跡、奈良県の興福寺一乗院、薬師寺の寺院から出土している。その他の遺跡では富山県小杉流通業務団地内No.16遺跡、和歌山県大日山I遺跡、神奈川県十七の域遺跡と本遺跡があげられる。生産遺跡の菖蒲沢窯跡からは複数個体の出土が確認されている。生産地での複数生産が裏付けられる資料である。製品の供給先はどこであったか興味深い。

鳥形硯の蓋は十七の域遺跡(3)、大日山I遺跡(4)、斎宮跡(6～8)、平城宮(5)、平城京(9、10)、菖蒲沢窯跡(12～14)が出土している。蓋の中央に稜線を設けるタイプとドーム状のタイプが見られる。肩羽はうろこ状、風切羽は線刻で表している。羽毛の表現は様々だが線刻を用いていることは共通する。但し、斎宮跡(8)は篋削りで羽毛は表現していない。大日山I遺跡(4)、菖蒲沢窯跡(12～14)は線刻で尾羽に向かう羽毛を表現している。この施文方法は本遺跡出土の鳥形硯蓋と同じである。

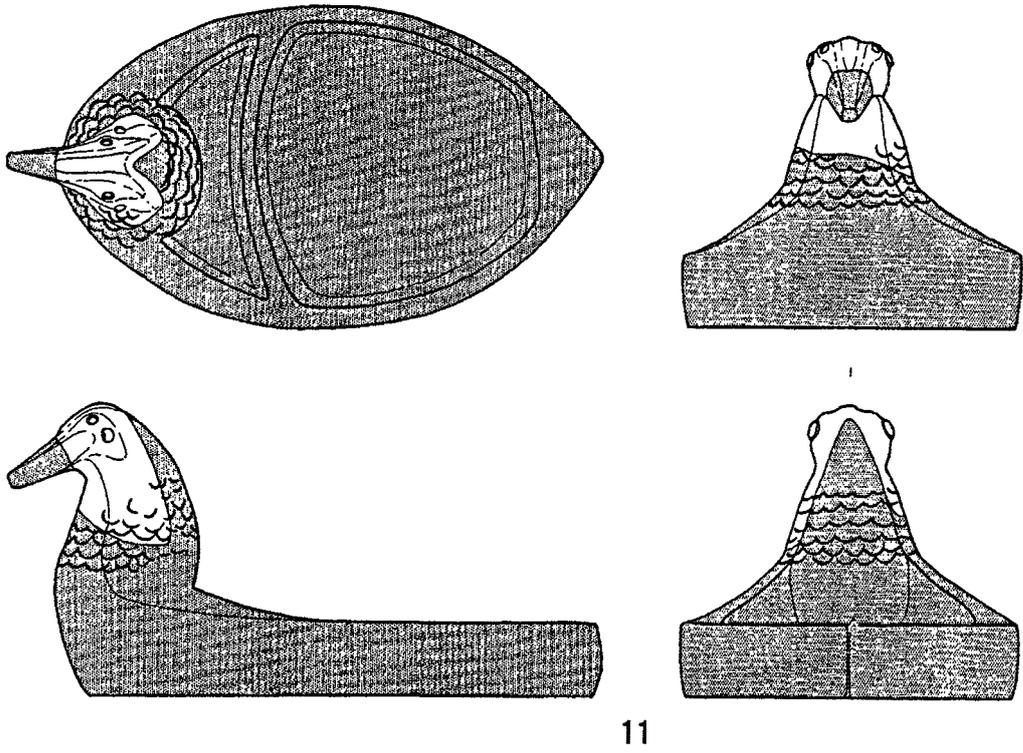
鳥形硯が出土しているのは窯跡以外では、主に官衙遺跡、寺院など識字者が所在する施設である。官人、僧侶にとって硯は、律令制度の重要なアイテムの一つである。これらの遺跡から硯が出土する



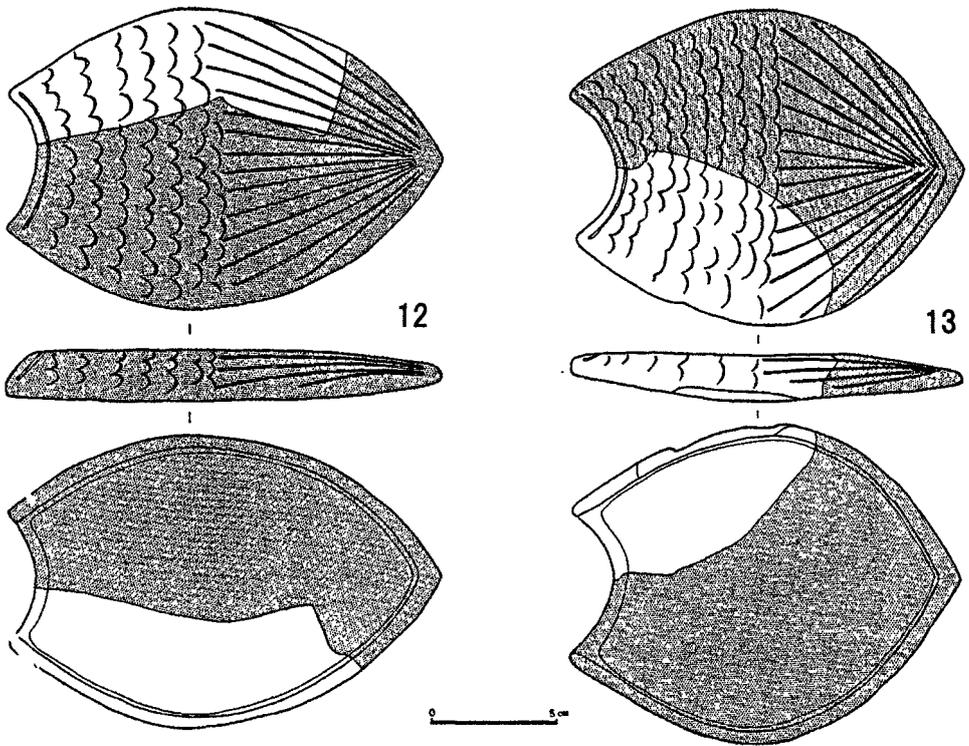
第74図 鳥形硯出土遺跡



第75図 鳥形硯1 平城宮 (1, 5, 9, 10) 齋宮跡 (2, 6~8) 十七の域遺跡 (3) 大日山I遺跡 (4)



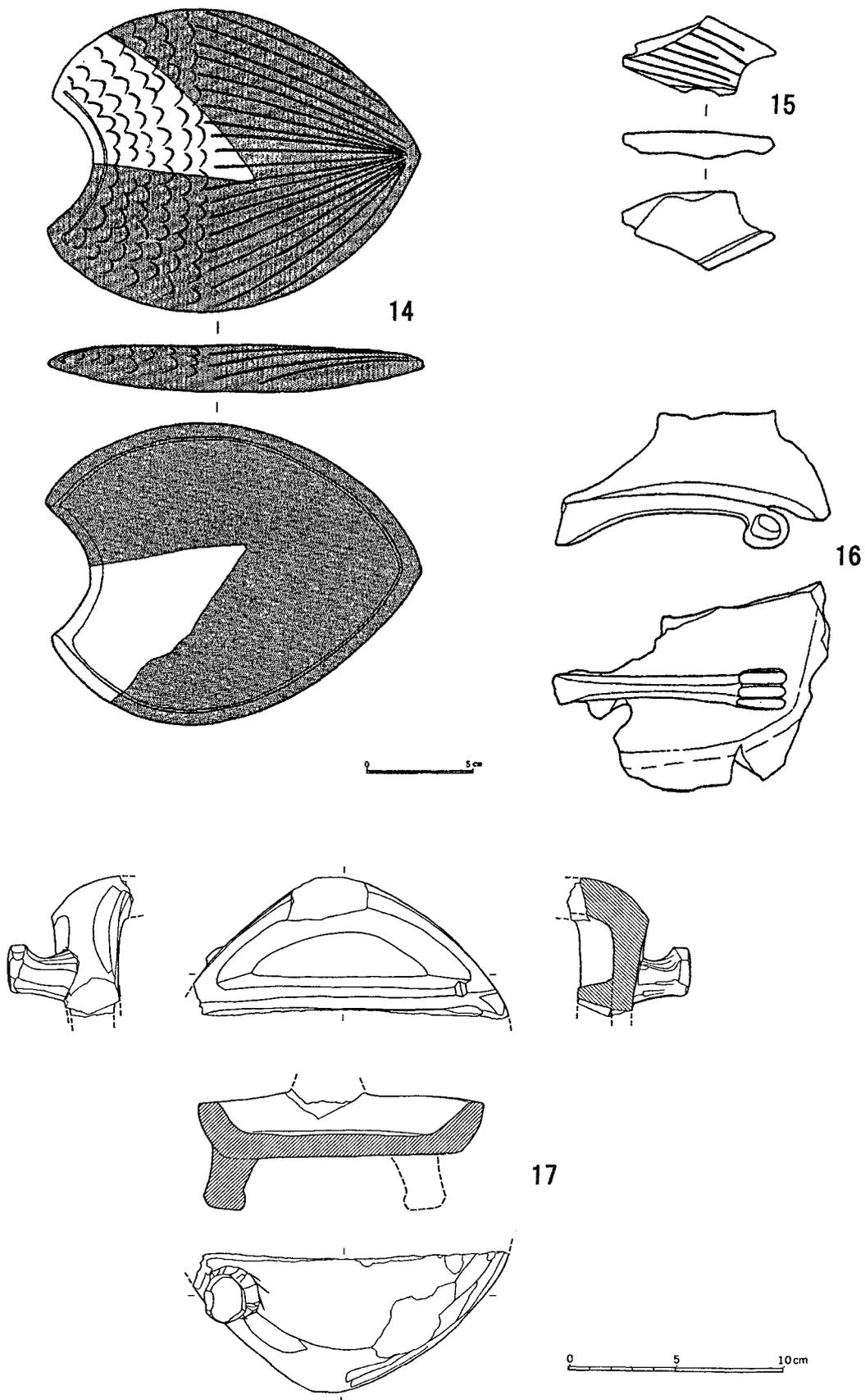
11



12

13

第76図 鳥形碗2 菖蒲沢窯跡 (11~13)



第77図 鳥形硯3 菖蒲沢窯跡 (14~16) 武蔵国府関連遺跡群 (17)

ことの必然性を疑う余地はないが、形象硯の一種である鳥形硯が官衙遺跡、寺院遺跡から出土している意味合いは何であろうか。

本遺跡から鳥形硯が出土したことは、遺跡の性格を考える上で重要な資料となるのであろうか。そして、武蔵国の小郡である高麗郡から鳥形硯が出土したことをどの様に捉えればよいのであろうか。本遺跡の調査が進み資料が蓄積したときに、鳥形硯の特殊性と踏まえて総合的に本遺跡を検証することが必要である。

#### 参考文献

- 渡辺一 武野谷俊夫 「鳩山窯跡群Ⅰ」 1988 鳩山町教育委員会  
渡辺一 武野谷俊夫 「鳩山窯跡群Ⅱ」 1990 鳩山町教育委員会  
中平薫 「常木久保」 2003 日高市教育委員会  
中平薫 「拾石」 2018 日高市教育委員会、日高市遺跡調査会  
増川宏一 「ものと人間の文化史 59 碁」 1987 法政大学出版局  
増田忠彦 「囲碁 語園 下」 2009 大阪商科大学アミューズメント産業研究所  
斉藤稔他 「若葉台遺跡 S地点発掘調査報告書」 1989 鶴ヶ島町遺跡調査会  
斉藤稔他 「一天狗遺跡 J地点4区南・W地点 雷電池東遺跡 F地点 発掘調査報告書」 1996  
鶴ヶ島市遺跡調査会  
荒井健二他 「武蔵国府の調査 34 平成 13 年度府中市内発掘調査概報」 2006 府中市教育委員会  
府中市遺跡調査会  
前橋市教育委員会 「元総社蒼海遺跡群 (74)、(75)、(76)、(77)、(78)、(79)、(80)、(92)、(93)、  
(94)」 2017  
前橋市教育委員会 「上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅴ 推定上野国府」 2017  
前橋市教育委員会 「元総社中学校遺跡」 2016  
宇都宮市教育委員会 「うつのみや新発見伝—新資料速報 2009—」  
山梨県埋蔵文化財センター 「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 212 集 百々遺跡 2、4」  
2004 山梨県教育委員会  
三重県埋蔵文化財センター 「伊賀国府跡 第 4 次発掘調査報告」 1992  
三重県埋蔵文化財センター 「位田遺跡発掘調査報告」 1999  
(財)滋賀県文化財保護協会 「滋賀文化財だより No.235」 1997  
奈良市埋蔵文化財調査センター 「平成 25 年度秋季特別展 平城京を掘る」 2013  
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 「埋蔵文化財ニュース 41」 1986  
内藤正恒 「新版考古学講座 第 7 巻 有史文化下」 1964 雄山閣出版株式会社  
鳥羽嘉彦他 「菖蒲沢窯跡」 1991 塩尻市教育委員会  
荒井健二他 「武蔵国府関連遺跡調査報告 15」 1996 府中市教育委員会 府中市遺跡調査会



1区空中写真



2区全景

図版2



1号住居址遺物出土状況



1号住居址



1号住居址北カマド遺物出土状況



1号住居址北カマド



1号住居址東カマド



2号住居址遺物出土状況



2号住居址、1号土壙



2号住居址カマド



3号住居址



3号住居址カマド



4号住居址



4号住居址カマド



5号住居址遺物出土状況



5号住居址鳥形硯蓋出土状況



5号住居址



5号住居址東カマド

図版4



5号住居址北カマド



6号住居址遺物出土状況



6号住居址（東側）



6号住居址（西側）



6号住居址カマド



7号住居址



7号住居址カマド遺物出土状況



7号住居址カマド



8号住居址



8号住居址カマド



9号住居址遺物出土状況



9号住居址



9号住居址カマド



10号住居址遺物出土状況



10号住居址



10号住居址カマド遺物出土状況 1

図版6



10号住居址カマド遺物出土状況2



10号住居址カマド



11号住居址



11号住居址カマド遺物出土状況1



11号住居址カマド遺物出土状況2



11号住居址カマド



12号住居址



12号住居址カマド



13号住居址遺物出土状況



13号住居址



13号住居址カマド



14号住居址遺物出土状況1



14号住居址遺物出土状況2



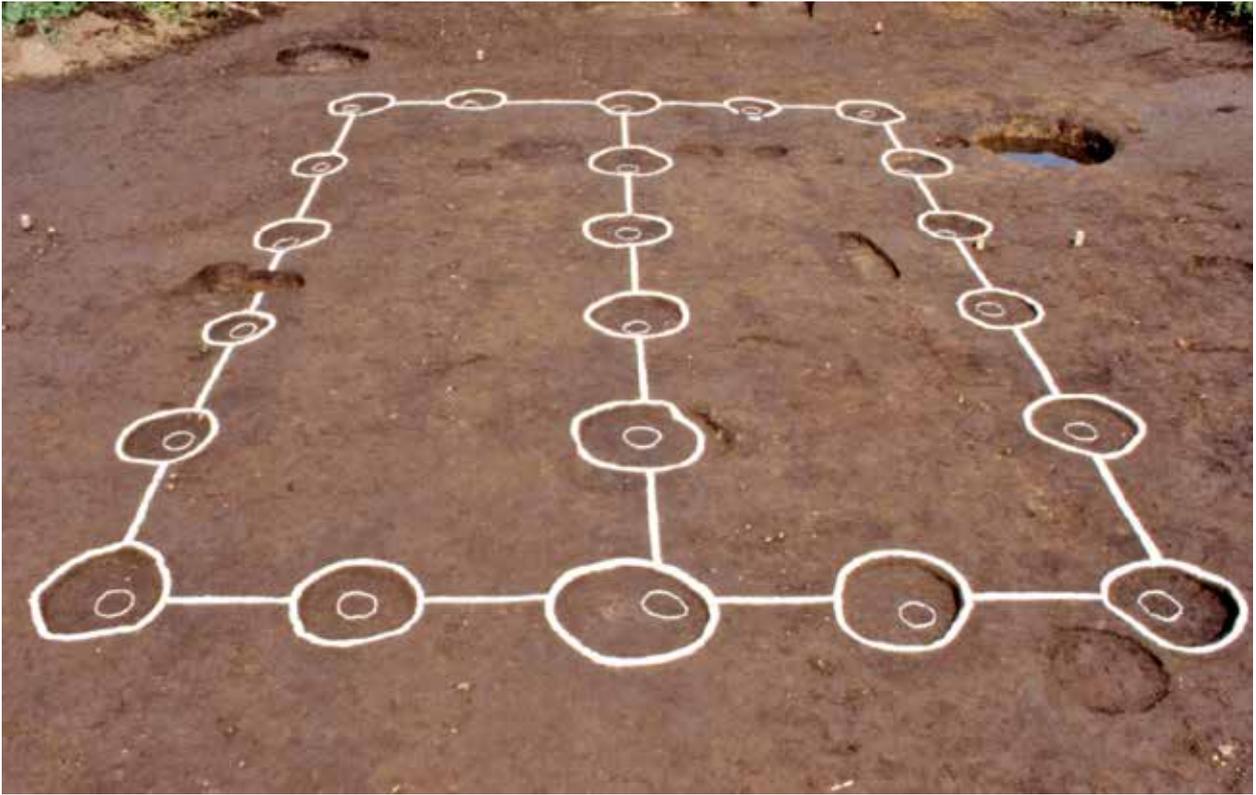
14号住居址鉄鏝出土状況



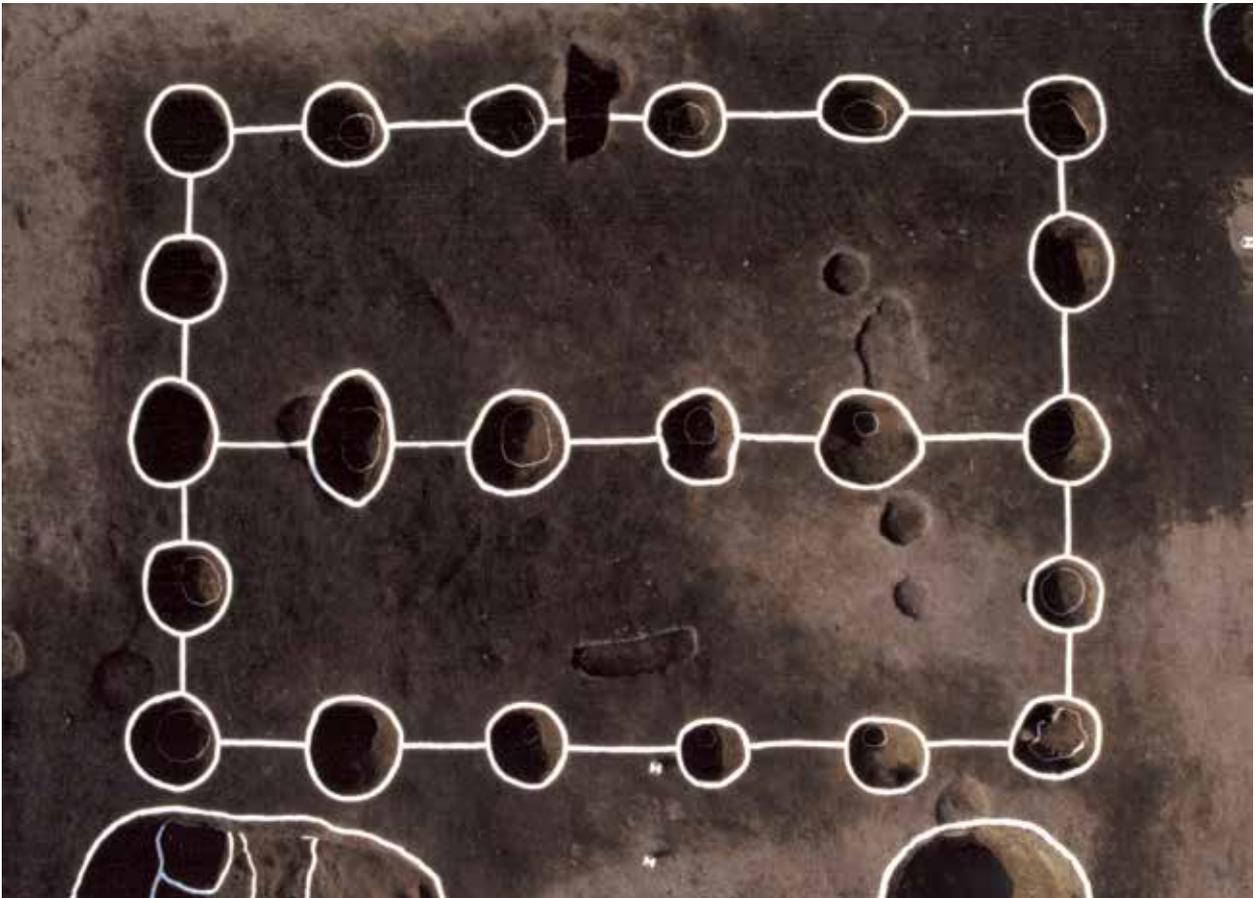
14号住居址



14号住居址カマド



1号掘立柱建物跡 柱痕確認状況



1号掘立柱建物跡



1号井戸址



2号井戸址



3号井戸址



道路遺構硬化面（西より）



道路遺構硬化面（中央～西側）



道路遺構硬化面下（西より）



道路遺構硬化面下（東より）



道路遺構



1号溝



2号溝



3号土壙



4号土壙



6号土壙



7号土壙



9号土壙



10号土壙



11号土壙



12号土壙

图版12



1



4



5



6



11



12



14



15



17



18



19



17



18



20



23



24



29



26

1号住居址出土遺物



5



6



7

2号住居址出土遺物 (1)



8



9



10



11



16



17



18



19



20



21



2号住居址出土遺物 (2)



1



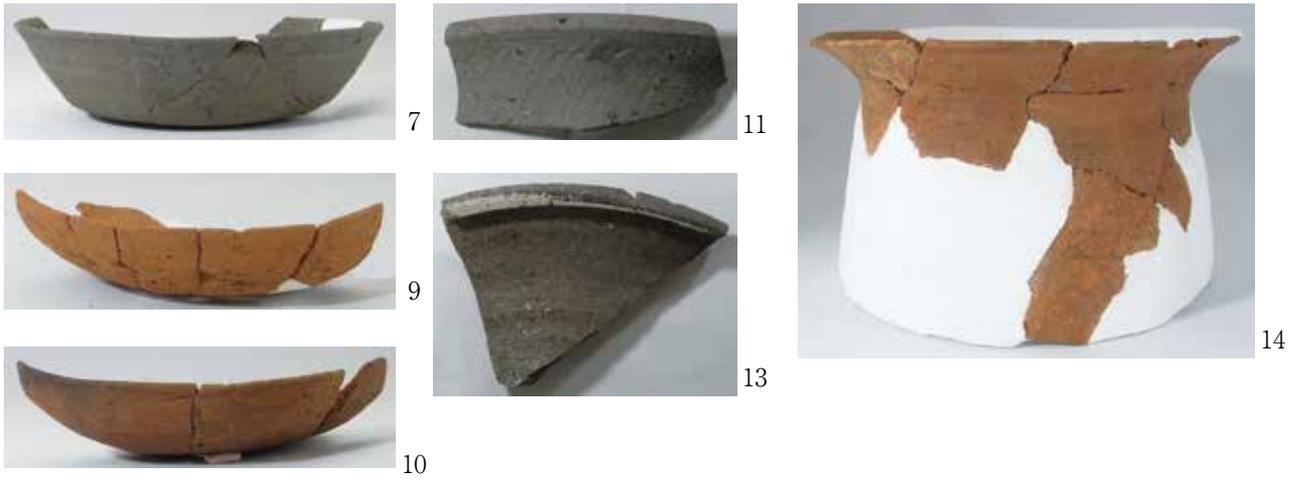
5



6

3号住居址出土遺物 (1)

图版14



3号住居址出土遺物 (2)



4号住居址出土遺物



5号住居址出土遺物(1)



18



19



5号住居址出土遺物 (2)



1



4

6号住居址出土遺物



7



3



9



8

7号住居址出土遺物



2

8号住居址出土遺物



8

图版16



9号住居址出土遺物

1



6



7



8



9



10



13



14



17



19



20



22



10号住居址出土遺物 (1)



10号住居址出土遺物 (2)



11号住居址出土遺物 (1)

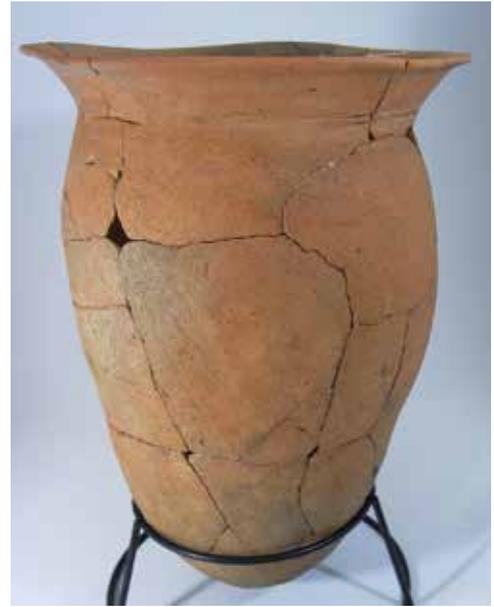
图版18



13



14



15



16



24



25



11号住居址出土遺物 (2)



2



8



11



12



14



13



15



12号住居址出土遺物 (1)



23



24



29



25



31

12号住居址出土遺物 (2)



1



7



5

13号住居址出土遺物



1



5



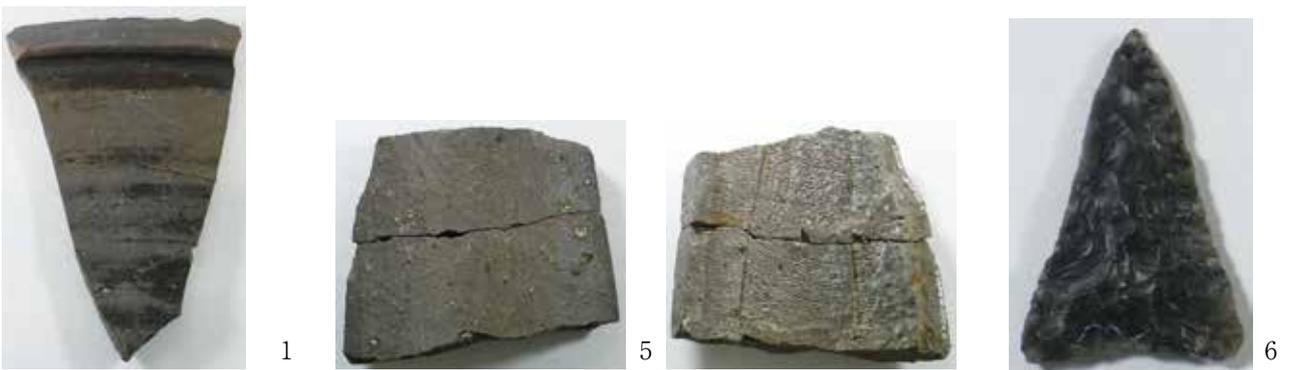
2

14号住居址出土遺物 (1)

图版20



14号住居址出土遺物 (2)



道路遺構出土遺物



7号土壙出土遺物

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	おうじん							
書名	王神遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	日高市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第40集							
編著者名	中平 薫							
編集機関	日高市教育委員会、日高市遺跡調査会							
所在地	〒350-1292 埼玉県日高市大字南平沢1020 TEL042-989-2111							
発行年月日	2019年9月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (° ′ ″)	東経 (° ′ ″)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村番号	遺跡番号					
おうじん 王神遺跡	さいたまけんひだかし 埼玉県日高市 おおあざたかはき 大字高萩 あざなかおうじん 字中王神	242	115	35度 54分 24秒	139度 22分 1秒	1996.05.21～ 1996.09.05 2002.11.05～ 2002.12.19	4,872.1  2,600	土地区画 整理事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
おうじん 王神遺跡	集落跡	縄文早期 奈良・平安 時期不明	奈良・平安時代住居 址 14軒 掘立柱建物跡 1棟 井戸 3基 道路遺構 1条 水路 1条 溝 2条 土壇 12基	須恵器 蓋、坏、 甕 土師器 坏、甕 平瓦、丸瓦 鉄鏝 鳥形硯 基石状土製品	鳥形硯、基石状石製 が出土。 桁行5間、梁行4間で、 桁行方向に中柱を伴 う掘立柱建物跡 1棟 を検出。 拾石遺跡から続く道 路遺構と水路遺構 を検出。

---

日高市埋蔵文化財調査報告書 第40集

王 神

発行日 令和元年9月25日

編集兼  
発行者 日高市遺跡調査会

---

印刷所 株式会社文化新聞社

発行所 日高市遺跡調査会  
埼玉県日高市大字南平沢1020

---